



# BizBoxServer ユーザーズマニュアル

「OS Pro」[4]

「OS Pro」[8]

「OS Pro」[12]

改版履歴

版数	日付	改定内容
初版	2020.06.22	初版
1.1 版	2020.09.07	・外付け HDD フォーマット時に暗号化用 USB メモリを間違えて選択しないよう内容を強化
2.0 版	2020.10.07	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FW3.02.08.9 リリースに合わせて修正 <ul style="list-style-type: none"> <li>- クラウドバックアップサービス開始に合わせての修正</li> <li>- キャプチャ画面の変更</li> </ul> </li> </ul>
2.01 版	2020.10.08	・文言等の修正
3.0 版	2021.01.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FW3.02.09.7 リリースによる修正</li> <li>第 4 章：システム管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>- コントロールパネル <ul style="list-style-type: none"> <li>- s</li> <li>- システムログ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ログ情報サマリ表の修正</li> </ul> </li> <li>- アクセスログ <ul style="list-style-type: none"> <li>・FTP ログを追記</li> </ul> </li> <li>- 通知 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャプチャ画面の変更</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>- 外付けデバイス <ul style="list-style-type: none"> <li>- 外付けハードディスク <ul style="list-style-type: none"> <li>・暗号化 USB メモリの初期化防止表示&amp;コメントの追記</li> <li>・注意書きの追記</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>- ファームウェア設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 設定管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャプチャ画面の変更</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>- サービス <ul style="list-style-type: none"> <li>- FTP <ul style="list-style-type: none"> <li>・FTP 機能の追記</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>- バックアップ <ul style="list-style-type: none"> <li>- クラウドバックアップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定表の記載内容をわかりやすく修正</li> <li>・クラウドバックアップ・サービス設定表の修正</li> <li>・Server バックアップの記載内容の修正</li> <li>・クラウドバックアップ表の修正</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>第 5 章：一般ユーザーログイン <ul style="list-style-type: none"> <li>- ログインインターフェース</li> <li>- アプリセンター <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリ更新方法の変更</li> </ul> </li> <li>- ClamAV <ul style="list-style-type: none"> <li>- 更新 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャプチャ画面の変更</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・その他</li> <li>第 4 章：システム管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>- アクセス権</li> <li>- ローカルアカウント <ul style="list-style-type: none"> <li>- ユーザー <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスワードの制限を追記</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> <li>フォントの調整と改ページの修正</li> </ul> </li></ul>

3.01 版	2021/3/10	図番を採番。表紙に NTT マーク、裏表紙に図番と N T T マーク記載
3.1 版	2021/5/07	クラウドバックアップのタスク実行中の注意事項の追記 ACL 設定における注意事項(フォルダ単位での設定を推奨)の追記
3.2 版	2021/08/31	第 4 章：システム管理 コントロールパネル 電源とハードウェア UPS 動作確認済み UPS 機器の追記 第 4 章：システム管理 コントロールパネル 設定管理 バックアップポート開放設定の注意追記 第 4 章：システム管理 コントロールパネル クラウドバックアップ 注意事項追記(DNS 設定、差分の発生原因) 第 4 章：システム管理 コントロールパネル フェイルオーバーにおける外付け HDD 同期対象条件の追記 第 4 章：システム管理 コントロールパネル フェイルオーバーにおける注意事 項 (ローカルアカウント数、スナップショット)の追記 第 5 章：一般ユーザログイン OrbWeb.me OrbWeb 設定 Orbweb 対応端末と OS(2020.8 末時点) 表差し替え 第 7 章：トラブルシューティング 更新したはずのファイルが戻っている・保存されていないの追記 4.WebUI 操作時に通信の途切れ・遅延が生じる場合の追記 補足 E：通信ポート一覧の挿入
3.3 版	2022/02/10	第 4 章 コントロールパネル ログと通知 システムログ 注意内容修正 ログ情報サマリ追記:仕様変更に伴うログ追記 アクセスログ RACA リリースに伴うイメージ差し替え・項目説明追加 通知 システムフェイルオーバー構成下の中内容追記 電源トハードウェア UPS FAQ から転載:製品選定に関する追記 ¥ FAQ から転載:UPS と電源スケジュールの同時利用手順  システム情報 システムステータス FW.VER.UP に伴うイメージ差し替え 外付けデバイス 外付けハードディスク USB デバイス標記変更に伴うイメージ差し替え・文言修正 対象 USB デバイス明示化  ファームウェア設定 設定管理

		<p>WebUI に標記に合わせた文言修正  USB デバイス標記変更に伴うイメージ差し替え・文言修正</p> <p>アクセス権  共有フォルダー  スナップショット  スナップショットの復元手順修正</p> <p>ローカルアカウント  ユーザー  FAQ 内容から転載:編集可能項目、パスワードのサジェスト</p> <p>ストレージ  RAID  文言修正・ログイン時注意追記</p> <p>サービス  FTP  注意補足追記</p> <p>VPN サービス  OpenVPN  VPN 不接続の対処策追記</p> <p>バックアップ  外付け HDD バックアップ  USB デバイスの標記変更によるイメージ差し替え・文言修正  仕様内容追記:注意補足追記</p> <p>クラウドバックアップ  アップロード容量制限値の仕様変更による修正  仕様内容の詳細追記:6 項目</p> <p>システムフェイルオーバー  スナップショット仕様内容追記:フォルダファイル数が多い場合の対応手順</p> <p>第 5 章  一般ユーザーログイン  アプリセンター  RACA リリースに伴うイメージ差し替え  Orbweb.Me  2022 年 3 月 31 日サービス終了イメージ挿入  プレビュー可能資料差し替え  Remote Access Connection Agent(RACA)  サービスリリースに伴う新規追記</p> <p>補足 E:通信ポート一覧  一覧資料差し替え</p>
3.4 版	2022/02/22	誤記訂正
3.5 版	2022/07/04	<p>第 4 章 : システム管理  Web 管理インターフェイス  アプリセンター イメージ差し替え 文言修正</p> <p>コントロールパネル  VPN サービス対応版にイメージ差し替え 文言追記</p> <p>ログと通知  システムログ ログ情報追記・削除  通知 gmail 設定について修正・新設定方法追記</p> <p>システム情報  システムステータス イメージ差し替え  モニター 文言追記</p>

		<p>ファームウェア設定  自動更新追記  設定管理修正</p> <p>バックアップ  クラウドバックアップ 文言追加・修正 画像差し替え</p> <p>システムファイルオーバー  注 2 追加  機能制限表更新 リモート VPN サポート STB 側も対象追加</p> <p>第 5 章:一般ユーザーログイン  ログインインターフェース  アプリセンター イメージ差し替え  Orbweb.me サービス終了にて本文削除</p> <p>第 6 章:お困りの時は  損傷したハードディスクドライブを交換したい  ハードディスクドライブの交換 注を追加</p> <p>第 7 章:トラブルシューティング  本製品にアクセスできない 文言追記</p> <p>補足 C: システムファイルオーバーQ&amp;A  補足追記</p> <p>補足 E:通信ポート一覧  表差し替え</p>
3.7 版	2023/12/8	<p>取扱説明書 (安全におつかいいただくために)  要注意 追加</p> <p>第 4 章:システム管理  ログと通知  システムログ ログ情報追記・削除</p> <p>第 6 章:お困りの時は  損傷したハードディスクドライブを交換したい  RAID 再構成のログ表示を追加</p>
4.0 版	2024/10/23	<p>第 4 章:システム管理  Web 管理インターフェース  アプリセンター 画像差し替え</p> <p>コントロールパネル  ログと通知 画像差し替え 表説明修正 注削除  外付けデバイス 画像差し替え 表説明追加 説明追加  ファームウェア設定 画像差し替え</p> <p>アクセス権  共有フォルダー フォルダの追加 画像差し替え  スナップショット 画像差し替え 説明追加・変更  スナップショットの復元追加</p> <p>ローカルアカウント 画像差し替え  ユーザー 画像差し替え 表修正 説明修正 禁止ユーザー名追加  バッチ処理 画像差し替え  ユーザーの削除 画像差し替え  バックアップと復元 追加</p> <p>バックアップ  外付け HDD バックアップ 画像差し替え 表修正  フィルターの拡張子追加(オフィス:rtf、写  真:ai,eps,gif,jpeg,psd,tiff、ビデオ:m4a,mov,rmvb,wmv、音  楽:aif,flac) acc を aac に修正</p>

		<p>クラウドバックアップ 画像差し替え 表修正</p> <p>第 5 章：一般ユーザーログイン</p> <p>ログインインターフェース</p> <p>アプリセンター 画像差し替え スキャン対象フォルダ 15 個に修正</p> <p>第 6 章:お困りの時は</p> <p>RAID/USBHDD が復号できない</p> <p>RAID 暗号の復号処理失敗とファイルシステム修復をここに新設する</p> <p>第 7 章：トラブルシューティング</p> <p>高負荷時・メモリ不足時の対策 をここに新設する</p> <p>本製品にアクセスできない</p> <p>3.RAID 暗号化が復号できない可能性 説明修正</p> <p>4.起動不良 追加</p>
--	--	---

## 本マニュアルについて

- 本マニュアルの内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がございましたら代理店、または販売店までご連絡ください。
- マニュアルの内容に関して、将来予告なしに変更することがあります。
- ファームウェアやインストールされているアプリ等のバージョンは、マニュアルと実機で異なる場合があります。
- 画面イメージは、バージョンにより異なる場合があります。

製品名：NTT 西日本 BizBoxServer「OS Pro」(以下「本製品」)

## 保証範囲

本製品は、保証書記載の内容にて保証いたします。

ただし、どのような場合においても、データの損失及び、データ損失により発生した損害を補償するものではありません。必要なデータにつきましては、お客様にてバックアップを行うことを強くお勧めいたします。

# 取扱説明書(安全にお使いいただくために)

## 取扱説明書

### 安全にお使いいただくために BizBox Server

「OS Pro」「4」「8」「12」

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
この取扱説明書には、BizBox Server OS Proシリーズの使用方法や安全にお取り扱いいただくための注意事項などを記載しています。  
本誌の内容を十分にご理解いただいた上で本製品をお使いください。  
また、本誌はいつでも読むことができる場所に大切に保管してください。

#### ■表示について

本誌では以下のような表示を使用して警告・注意事項を説明しています。

	禁止事項を示す記号です。
	本製品の分解を禁止することを示す記号です。
	水がかかる場所での使用を禁止することを示す記号です。
	濡れた手で本製品に触れるのを禁止することを示す記号です。
	必ず実施すべきことを示す記号です。
	電源プラグをコンセントから抜くことを示す記号です。
	アース接続して使用することを示す記号です。

#### 警告 誤った取り扱いをした場合に、死亡または重傷を負う危険性がある項目です。

	本製品を温度の高い場所に置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
	本製品を火気の近くに置かないでください。火災、故障の原因となることがあります。
	本製品の通風口や開口部から、内部に異物を入れないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。
	本製品の上に物を載せないでください。火災や故障の原因となることがあります。
	本製品の通風口をふさがないでください。通風口をふさぐと内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
	本製品の分解、改造は行わないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。
	本製品をぬらさないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。
	ぬれた手で本体や電源プラグや電源ケーブルに触らないでください。感電、故障の原因となることがあります。
	電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。差し込みが不十分のまま使用すると火災、感電、故障の原因となることがあります。
	電源プラグのほこりやゴミは定期的に取り除いてください。電源プラグにほこりやゴミがたまると火災の原因となることがあります。
	落雷の恐れのあるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用をお控えください。火災、感電の原因となることがあります。

	故障や異常が発生した場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、故障の原因となることがあります。
	アース線を必ず接続して使用してください。接続しないで使用すると、万一漏電した場合に火災や感電の原因となることがあります。

#### 注意

	ほこりがたまりやすい場所、床などに設置しないでください。冷却ファンの故障の原因となり、本体の故障につながります。
---	--

#### 注意 誤った取り扱いをした場合に、軽傷または物的損害に結びつく危険性がある項目です。

	付属の電源ケーブル以外は、使用しないでください。故障の原因となります。
	本製品は振動や衝撃の少ない水平で安定した場所に設置し、装置の落下、転倒、窓からの飛び出しなどを防ぐため、地震、落下対策を実施してください。
	本体は、足が下になるように置いてください。横置きなど誤った置き方をすると倒れたり落下したりして故障の原因となることがあります。

#### ■データのバックアップについて

万一に備え、本製品内に保存をおこなう重要なデータについては必ず定期的にバックアップを実施してください。  
本製品の保存データの毀損・消失などについて、弊社は一切の責任を負いかねます。

#### ■UPSの導入について

本製品をUPS（無停電電源装置）に接続することにより、予期せぬ停電等による障害を回避できる可能性が高くなります。UPSの導入をお薦めいたします。

#### ■使用上のご注意

- ・本製品の誤った使用により発生するあらゆる損失につきまして弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
  - ・本製品では、CADやデータベース(SQLサーバー等)等、頻繁にリアルタイムで高速なアクセスを必要とするアプリケーションのファイルを直接保存して利用することは想定しておりません。  
高負荷がかかりトラブルの原因となることがありますので、バックアップ以外でそのようなアプリケーションのファイルの保存は行わないでください。
  - ・周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音がかかる場合があります。この場合は本製品の設置場所、向きを変えてみてください。
  - ・電源が入った状態で本体に衝撃を加えたり、電源ケーブルをコンセントから抜かないでください。故障の原因となります。
  - ・本製品に搭載されているハードディスクドライブを電源が入った状態で抜き差ししないでください。故障の原因となります。
  - ・動作中、不意なシャットダウンや電源断をおこなわないでください。故障の原因となります。また、予期せぬ電源断が行われる可能性がありますので、製品動作中に必要なく電源ボタンに触らないようご注意ください。
- 本製品の設置環境と保管温度は、次の内容にご注意ください。
- ①左右は少なくとも5cm以上、背面は10cm以上の隙間を確保すること
  - ②熱を発する機器のそばには置かない。
  - ③埃がたまりやすい場所、床などに設置をしない。
- ・動作温度： 0℃～40℃ 湿度：5～90%（結露しないこと）
  - ・保管温度： -10℃～50℃ 湿度：5～90%（結露しないこと）
  - ・本製品を廃棄する場合はお住いの自治体の指示に従ってください。

# 目次

本マニュアルについて .....	7
保証範囲 .....	7
取扱説明書(安全にお使いいただくために) .....	8
目次 .....	9
<b>第 1 章 : はじめに .....</b>	<b>12</b>
概略 .....	12
製品の主な特徴 .....	12
ファームウェアのアップデート .....	12
梱包内容 .....	13
BizBoxServer「OS Pro」 .....	14
前面パネル .....	14
背面パネル .....	15
<b>第 2 章 : ハードウェアの取付け設定 .....</b>	<b>16</b>
概略 .....	16
始める前に .....	16
ケーブル接続 .....	16
<b>第 3 章 : 最初の設定 .....</b>	<b>18</b>
概略 .....	18
本体前面操作パネル (LCD と 4 つのボタンのセット (以下、LCM) ) .....	18
<b>第 4 章: システム管理 .....</b>	<b>20</b>
概要 .....	20
Web 管理インターフェース .....	20
メニューツリー .....	23
システムログ情報のクイック表示 .....	24
システムのリソースモニター .....	25
システムのシャットダウンとリポート .....	26
パスワードの変更 .....	26
ディスプレイモジュール(LCM ディスプレイ)のパスワード .....	27
ログアウト .....	27
アプリセンター .....	28
コントロールパネル .....	31
ログと通知 .....	32
電源とハードウェア .....	57
システム情報 .....	63
ネットワーク .....	66
地域オプション .....	69
外付けデバイス .....	71

モニター .....	75
ファームウェア設定 .....	77
アクセス権 .....	82
共有フォルダー .....	82
ローカルアカウント .....	95
ストレージ .....	113
ディスクと RAID .....	113
SSD キャッシュ .....	116
サービス .....	117
ファイルサービス .....	117
<b>Samba サービス</b> .....	117
FTP .....	122
VPN サービス .....	124
バックアップ .....	126
外付け HDD バックアップ .....	126
クラウドバックアップ .....	136
システムファイルオーバー .....	146
<b>第 5 章: 一般ユーザーログイン</b> .....	<b>155</b>
概要 .....	155
ログインインターフェース .....	155
メニューツリー .....	158
システムのリソースモニターのクイック表示 .....	159
一般的な設定 .....	160
言語の変更 .....	160
お好み設定 .....	160
パスワードの変更 .....	161
ディスプレイモジュール(LCM)のパスワードの変更 .....	161
ログアウト .....	161
アプリセンター .....	162
ClamAV® .....	164
スキャン .....	164
更新 .....	166
隔離 .....	168
削除 .....	168
Orbweb.me® .....	169
Remote Access Connection Agent(RACA) .....	170
利用の流れ .....	171
RACA の設定 .....	172
RACA の使い方 .....	174
ファイル共有 .....	181
リモートアクセスのログ .....	185

その他注意事項.....	186
ファイルセンター .....	187
<b>第 6 章: お困りの時は.....</b>	<b>192</b>
Windows から 本製品 にアクセスしたい.....	201
関連するログインユーザーアカウントを用いる共有フォルダーへアクセスしたい.....	201
アクセスできない場合には .....	202
ファイル編集できない場合は.....	203
損傷したハードディスクドライブを交換したい .....	204
RAID 再構成のログ表示.....	204
ハードディスクドライブの損傷 .....	204
ハードディスクドライブの交換 .....	204
RAID の自動リビルド .....	204
LCM RAID ビルド/リビルド進捗状況表示.....	205
時間と日付の設定がずれている .....	205
Web 管理インターフェースの WebAdmin パスワードを忘れてしまった .....	205
LCM から IP アドレスの設定を変更したい.....	206
<b>第 7 章: トラブルシューティング.....</b>	<b>207</b>
ネットワーク IP アドレスを忘れた場合 .....	208
アクセス権限設定後もアクセスできない.....	208
更新したはずのファイルが戻っている・保存されていない。.....	208
本製品にアクセスできない .....	209
以上でも解決しない場合 .....	210
<b>補足 A: ブザー・リスト.....</b>	<b>211</b>
<b>補足 B: RAID の基本 .....</b>	<b>211</b>
概 略.....	211
利 点 .....	211
性能の向上 .....	211
データ・セキュリティ .....	211
RAID レベル .....	211
RAID 1 (BizBoxServer 「OS Pro」[4]) .....	211
RAID 5 (BizBoxServer 「OS Pro」[8]/[12]).....	211
<b>補足 C: システムフェイルオーバーQ&amp;A.....</b>	<b>212</b>
<b>補足 D: システム LED 表示リスト.....</b>	<b>213</b>
<b>補足 E:通信ポート一覧.....</b>	<b>213</b>

# 第 1 章 : はじめに

## 概 略

本製品をお選びいただきまして、ありがとうございます。本製品はストレージサーバーであり、データの信頼性は、RAID 機能、外付け HDD へのローカルバックアップ機能により保証されます。本製品があれば、Windows(SMB)、MacOS(SMB)環境間でのデータ整合性と共有が可能になります。また、本製品の GUI は、日本語対応です。

## 製品の主な特徴

### ファイル・サーバー

本製品は、IP ネットワーク上でのファイルの保存と共有を可能にします。ネットワーク上でのファイルの集中管理が簡単に行えます。また、OS Pro の管理インターフェースを Web ユーザーインターフェースにより提供します。

### 電源管理

本製品は、管理インターフェースにより、システムの電源の On 、 Off をスケジュール管理することができます。

### ディスク容量

4 TB、8 TB、1 2 TB の各モデルを用意しており、お客様が保存できる最大容量は、それぞれの容量の 95%程度です。

## ファームウェアのアップデート

本製品では、機能追加／変更／改善等のためにファームウェアを提供します。

ファームウェアのアップデートは、自動的に適応され自動再起動します。(初期値 : 毎週土曜日 01:45)

## 梱包内容

本製品に同梱されている付属品は次の通りです。

すべて同梱されているか確認の上、不足しているものがあれば、販売店にお問い合わせください。

- システム 本体 x1 (「OS Pro」「4」「8」「12」のいずれか)
- USB メモリ x1 (本体前面に実装済みで出荷されております。)
- USB ケーブル x1
- HDD トレー鍵 x 2
- 電源ケーブル x1
- クイックガイド x1
- ソフトウェア使用許諾契約書 x1
- 保証書 x 1

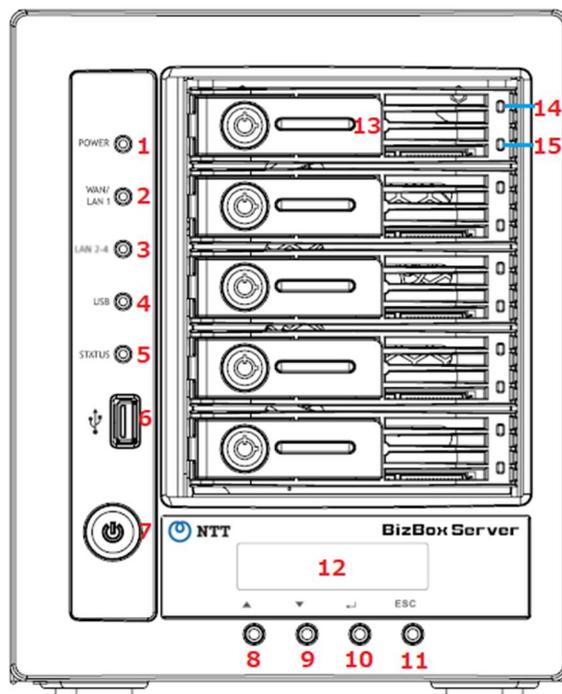
※同梱物を紛失した場合には、ご購入いただくこととなりますので紛失しないよう大切に保管もしくは、ご利用ください。

# BizBoxServer「OS Pro」

## 前面パネル

本製品の正面パネルにはデバイスのコントロール、インジケータ、およびハードディスクトレイが付いています。

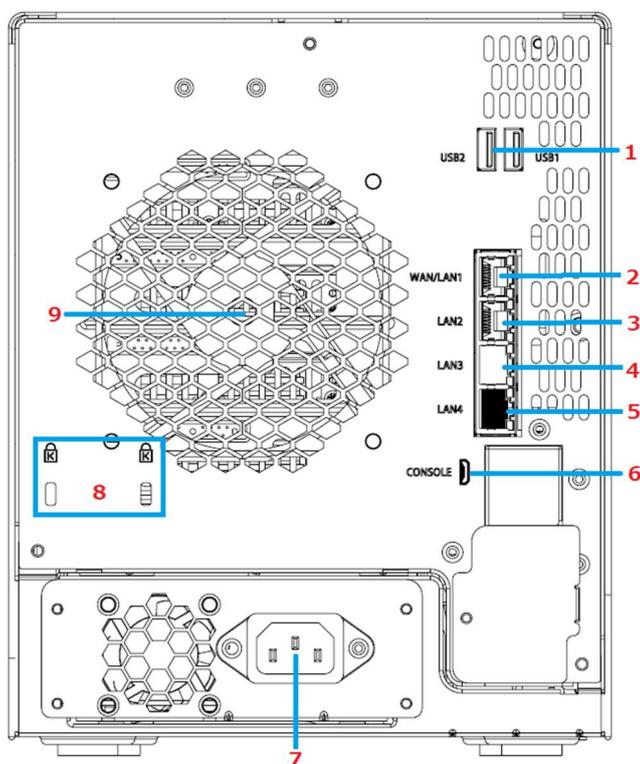
※LED ランプは各項目の状態を点灯、点滅または色の変化により示します。各 LED ランプの状態、意味については下の表を確認してください。



前面パネル	
項目	説明
1. 電源 LED	・白色に点灯： システム電源が On。
2.WAN/LAN1 LED	・白色に点滅： ネットワークにリンク、データ送受信中
3.LAN2-4 LED	・白色に点滅： ネットワークにリンク、データ送受信中
4.USB LED	・白色に点灯： USB メモリ接続中、データ送受信中
5.システム LED	・白色に点灯： システム起動中またはアップグレード中。(※) ・赤色に点灯： システム・エラー。
6. USB ポート (USB2.0x1)	・付属の USB メモリを実装して出荷しています。(暗号化キー保存用)
7. 電源ボタン	・電源オン： ボタンを押します。 ・電源オフ： ボタンを 1 秒程度押した後、一度離し再度押します。(二度押し) ・強制電源オフ： ボタンを 4 秒以上長押しします。
8.Up ボタン ▲	・LCD ディスプレイの使用時に押すと、スクロール・アップします。
9.Down ボタン ▼	・LCD ディスプレイの使用時に押すと、スクロール・ダウンします。
10.入力ボタン (エンター)	・パスワード入力画面を表示します。スクロールで選んだものを入力したり決定をします。
11.エスケープ・ボタン ESC	・現在の LCM メニューを終了します。
12.LCD ディスプレイ	・システムの現在の状態と警告メッセージを表示します。
13.HDD トレイ	・3.5" SATA HDD トレイ x 5・セキュリティ用にロック機構あり。
14.トレイ上段ランプ	・白色に点灯： HDD の電源オン
15.トレイ下段ランプ	・緑色に点滅： HDD にアクセス中 ・赤色に点滅： HDD Fail (エラー)

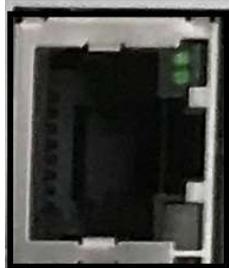
※システム LED：ステータスにより白色点滅します。詳細は、補足 D を参照ください。

## 背面パネル



背面パネル	
項目	説明
1.USB ポート (USB3.0 x2)	USB メモリや外付け HDD、および UPS 接続用に利用します。
2.WAN/LAN1 ポート	通常使用するときはこのポートに LAN ケーブルを接続します。
3.LAN2 ポート	別のサブネットネットワークに接続する時に使用します。
4.LAN3 ポート(白)	システムフェイルオーバー使用時の対向機器の死活監視の時に使います。白いキャップで保護しています。
5.LAN4 ポート(黒)	保守用ポートのため使用しません。黒いキャップで保護しています。
6.MicroUSB ポート	保守用のポートのため使用しません。
7.電源コネクタ	付属の電源ケーブルをこのコネクタに接続します。
8.ケンジントロック スロット	防犯用のワイヤーを設置することができます。(スロットサイズ 3x7mm、2つのスロット間隔 30mm スロットを2つ共使用する場合はお互い干渉する場合がありますのでサイズにお気をつけください。)
9.システムファン	装置から熱を排出するシステムファンです。

## 各 LAN ポートの LED 点灯



LANポート	場所	カラー	ステータス
WAN/LAN1 LAN2 LAN3 LAN4	上段:データ送受信/リンク	緑色	1.リンク:緑点灯
			2.データ送受信:緑点滅
			3.LANケーブル未接続:消灯
LAN2 LAN3 LAN4	下段:SPEED	緑色/橙色	1.1G:緑点灯
			2.100M:橙色点灯
			3.100M以下:消灯

## 第 2 章：ハードウェアの取付け設定

### 概略

ハードウェア取付け設定時に、機器が損傷するのを防止するため、設定の前に必ずお読みください。

### 始める前に

作業を始める前に、次の予防策を講じてください。

1. マニュアルの最初に概説した**安全にお使いいただくために**を読み、理解すること。
2. 取り付けの間、静電防止用リスト・ストラップを身につけて、静電気放電による破壊（静電破壊）を防ぐこと。
3. 本製品の電子構成部品の周辺にマグネット・ドライバを使わないように注意すること。

### ケーブル接続

本製品にネットワークを接続するには、以下のステップに従ってください。

1. 本製品の背面パネルの WAN/LAN1 ポートにイーサネットケーブルを接続します。



LAN ポート

各ポートについて

WAN/LAN1 通常使用するポートです。

LAN2 異なるサブネットを使用する際に使います。

LAN3 システムフェイルオーバーを使用する際に使います。

LAN4 メンテナンス用ポートです。

2. 付属の電源コードを背面パネルの電源ソケットに接続します。着脱防止機構付きコードのため、両端のスイッチを押しながらソケットに差し込みます。コードのもう一方の端をサージ保護されたソケットに差し込みます。



電源ソケット

3. 電源ボタンを押して本製品の電源を入れます。  
電源を切るときは、1 秒程度押し、一度離して再度押します。（二度押し）



電源ボタン

## 第 3 章 : 最初の設定

### 概 略

本製品は、ハードウェアを取り付け後、ネットワークに接続して電源を入れたら直ぐに、ネットワーク・ユーザーが利用できるようにすることが可能です。本製品の設定は液晶モニター（以下、「LCD」）を利用し、次の手順でソフトウェアの初期設定を行います。

### 本体前面操作パネル（LCD と 4 つのボタンのセット（以下、LCM））

本体前面の LCM で、様々な情報の表示、設定が可能です。  
ボタンを操作することで色々な情報を表示させたり、設定を行ったりすることができます。



### LCD で表示/設定できること

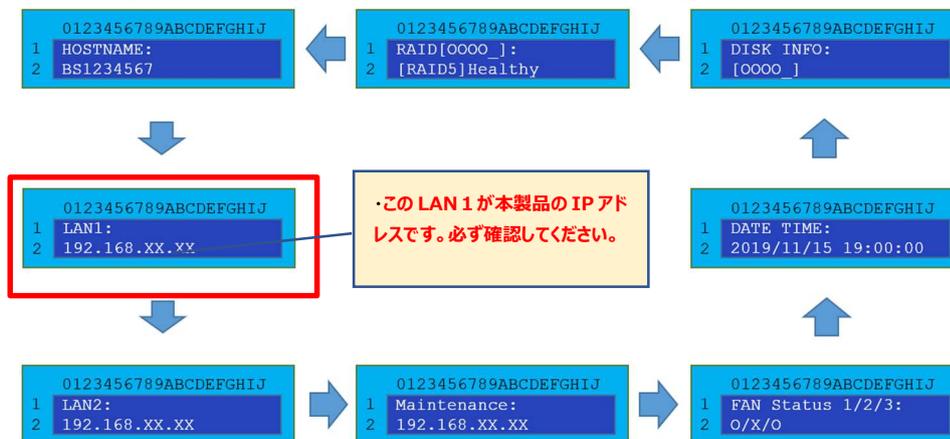
#### ① 起動の状態

電源が入り本製品の OS が起動して利用可能になるまでのステータス変化を表示します。NAS Start Monitor と表示されると起動シーケンスが終了した合図です。

#### ② ローテーション

本製品が起動すると下図のように 3 秒毎に画面を更新して様々な情報を表示します。

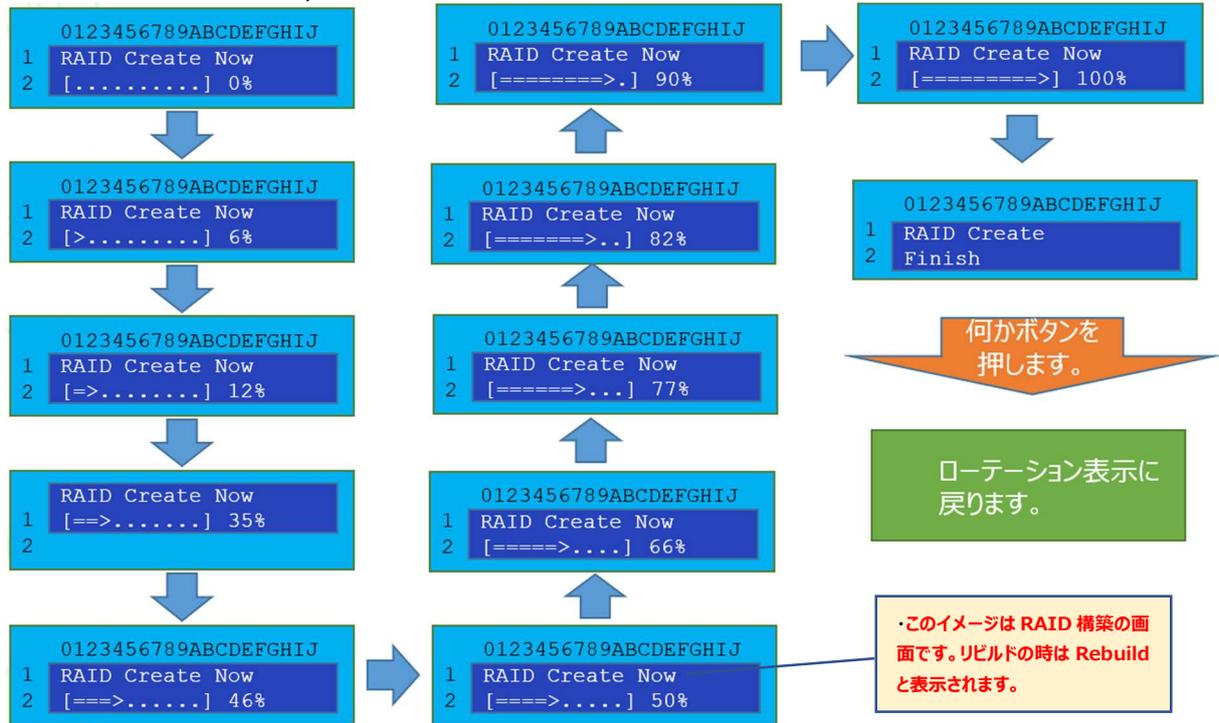
DHCP で割り振られた本製品の IP アドレスは、この LAN 1 で確認します。



### ③ RAID 構築/リビルドの表示

WebUI で RAID の構築/リビルドが開始されると連動して LCD でもその進捗状況が表示されます。本作業は非常に時間を要し、サーバーの負荷が高くなります。この最中に電源が切断されるとデータの損失につながりますのでご注意ください。

本製品ではこの RAID 構築/リビルドについて WebUI に限らず、LCD のみで、進捗状況の閲覧が可能です。



### ④設定

ローテーション表示中に【↵キー】(Enter キー)を押すとパスワード入力画面になります。



Enter キーを 4 回押すと「0000」が入力されます。これでパスワードが解除できます。

初期パスワードは[0000]です。

- ▲/▼ 押した回数分、「<」(バックスペース)と数字が降順/昇順で変化します。
- ↵(Enter)キー 入力が決定します。表示されている数字またはバックスペースを入力します。  
「<」のバックスペースが表示されている時に Enter を押すと一文字削除されます。
- ESC キー キャンセルします。

## 第 4 章: システム管理

### 概要

本製品の **Web 管理インターフェース**を用いることで、ネットワーク上のどこからでも、サーバーの管理、監視を行うことができます。利用するブラウザ、PC によって画面が表示枠に収まらない場合があります。その際には、ブラウザのズーム機能を利用して表示範囲を広げてご利用ください。推奨するブラウザについては、以下を推奨しております。

OS	Windows8.1/10/11	MacOS(Catalina/Big Sur/Monterey)
ブラウザ	GoogleChrome52 以上、Microsoft Edge(Chromium 版)	Safari (プライベートブラウズ※機能を使用すること)

※Safari 起動後、「メニューバー」の「ファイル」から「新規プライベートウィンドウ」を開くとプライベートブラウズになります。

### Web 管理インターフェース

ご利用のネットワークがインターネットに接続されていることを確認してください。本製品にアクセスするために、**Web 管理インターフェース**で以下の作業を行います：

1. 本製品の IP アドレスをブラウザに入力します。初期状態では DHCP による自動設定となります。IP アドレスは、LCD で確認してください。



## 注

ご利用のコンピュータのネットワーク IP アドレスが、本製品と同じサブネット上に存在する必要があります。例として、本製品の IP アドレスが、192.168.1.110 である場合、管理 PC の IP アドレスは、192.168.1.x である必要があります。ここで、x は、1 から 254 の 110 を除く数字です。

IP アドレスは、4 つのオクテットにより構成されており 1 オクテットは、0-255=0xFF が利用できます。サブネットマスクでは、このオクテットで利用する範囲をオクテットごとにマスクするかを指定します。ここでは、1 から 3 オクテットはマスクしないため 0xFF=255 を指定します。4 オクテットは、すべて利用を許可するために 0x00=0 を指定します。つまりサブネットマスクは 255.255.255.0 となります。

2. 管理者ユーザー名とパスワードを使って、システムにログインします。工場出荷時デフォルト設定は、次の通りです：

**ユーザー名 : WebAdmin**

**パスワード : customeradmin**

※パスワードは変更可能です。

※電源起動後、再起動後は約 3 分経過後のピープ音(ピーピピピ)が鳴った後にログインするようお願いいたします。起動後のログインが早すぎる場合は、以下のようにシステム起動中です。と表示されますのでしばらくお待ちいただいてから再度ログインを行うようにしてください。



管理者としてログインすると、次図のように免責事項ウィンドウが表示されます。

画面は、[ OK ] を押下することで閉じることができます。

次回ログイン時にこのウィンドウを表示したくない場合は、チェックボックスにチェックを入れて[ OK ] を押下してください。

なお、本ウィンドウについては、オンサイトスタッフが設定を行う場合、お客様が直接目にする可能性もあります。

## 免責事項



当社は本製品の故意による破損及び自然災害による破損に対する一切の責任を負いません。また、本製品内のデータ破損、データ損失、データ復旧、修理検査及び本製品の修理検査のための本製品の取り外し・設置工事など一切の責任並びに費用を負いません。必要なデータは、お客様自身にてバックアップを作成してください。お客様が当社の注意事項に違反、またはバックアップの作成を怠ったためにデータを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、当社はその一切の責任を負いません。本製品は日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、当社は本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

同意します。次回は表示しない。

OK

## メニューツリー

メニューツリーには、本製品のすべての情報画面およびシステム設定が表示されます。メニューバー上の次のグループに各種設定が配置されます。



	項目	説明
①	コントロールパネル	システムおよび機能設定に入ります
②	アプリセンター	アプリセンターに入ります。
③	ファイルセンター	ファイルセンターに入ります。

これらの項目をクリックすると、各項目の関連画面が表示されます。

## ショートカットの追加/削除

ユーザーインターフェースを用いて、ユーザーは、ショートカットの追加により、良く使用する項目を指定してメイン画面領域に表示することができます。



管理者は、各機能画面で、マウスを右クリックし、「ショートカットの追加」アイコンを選択することで、ショートカットを追加または削除することができます。上図の赤枠で囲まれたアイコンを参照してください。

メイン画面から「ショートカット」を削除するには、マウスの右ボタンをクリックして「ショートカットの削除」を選択します。



以下のセクションでは、各機能の詳細な説明、および、本製品を設定する方法を紹介します。

## システムログ情報のクイック表示

メニューバーの右上隅で、 をクリックします。システムログ情報が表示されます。  
表示タブから各情報を選択すると、該当情報のみ表示されます。



## システムのリソースモニター



メニューバーの右上隅で、



をクリックすると、システムリソースモニター情報 (CPU、メモリーおよびストレージの使用状況) が表示されます。

## システムのシャットダウンとリブート

メニューバーの右上隅で、をクリックします。これは、システムをシャットダウンまたは再起動するためのショートカットです。※システムフェイルオーバーを構築している場合、スタンバイ機ではこのボタンは表示されなくなり、WebUI からのシャットダウン、再起動を任意に行うことが出来なくなります。第 4 章 システム管理 バックアップシステムフェイルオーバーの注 3 参照



## パスワードの変更

- ① メニューバーの右上隅で、をクリックします。これは、パスワードの変更、ディスプレイモジュールのパスワードを変更とログアウトのためのショートカットです。

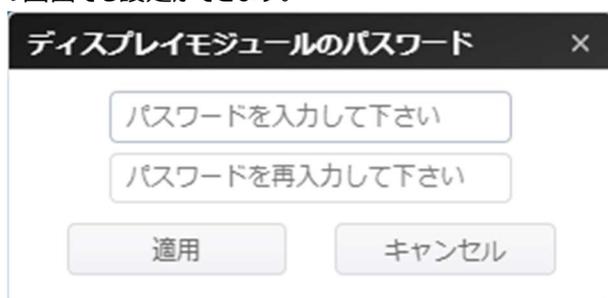


- ② **パスワード**項目を選択すると、[ **パスワードの変更** ] 画面が表示されます。
- ③ **新しいパスワード**ボックスに新しいパスワードを入力し、**確認**ボックスに新しいパスワードを確認のため再入力します。[ **変更** ] を押下して、パスワードを確定します。



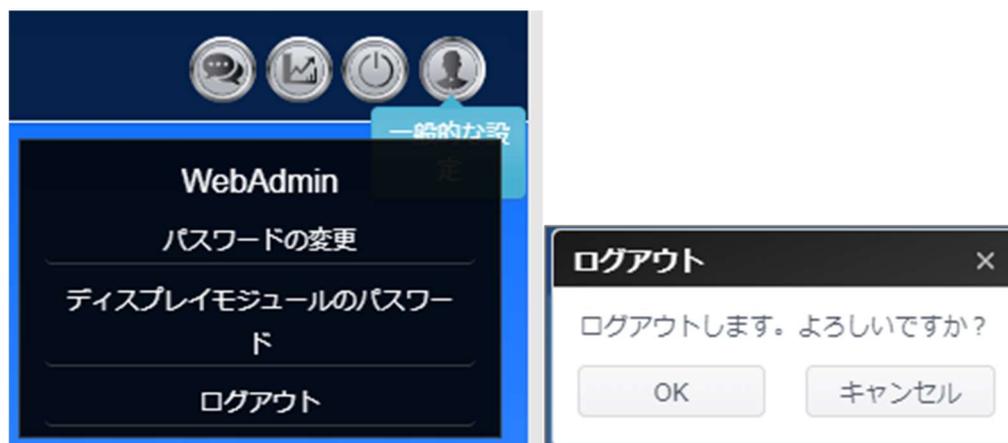
## ディスプレイモジュール(LCM ディスプレイ)のパスワード

- ① メニューバーの右上隅で、**ディスプレイモジュール (LCM ディスプレイ) のパスワード**項目を選択します。
- ② 上段のテキストボックスに新しいパスワードを入力し、下段のテキストボックスに確認のため再入力します。
- ③ **[ 変更 ]** を押下して、パスワードを確定します。
  - \* なお、ディスプレイモジュールのパスワード初期値は“0000”です。
  - \* この設定は LCD の画面でも設定ができます。



## ログアウト

[ ログアウト ] を押下して、Web 管理インターフェースを終了します。



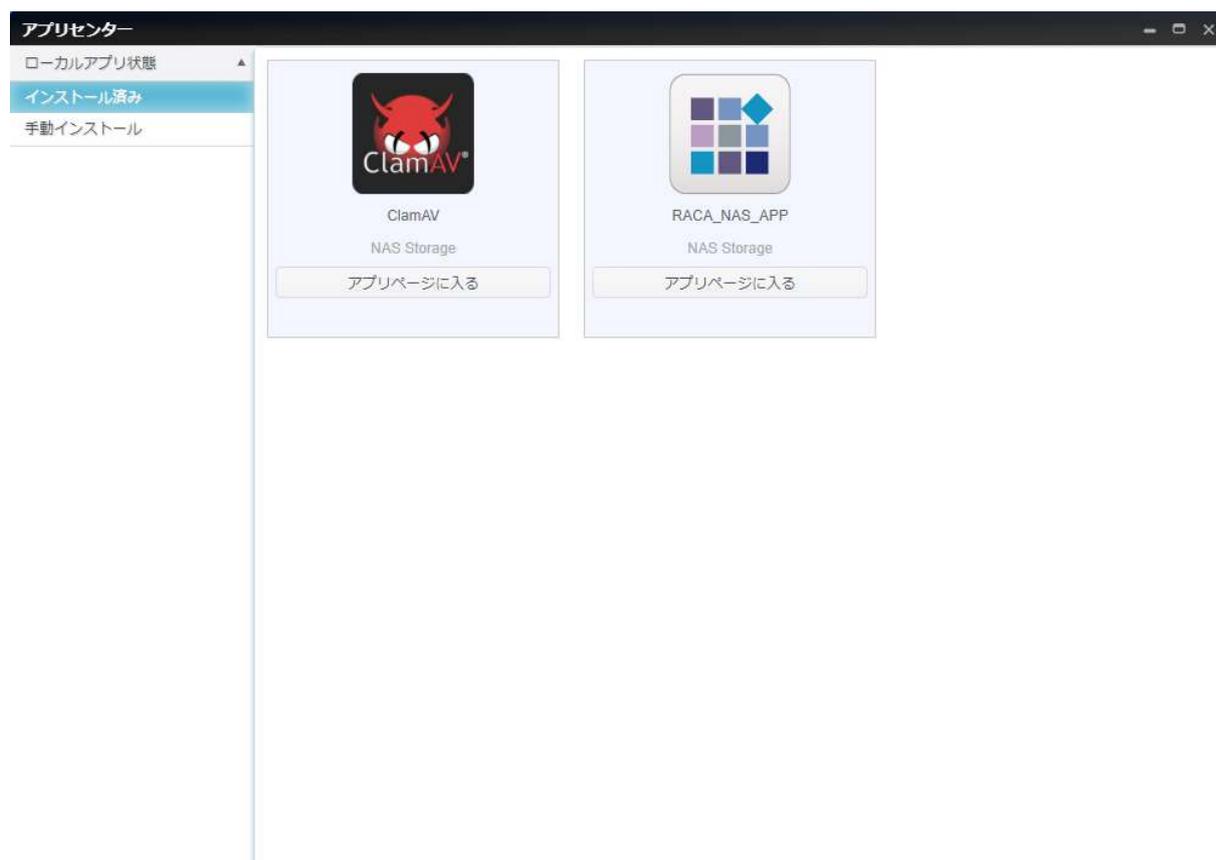
## アプリセンター

※一般ユーザーには、アプリセンターは表示されません。



**アプリセンター**では、本製品に対応したアプリケーションを使用する事ができます。アプリセンターアイコンを押下します。下のよう画面が表示されます。最初からインストールされた「インストール済みアプリケーション」が一覧表示されます。

※アプリセンターの各アプリのインターフェイス、デザインなどはバージョンアップ等で予告なく変更する場合があります。



関連するアプリの詳細を表示するには、アプリアイコンを押下して、ウィンドウを開きます。関連するアプリを実行するには、「アプリページに入る」を押下します。



**説明:**

ClamAV® は、トロイの木馬、ウイルス、マルウェア等の悪質な脅威を検出するためのオープンソース(GPL)のウイルス検出エンジンです。

**スタンダード**

ClamAV® は、メールゲートウェイスキャン用のオープンソース(GPL)ソフトウェアです。

**ハイパフォーマンス**

ClamAV® には、マルチスレッドスキャンデーモン、オンデマンドスキャン用コマンドラインユーティリティ、自動シグネチャアップデートが含まれています。

**多用途性**

ClamAV® は、複数のファイル形式、ファイルとアーカイブの解凍、複数署名の言語をサポートしています。

## アプリのモジュールリスト更新機能

標準インストールアプリ(【ClamAV】、【RACA】)のアップデートがあった場合に、自動的にアプリのモジュールリストの更新を行います。このリストの更新後に標準インストールアプリを手動でアップデートすることが可能になります。標準インストールアプリのリストの更新を行うためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。アップデートのスケジュールは、下記の画面にて設定を行います。

	毎週	日曜日	5時	35分
--	----	-----	----	-----

※上記時刻にてアップデート有無の確認を開始し、ある場合はダウンロード完了後にインストールとなります。インストールの処理中はアプリの使用不可となりますのでご注意ください。

アプリセンター

ローカルアプリ状態  
インストール済み  
手動インストール

アップロードモジュール

選択 ここにファイルをドロップ

デフォルトアプリのダウンロード

デフォルトアプリのインストール

アップデートモジュールリスト

更新

アップデートモジュールリストのスケジュール設定 **期間が毎日の場合**

期間 毎日

スケジュール 00 : 00

適用

アップデートモジュールリストのスケジュール設定 **期間が毎週の場合**

期間 毎週

スケジュール 日曜日 05 : 35

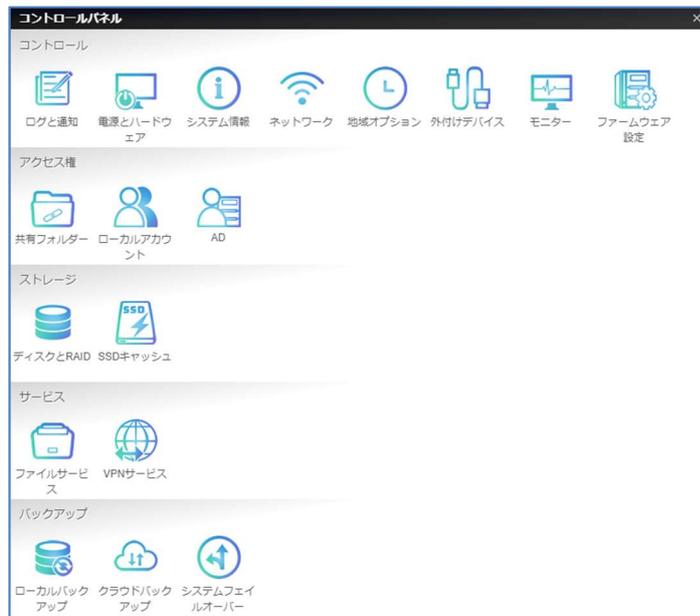
適用

## コントロールパネル

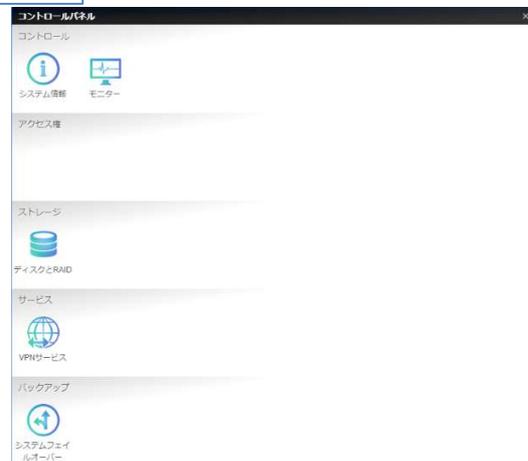
コントロールパネルは、5つのメインカテゴリ（コントロール、アクセス権、ストレージ、サービスおよびバックアップ）で構成されます。説明については、以下を参照してください。

※システムフェイルオーバーを構築する場合、機能が制限されるため表示されなくなるアイコンがあります。アクティブ機であるかスタンバイ機であるかによっても表示されるアイコンが変わります。（全表示とアクティブ機（バーチャル IP）、スタンバイ機の表示を以下に記します）

※また、スタンバイ機も Server サポートの監視対象となります。



アクティブ機、バーチャル IP



スタンバイ機

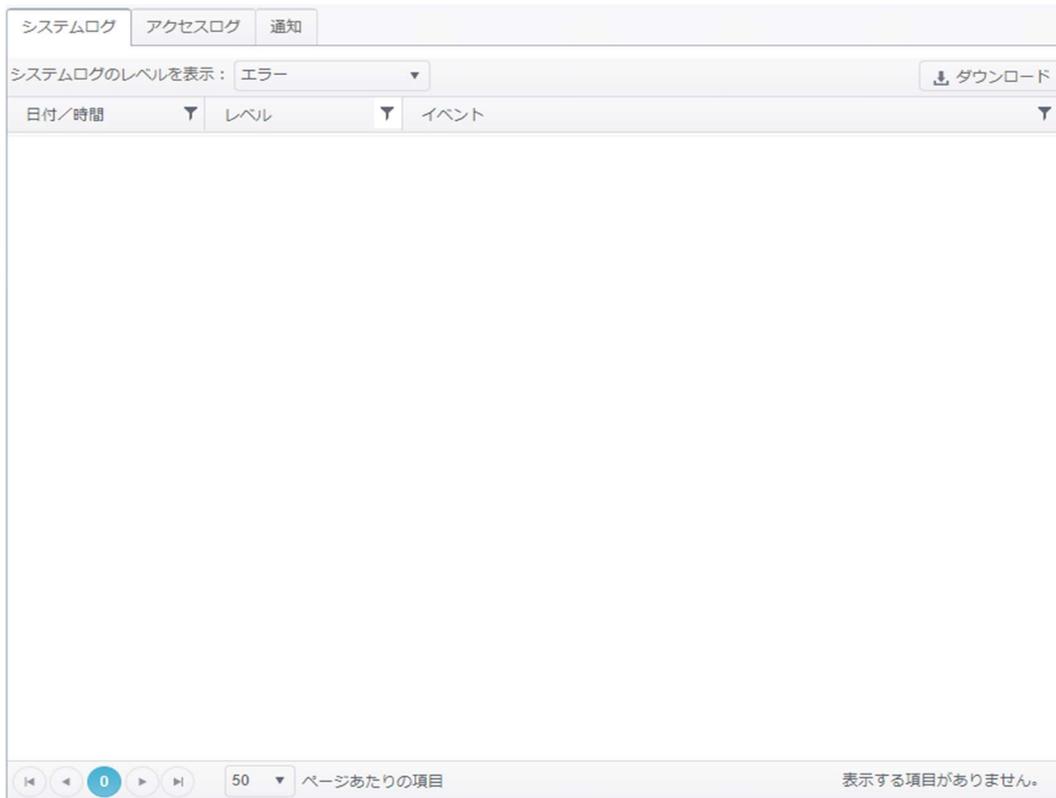
### コントロール



## ログと通知

### システムログ

ログと通知メニューから、システムログオプションを選択すると、システムログ画面が表示されます。この画面には、システム使用履歴およびディスク状態、ネットワーク情報、システム起動といった重要なイベントの履歴が表示されます。



項目	説明
システムログのレベルを表示:	すべて: システム、警告、およびエラーメッセージを含むすべてのログ情報を提供します。 警告: 警告メッセージのみを表示します。 エラー: エラーメッセージのみを表示します。 ログレベルの詳細は、ログ情報サマリの表の Event Level に記載しております。 どのレベルでメールを受信するかは、リスト内容を確認し選択してください。
ダウンロード	ログを CSV データとしてダウンロードします。UTF 対応のメモ帳で開いて参照をお願いします。※EXCEL がインストールされている場合には参照可能ですが文字化けする恐れがあります。
フィルタ	不要な項目をフィルタリングするための値を入力します。
ページあたりの項目 <input type="checkbox"/>	ページごとに表示する行数を指定します。
<< < > >>	早送り (> >> ) および巻戻し ( << <) ボタンを使って、ログページを切り替えます。

#### 注 1

ログの再読み込みを行う場合、設定パネル左タブから「ログと通知」を再度選択してください。

ログ情報のサマリを下記に記します。（この内容はアップデートなどでも変更される可能性があります。）

2024 年 12 月現在

(対応必要項目の凡例 ○：オフィスサポートセンタへお問い合わせ下さい、□：お客様のご対応が必要になります。)

注 1) 上限を変える場合は、工事者による設定変更が必要です。サポートセンタへ工事の手配をお願いします。

ID	Event Level	対応必要項目	日本語
plugusb_info_1	INFO	□	サポートされている USB デバイスの数を超過しました： {maximun_usb_count} [ {usb_device} ]。 □：お客様にて USB デバイスを拡張して利用している場合は抜去をお願いします。
system_info_1	INFO		システム [ {hostname} ] はブートに成功しました。
system_info_2	INFO		システム [ {hostname} ] を再起動します。
system_info_3	INFO		システム [ {hostname} ] をシャットダウンします。
system_info_4	INFO		システム [ {hostname} ] はスケジュールによりシャットダウンしています。
system_info_5	INFO		システム [ {hostname} ] はスケジュールにより起動開始しました。
system_info_6	INFO		システムは、電源ボタンによりシャットダウンします。
system_info_7	INFO		システム [ {hostname} ] は起動しました。
system_info_8	INFO		システム [ {hostname} ] は正常にシャットダウンしました。
system_warning_1	WARN		システムは [ {action} ] を行なっています。電源を切ったり再起動しないでください。
system_warning_2	INFO		システム [ {0} ] はスケジュールにより起動開始しました。
system_warning_3	WARN		システム [ {hostname} ] の前回シャットダウンは正常に行なわれませんでした。
system_warning_4	WARN		システム [ {hostname} ] は回復サービスを受けています。
system_warning_5	WARN		The system [ {0} ] is over reboot cycle limit.
disk_info_1	INFO		[ ディスクトレイ番号: {tray_number} ] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 不良ブロックスキャン開始。

disk_info_2	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 不良ブロックスキャン完了。不良ブロックは見つかりませんでした。
disk_info_3	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 不良ブロックスキャン完了。{3}個の不良ブロックが見つかりました。
disk_info_4	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 自己診断開始。
disk_info_5	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 自己診断停止。
disk_info_6	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 自己診断完了。
disk_info_7	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) がグローバルホットスペアに追加されました。
disk_info_8	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) がグローバルホットスペアから削除されました。
disk_info_9	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] が追加されました。
disk_info_10	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] が削除されました。
disk_info_11	INFO		[手動削除] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) がグローバルホットスペアから削除されました。
disk_warning_1	WARN		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 不良ブロックスキャンが中止されました。
disk_error_1	ERROR	○	[ディスクトレイ番号: {tray_number}] が故障しました。HDD を交換してください。
disk_error_2	ERROR	○	故障状態 : 故障中、対応 : 交換必要あり、交換部位 : HDD

raid_info_1	INFO		状態：RAID [{raid_id}] は正常です。
raid_info_2	INFO		RAID [{raid_id}] を拡張しました。
raid_info_3	INFO		RAID [{raid_id}] を削除しました。
raid_info_4	INFO		RAID 再構成が完了しました。
raid_warning_1	WARN	<input type="checkbox"/>	RAID [{raid_id}]は RAID を回復中で、再構築が進行中です。 <input type="checkbox"/> ：回復するまでアクセスをお控え下さい。
raid_error_1	ERROR	<input type="checkbox"/>	RAID [{raid_id}] が縮退状態となりました。 <input type="checkbox"/> ：回復するまでアクセスをお控え下さい。LCDをご確認下さい。
raid_error_2	ERROR	<input type="checkbox"/>	RAID [{raid_id}] に重大なディスク故障が発生しています。 <input type="checkbox"/> ：回復するまでアクセスをお控え下さい。
raid_error_3	ERROR	<input type="checkbox"/>	RAID [{raid_id}]構成に失敗しました。 <input type="checkbox"/> ：回復するまでアクセスをお控え下さい。
raid_error_4	ERROR	<input type="radio"/>	RAID[{raid_id}]を復号ができませんでした
raid_error_5	ERROR		RAID 再構成が失敗しました。
linkaggregation_warning_1	WARN		インターフェイスが存在しない為、リンク [{bond_number}] は削除されました。
firmwareupgrade_info_1	INFO		システムはファームウェアを [{current_version}] から [{upgrade_version}] へ更新を開始しました。
firmwareupgrade_info_2	INFO		システムは [{upgrade_version}] に正常にアップグレードされました。
firmwareupgrade_info_3	INFO		システムは自動アップグレードを開始しました。
firmwareupgrade_info_4	INFO		再起動後、システムは工場出荷時設定になります。
firmwareupgrade_info_5	INFO		新しいファームウェア [{upgrade_version}] の更新が完了しました。システムを再起動します。
firmwareupgrade_info_6	INFO		新しいファームウェアはありませんでした。システムは最新の状態です。
firmwareupgrade_info_7	INFO		システムは新しいファームウェア [xxxxxx] を見つけました。ファームウェアのダウンロードを開始します。
firmwareupgrade_warning_1	WARN		システムは [{upgrade_version}] へ更新できませんでした。
firmwareupgrade_error_1	ERROR		NAS のインターネット接続を確認してください。現在すでに接続している場合は、サーバがビジー状態の可能性がります。

monitor_error_1	ERROR	□	システム {raid_id} の使用量が 90%を超えました。 □:使用量を 90%未満となるよう整理して下さい
monitor_error_2	ERROR	○	CPU ファンが故障しました。(RPM : {0} 温度 : {temperature}) オーバーヒートさせない為に、システムをシャットダウンしてください。機器の電源を OFF にして、交換してください。
monitor_error_3	ERROR	○	システムファン No.{fan_number} が故障しました。(RPM : {1} 温度 : {temperature}) オーバーヒートさせない為に、システムをシャットダウンしてください。機器の電源を OFF にして、交換してください。
monitor_error_4	ERROR	○	システムファン D16000-{enc_number} # {index} が故障しました。(RPM : {rpm} ) オーバーヒートさせない為に、システムをシャットダウンしてください。機器の電源を OFF にして、交換してください。
monitor_error_5	ERROR		温度異常です。オーバーヒートさせない為に、システムをシャットダウンします。
monitor_error_6	ERROR	○	故障状態 : 故障中、対応 : 交換必要あり、交換部位 : 筐体
diskcheck_info_1	INFO		S.M.A.R.T.によると、ディスクトレイ {tray_number} [{disk_id}] の {attribute_name} 値 [{value}] は前回の値 [{value}] から変わっています。
diskcheck_info_2	INFO		ディスクトレイ {tray_number} [{disk_id}] の累積稼働時間が {hour} 時間に達しました。
diskcheck_warning_1	WARN	○	S.M.A.R.T.によると、ディスクトレイ {tray_number} [{disk_id}] の {attribute_name} は [{value}] に達しました。このディスクの状態を確認してください。
diskcheck_warning_2	WARN	○	ディスクトレイ {tray_number} [{disk_id}] で致命的なエラーが発見されました。このディスクの状態を確認してください。
dispatcher_error_1	ERROR	○	電源が故障しました。機器の電源を OFF にして、交換してください。
dispatcher_info_1	INFO		電源は正常です。
dispatcher_info_2	INFO		AC 電源供給が復帰しました。
dispatcher_warning_1	WARN	□	AC 電源供給が途絶えました。 □AC 電源ケーブルの抜けをご確認下さい。

ups_info_1	INFO		システム [{0}] への AC 電源が復帰しました。
ups_warning_1	WARN		システム [{hostname}] はバッテリーで稼動しています。UPS モデル : {status} バッテリー状態 : {status} % 電源 : バッテリー
ups_warning_2	WARN		システム [{hostname}] の UPS 電力が落ちています。
ups_warning_3	WARN		システム [{hostname}] の UPS はマスターによりシャットダウンされました。
ups_warning_4	INFO		システム [{hostname}] は UPS との接続を確立しました。
ups_warning_5	WARN		システム [{hostname}] と UPS との接続が切断されました。再起動などが原因で切断された可能性があります。USB コネクタを抜き差しして、もう一度接続を確立してください。
ups_warning_6	WARN		システム [{hostname}] は UPS によりシャットダウンされました。
ups_warning_7	WARN		システム [{hostname}] は {3} 分後に自動的にシャットダウンされます。
ups_error_1	ERROR	○	システム [{hostname}] の UPS バッテリーに不具合があります。
ups_error_2	ERROR	○	システム [{hostname}] の UPS は利用できません。
ups_error_3	ERROR	□	システム [{hostname}] の UPS のバッテリー電力が落ちています。システムは自動的にシャットダウンされます。 □UPS の電源供給をご確認ください。
ups_error_4	INFO		システム [{hostname}] は UPS との接続を確立しました。
ssdcache_info_1	INFO		SSD キャッシュ [{cache_name}] の構築が完了しました。
ssdcache_info_2	INFO		SSD キャッシュ [{cache_name}] を削除しました。
ssdcache_info_3	INFO		SSD キャッシュ [{cache_name}] を編集しました。
ssdcache_error_1	ERROR	○	SSD キャッシュ [{cache_name}] を構築できませんでした。SSD キャッシュが故障した可能性があります。機器の電源を OFF にして、交換してください。
ssdcache_error_2	ERROR	○	SSD キャッシュ [{cache_name}] を削除できませんでした。SSD キャッシュが故障した可能

			性があります。機器の電源を OFF にして、交換してください。
ssdcache_error_3	ERROR	○	SSD キャッシュ [{cache_name}] を編集できませんでした。SSD キャッシュが故障した可能性があります。機器の電源を OFF にして、交換してください。
ssdcache_error_4	ERROR	○	デバイス (md{device_name}) の対象の RAID または SSD RAID が削除された為、SSD キャッシュ [{cache_name}] は削除されました。
diskclonewipe_info_1	INFO		ディスククローン開始。動作 : {action} モード : {mode} 元ディスク : {source_disk} クローン先ディスク : {target_disk}
diskclonewipe_info_2	INFO		ディスククリア開始。動作 : {action} モード : {mode} 対象ディスク : target_disk
diskclonewipe_info_3	INFO		ディスククローンを中止しました。
diskclonewipe_info_4	INFO		ディスククリアを中止しました。
diskclonewipe_info_5	INFO		ディスククローンが完了しました。
diskclonewipe_info_6	INFO		ディスククリアが完了しました。
diskclonewipe_error_1	ERROR	○	クローン・クリアタスクのうちのいくつかのディスクが喪失しました。
network_info_1	INFO		システム [{hostname}] {lan_display_name} はネットワークに接続されました。Get IP : {lan_ip_address}
network_warning_2	WARN	□	システム [{hostname}] {lan_display_name} はネットワークから切断されました。□ : ネットワークケーブルの接続をご確認ください。
failover_info_1	INFO		[システムフェイルオーバー] アクティブ機の実環境設定が開始しました。
failover_info_2	INFO		[システムフェイルオーバー] 環境設定が完了しました。
failover_info_3	INFO		[システムフェイルオーバー] アクティブ機の実環境設定が開始しました。
failover_info_4	INFO		[システムフェイルオーバー] スタンバイ機 ({standby_ip}) へのバックアップを開始しました。
failover_info_5	INFO		[システムフェイルオーバー] バックアップが完了しました。

failover_info_6	INFO		[システムフェイルオーバー] 復元を開始しました。バックアップ元は({pair_ip})にあるメイン機({time})です。
failover_info_7	INFO		[システムフェイルオーバー] 復元を完了しました。
failover_info_8	INFO		[システムフェイルオーバー] システムフェイルオーバーの削除を開始しました。
failover_info_9	INFO		[システムフェイルオーバー] 前回のバックアッププロセスが完了しなかった為、このバックアッププロセスは延期されます。
failover_info_10	INFO		[システムフェイルオーバー] 本製品は前回の起動時にフェールオーバーモードになりました。今回の起動では、本製品はフェールオーバーモードから通常モードに移行します。
failover_info_11	INFO		[システムフェイルオーバー] 本製品はフェールオーバーモードを停止するようにピアからのコマンドを受け取り、通常モードに移行します。
failover_info_12	INFO		[システムフェイルオーバー] 最新のファームウェアへの更新準備中です。スタンバイ機へのレプリケーションを停止します。
failover_error_1	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] スタンバイ機({failover_error_1})へのバックアップに失敗しました。システムフェイルオーバーは解除されません。
failover_error_2	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] システムフェイルオーバーを設定できませんでした。
failover_error_3	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] システムフェイルオーバーの相手側と通信できません。システムフェイルオーバーは解除されました。
failover_error_4	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] システムフェイルオーバーの相手側と通信できません。システムフェイルオーバーは解除されました。
failover_error_5	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] フェイルオーバー構成下のスタンバイ機が故障しました。
failover_error_6	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] フェイルオーバー構成下のアクティブ機が故障しました。スタンバイ機がアクティブ機に昇格しました。
failover_error_7	ERROR		One or both of Active/Standby FW update download failed, prepare to abort FW update.
login_info_1	INFO		ユーザー {username} は {user_ip}からログインされました。

login_error_1	ERROR		ユーザー {username} は {user_ip}からのログインに失敗しました。
login_error_2	ERROR		あなたのアカウントは有効ではありません。管理者に連絡してください。
localbackup_info_1	INFO		[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップを開始しました。
localbackup_info_2	INFO		[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] 復元を開始しました。
localbackup_info_3	INFO		[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに成功しました。
localbackup_info_4	INFO		[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] 復元に成功しました。
localbackup_error_1	ERROR	○	[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに失敗しました。
localbackup_error_2	ERROR	○	[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] 復元に失敗しました。
remotebackup_info_1	INFO		[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップを開始しました。
remotebackup_info_2	INFO		[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] 復元を開始しました。
remotebackup_info_3	INFO		[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに成功しました。
remotebackup_info_4	INFO		[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] 復元に成功しました。
remotebackup_error_1	ERROR	○	[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに失敗しました。
remotebackup_error_2	ERROR	○	[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] 復元に失敗しました。
localiscsibackup_info_1	INFO		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] バックアップを開始しました。
localiscsibackup_info_2	INFO		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] 復元を開始しました。
localiscsibackup_info_3	INFO		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに成功しました。
localiscsibackup_info_4	INFO		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] 復元に成功しました。
localiscsibackup_error_1	ERROR		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに失敗しました。
localiscsibackup_error_2	ERROR		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] 復元に失敗しました。

remoteiscsibackup_info_1	INFO		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [task_id] バックアップを開始しました。
remoteiscsibackup_info_2	INFO		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [task_id] 復元を開始しました。
remoteiscsibackup_info_3	INFO		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [task_id] バックアップに成功しました。
remoteiscsibackup_info_4	INFO		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [task_id] 復元に成功しました。
remoteiscsibackup_error_1	ERROR		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [task_id] バックアップに失敗しました。
remoteiscsibackup_error_2	ERROR		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [task_id] 復元に失敗しました。
cloudbackup_error_4	ERROR	□	[クラウドバックアップ] 本製品ローカルフォルダー [folder_name]が契約サイズの 100% (used_percentage / total_capacity) に達しました。 □ : クラ ウドバックアップの契約サイズ未満となるようにロー カルフォルダのファイル類を整理して下さい。
cloudbackup_error_5	ERROR	□	[クラウドバックアップ] 本製品ローカルフォルダー [0]が契約サイズの 80% を超えました。 [bucket_size]。 □ : クラウドバックアップ の契約サイズの 80%未満となるようにローカルフ ォルダのファイル類を整理して下さい。注 1)。
cloudbackup_error_6	ERROR	○	[クラウドバックアップ]サーバーの接続に失敗しま した。システムはsecond秒ごとにindex / total_retry_countを再試行します。
cloudbackup_error_9	ERROR	□	[クラウドバックアップ] 本製品のローカルフォルダ [share_folder]のバックアップ開始時、クラ ウドバックアップサービス契約容量の 100%を超 えました (バックアップが開始できません)。 [1] □ : クラウドバックアップの契約サイズ未 満となるようにローカルフォルダのファイル類を整理 して下さい。
cloudbackup_error_10	ERROR	□	タスク合計容量が契約容量を超えたため、すべ てのタスクのバックアップを停止しました。 □ : ク ラウドバックアップの契約サイズ未満となるようにロ ーカルフォルダのファイル類を整理して下さい。
cloudbackup_error_11	ERROR	□	[クラウドバックアップ]フォルダー [share_folder]の[file_name]のクラ ウドバックアップはスキップされます。理由 : サイズ

			8GB 超過 □ : クラウドバックアップの対象ファイルを 8GB 未満となるように整理して下さい。
cloudbackup_warning_10	ERROR	□	[クラウドバックアップ] 本製品のローカルフォルダ [{share_folder}] のバックアップ時、クラウドバックアップサービス契約容量の 80% を超えました (バックアップは、実施します) 。[{1}] □ : クラウドバックアップの契約サイズの 80% 未満となるようにローカルフォルダのファイル類を整理して下さい。注 1)。
cloudbackup_warning_12	WARN		[クラウドバックアップ] クラウドバックアップの前のタスクが未完了の為、次のタスクをスキップしました。
cloudbackup_warning_13	WARN		[クラウドバックアップ] [{task_id}] クラウドバックアップに失敗したファイルがあります。
cloudbackup_warning_14	WARN		[クラウドバックアップ] [{task_id}] 復旧に失敗したファイルがあります。
cloudbackup_warning_15	WARN		[{task_id}]クラウドバックアップに失敗したファイルがあります。
cloudbackup_warning_16	WARN		[{task_id}]復旧に失敗したファイルがあります。
cloudbackup_warning_17	WARN		タスクを削除できません。本製品をインターネットに接続してください。
cloudbackup_warning_18	WARN		クラウドバックアップのシステムのアップロード制限値超過によりアップロードできなかったファイルは以下となります。ファイル名 : [{file_name}]
cloudbackup_info_20	INFO		クラウドバックアップ [{task_id}] を削除しました。
cloudbackup_info_21	INFO		クラウドバックアップ [{task_id}] を編集しました。
cloudbackup_info_22	INFO		クラウドバックアップ [{task_id}] を追加しました。
cloudbackup_info_23	INFO		[クラウドバックアップ]_サービス設定のログイン ID[ログイン_ID]を設定しました。
cloudbackup_info_24	INFO		[クラウドバックアップ]_サービス設定のパスワードを設定しました。
cloudbackup_info_25	INFO		[クラウドバックアップ]_サービス設定のアップロード容量制限[XXXXXX]GB を設定しました。
cloudbackup_info_26	INFO		[クラウドバックアップ]_サービス設定のアップロードファイルサイズ制限[XXXXXX]GB を設定しました。

openvpn_error_1	ERROR	○	OpenVPN の設定ファイル有効化に失敗しました。※複数回出力される場合はお問い合わせ下さい。
buzzer_warning_1	WARN		ブザーは LCM によってミュートされ、{0}時間後にピー音が鳴ります。本製品が安全であることと本製品のログを確認してください。
snapshot_info_1	INFO		[Snapshot] [{share_folder}]のスナップショットは、[{time}]に正常に保存されました。
snapshot_info_2	INFO		[Snapshot] [{share_folder}]のスナップショットは、[{time}]に正常に保存されました。
snapshot_info_3	INFO		[Snapshot] [{share_folder}]のスナップショットは、[{time}]に正常に保存されました。
snapshot_info_4	INFO		[Snapshot] [{sharefolder}]のスナップショットは、[{time}]に正常に保存されました。
snapshot_info_5	INFO		[Snapshot] [{share_folder}] の [{snapshot}]のスナップショットが削除されました。
snapshot_info_6	INFO		[Snapshot] [{share_folder}] は [{snapshot}]の状態に復元されました。
snapshot_warning_1	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]は、BTRFS クォータ再スキャンが進行中の場合、手動スナップショットを取ることができません。このスナップショットは再スケジュールされます。
snapshot_warning_2	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]手動スナップショットタスクが再スケジュールされました。
snapshot_warning_3	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]は、最大スナップショットに達したときに手動スナップショットを取得できません。
snapshot_warning_4	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]は、BTRFS クォータ再スキャンの実行中にスケジュールスナップショットを取ることができません。このスナップショットは再スケジュールされます。
snapshot_warning_5	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]スケジュールスナップショットタスクが再スケジュールされました。
snapshot_warning_6	WARN		[スナップショット] すでに最大スナップショット数に達しているため、[{share_folder}]のスナップショットを保存できません。
snapshot_warning_7	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]は、BTRFS クォータ再スキャンが進行中の場合、[{snapshot}]を削除できません。

snapshot_warning_8	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]は、BTRFS クォータ再スキャンが進行中の場合、[{snapshot}]を復元できません。
tsbdv_info_1	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] のチェックが終了しました。異常は見つかりませんでした。
tsbdv_error_1	ERROR	○	[ディスクトレイ番号: {tray_number}] のチェックを実行できませんでした。
tsbdv_error_2	ERROR	○	[ディスクトレイ番号: {tray_number}] のチェックが終了しました。異常が見つかりました。故障予兆を検知しました。HDD を交換してください。
tsbdv_error_3	ERROR	○	故障状態: 故障予兆、対応: 交換必要あり、交換部位: HDD
nvme_error_1	ERROR	○	[NVME] Warning. [{life_percentage}]
nvme_error_2	ERROR	○	[NVME] Error. [{life_percentage}]
nvme_error_3	ERROR	○	[NVME] Critical. [{life_percentage}]
restore_error_1	ERROR	○	USB メモリ(USB キー)に故障が発生しました。USB メモリ(USB キー)を交換してください。
restore_error_2	ERROR	○	コンフィグ復元に失敗しました。
restore_error_3	ERROR	○	故障状態: 故障中、対応: 交換必要あり、交換部位: USB メモリ(USB キー)
restore_error_4	ERROR	○	故障状態: 故障中、対応: 交換必要あり、交換部位: 筐体交換
restore_info_1	ERROR		コンフィグ設定が完了しました。
adserver_error_1	ERROR	□	AD サーバーとの接続が切れました。AD サーバーの状態を確認してください。 □ : AD サーバへの疎通確認、IP アドレス正誤のご確認をお願いします。
raca_error_1	ERROR	□	NAS が RACA サーバーとの接続に失敗しました。再接続試行中です。
networklan_info_1	INFO		[ネットワーク設定] {4} が [{0}] の設定を変更しました、再起動後に反映されます。: DHCP = 無効, IP アドレス = [{1}], サブネットマスク = [{2}], ゲートウェイ = [{3}]
networklan_info_2	INFO		[ネットワーク設定] {1} が [{0}] の設定を変更しました、再起動後に反映されます。: DHCP = 有効
afp_info_1	INFO		[サービス] {0} が AFP サービスを有効にしました。

afp_info_2	INFO		[サービス] {0} が AFP サービスを無効にしました。
ftp_info_1	INFO		[サービス] {1} が FTP サービスを有効 (ポート番号 : [{0}]) にしました。
ftp_info_2	INFO		[サービス] {0} が FTP サービスを無効にしました。
samba_info_1	INFO		[サービス] {0} が Samba サービスを有効にしました。
samba_info_2	INFO		[サービス] {0} が Samba サービスを無効にしました。
localuser_info_1	INFO		[ローカルアカウント] {1} がユーザー [{0}] を追加しました。
localuser_info_2	INFO		[ローカルアカウント] {1} がユーザー [{0}] を削除しました。
localuser_info_3	INFO		[ローカルアカウント] {1} がユーザー [{0}] のパスワードを変更しました。
localgroup_info_1	INFO		[ローカルグループ] {1} がグループ [{0}] を追加しました。
localgroup_info_2	INFO		[ローカルグループ] {1} がグループ [{0}] を削除しました。
sharefolder_info_1	INFO		[共有フォルダー] {1} がフォルダー [{0}] を追加しました。
sharefolder_info_2	INFO		[共有フォルダー] {1} がフォルダー [{0}] を削除しました。
sharefolder_info_3	INFO		[共有フォルダー] {5} がフォルダー [{0}] を編集しました : フォルダー名 = {1}, パブリック = {2}, 読み取りのみ = {3}, Samba 参照可能 = {4}。
sharefolder_info_4	INFO		[共有フォルダー] {1} がフォルダー [{0}] の ACL を編集しました。
activatenotify_info_1	INFO		開通通知メールを送信しました。
activatenotify_info_2	INFO		<p>利用開始処理が完了していません。原因は [{0}] です。</p> <p>※備考</p> <p>{0}は下記の通りに記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VPN の設定と接続ができなかったため</li> <li>・ファームウェア最新化されていないため</li> <li>・コンフィグのバックアップがされていないため</li> <li>・暗号化キーが保存されていないため</li> <li>・お客様のメール設定は未完了のため</li> <li>・ホスト名と VPN 設定が正常ではないため</li> </ul>

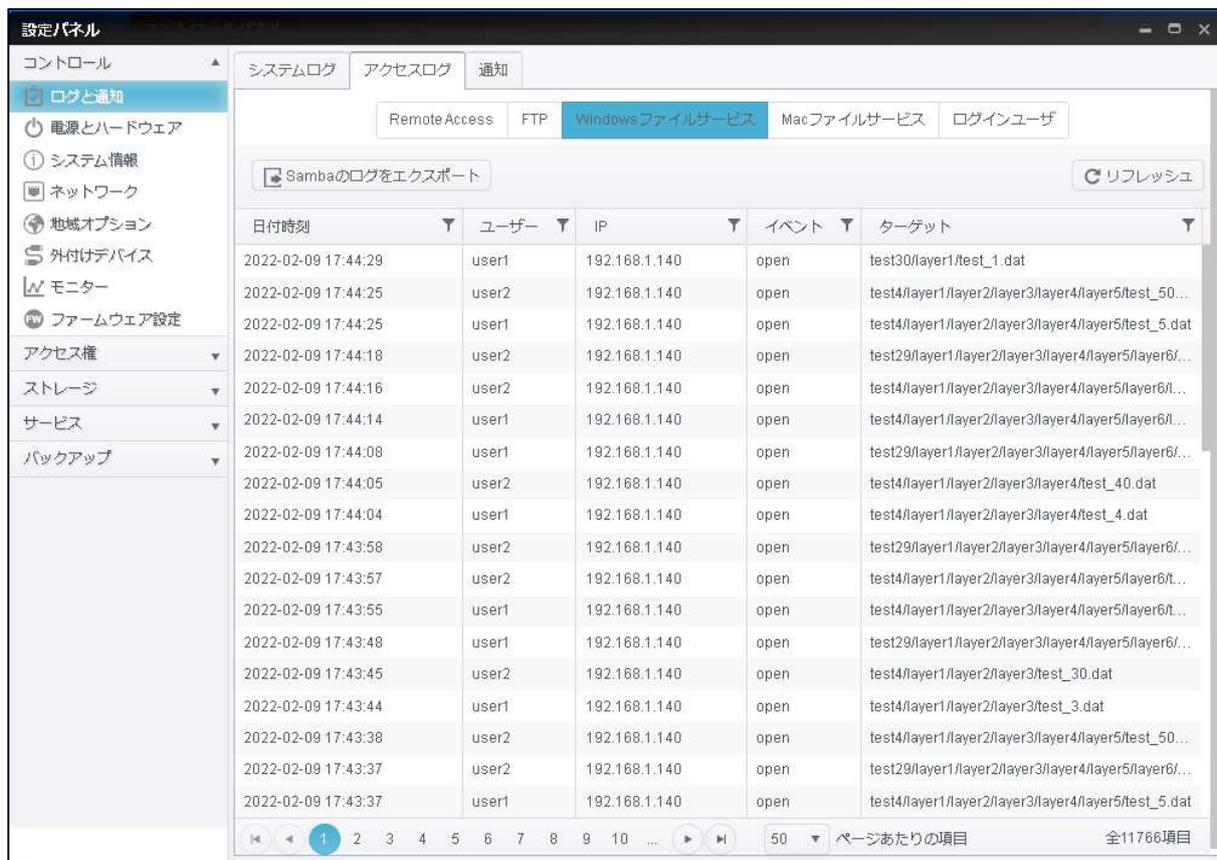
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事管理番号が正常ではないため</li> <li>・シリアルナンバーが正常ではないため</li> </ul>
powerschedule_info_1	INFO		[電源管理] {0}が電源タスクの設定を編集しました。
externalhdd_info_1	INFO		[USB デバイス] {1}が USB デバイス[{0}]のフォーマットが完了しました。
firmwareupgrade_info_9	INFO		[設定管理] {0}がファームウェアの自動更新日時を[{1} {2}]に変更しました。
localbackup_info_5	INFO		[ローカルバックアップ] {1}がタスク[{0}]を追加しました。
localbackup_info_6	INFO		[ローカルバックアップ] {1}がタスク[{0}]を編集しました。
localbackup_info_7	INFO		[ローカルバックアップ] {1}がタスク[{0}]を削除しました。
adserver_info_1	INFO		[アクセス権] {0}が AD {1}の設定を編集しました。
cloudbackup_info_27	INFO	○	[クラウドバックアップ] サービス設定情報が誤っています。正しい設定情報への修正を行ってください。
encryptkey_error_1	ERROR	□	暗号鍵格納の USB メモリが見つかりませんでした。
※encryptkey_error_1 をトリガーにした email 本文 2	ERROR	□	<p>本体正面の USB ポートに標準添付の暗号鍵格納用 USB メモリが正しく実装されておりません。</p> <p>暗号鍵格納用 USB メモリの実装を確認し、再起動してください。</p>
encryptkey_error_2	ERROR	○	USB メモリ内の RAID 暗号鍵に異常が見つかりました。
※encryptkey_error_2 をトリガーにした email 本文 2	ERROR	○	お客様は「キャンセル」押下後サポートセンターへお問い合わせください。
encryptkey_error_3	ERROR	○	USB メモリ内の USBHDD 暗号鍵に異常が見つかりました

encryptkey_error_4	ERROR		USB メモリ内に RAID 暗号鍵を復元します。
encryptkey_error_5	ERROR		USB メモリ内に USBHDD 暗号鍵を復元し ます。
encryptkey_error_6	ERROR		USB メモリ内への RAID 暗号鍵の復元が完了 しました。
encryptkey_error_7	ERROR		USB メモリ内への USBHDD 暗号鍵の復元が 完了しました。
encryptkey_error_8	ERROR	○	USB メモリ内への RAID 暗号鍵の復元が できませんでした。
encryptkey_error_9	ERROR	○	USB メモリ内への USBHDD 暗号鍵の復元が できませんでした。
fsck_error_2	ERROR	○	ファイルシステムの重度異常を検知しました。
※fsck_error_2 をトリガーにした email 本文 2	ERROR	○	ファイルサービスのご利用を中止し、お客様のサー ビス契約をご確認後 以下対応してください。  サービス加入者 : サポートセンターへお問い 合わせ下さい。 サービス未加入者 : 修理を依頼してください。
fsck_error_3	ERROR		ファイルシステムの修復処理を開始しました。
※fsck_error_3 をトリガーにした email 本文 2	ERROR		処理中の途中中断・再起動・強制シャットダウン は絶対に行わないでください。 ファイルシステムが破損し、復旧困難な状態に陥 ります。
fsck_error_5	ERROR	○	ファイルシステムの修復処理を完了できません でした。
※fsck_error_5 をトリガーにした email 本文 2	ERROR	○	サポートセンターへの問い合わせをお願い致しま す。 故障状態 : ファイルシステム復旧失敗、対応 : 交換必要あり、交換部位 : 筐体一式(データ復 旧要)
fsck_error_4	ERROR		ファイルシステムの修復処理を完了しました。

<p>※fsck_error_4 をトリガーにした email 本文 2</p>	<p>ERROR</p>		<p>再起動後もエラーが改善せずファイルサービスご 利用不可の場合は、 サポートセンターへの問い合わせをお願い致しま す。</p> <p>再起動後ファイルサービスをご利用可能になった 場合には 設定解除されている以下設定を手動にて有効 化してください。</p> <p>システムフェイルオーバー</p> <p>以下のサービスは自動で再開されるため、次回 のスケジュールの周期より実行されます。</p> <p>クラウドバックアップ ローカルバックアップ スナップショット HDD ヘルスマネジメント ClamAV の定義ファイル更新・スキャン</p>
<p>externalhdd_error_1</p>	<p>INFO</p>	<p><input type="checkbox"/></p>	<p>未フォーマットの USB デバイスが接続されていま す。 本機でフォーマットをしていない USB デバイス は、接続をしてもご利用いただけません</p>
<p>localbackup_error_1</p>	<p>ERROR</p>		<p>[ローカルバックアップ] タスク [task_name] バ ックアップに失敗しました。</p>

## アクセスログ

アクセスログタブを用いることで、管理者は、関連するプロトコルの選択、ユーザーアクティビティ情報を表示することができます。



アクセスログ	
項目	説明
タブ	【RemoteAccess】【FTP】【Windows ファイルサービス】【Mac ファイルサービス】【ログインユーザ】からクリックして閲覧したい項目を切り替えます。
ログをエクスポート	CSV 形式でログをエクスポートします。Excel がインストールされている場合開いて表示します。
リフレッシュ	情報をリロードして画面を更新します。
フィルタ	不要な項目をフィルタリングするための値を入力します。
ページあたりの項目 <input type="checkbox"/>	ページごとに表示する行数を指定します。
<< < > >>	早送り (> >> ) および巻戻し ( << <) ボタンを使って、ログページを切り替えます。

## 通知

ログと通知から、**通知項目**を選択すると、**通知構成**画面が表示されます。この画面では、システム誤動作の場合の通知設定を行います。

- ① **[ 設定を保存する ]** を押下し、すべての設定を確定します。
- ② **[ メール通知を有効にする ]** にチェックをした後、**[ Eメールテスト ]** を押下することで送信テストを行います。
- ③ 設定したメールアドレスにテストメールを受信していることを確認します。

各項目の詳細な説明については、次の表を参照してください。

通知	
<input type="checkbox"/> メール通知を有効にする	
認証方法 :	ON ▼
セキュリティタイプ :	OFF ▼
SMTPサーバー :	ここにメールサーバーを入力してください。
ポート :	25 ▲▼
SMTPアカウントID :	Eメールアドレスを入力して下さい。
アカウントのパスワード :	パスワードを入力して下さい
ログレベル :	エラー ▼
送信者メールアドレス :	Eメールアドレスを入力して下さい。
HELO / EHLOドメイン名 :	ドメイン名を入力して下さい。
受取人のEメールアドレス 1:	Eメールアドレスを入力して下さい。
受取人のEメールアドレス 2:	Eメールアドレスを入力して下さい。
受取人のEメールアドレス 3:	Eメールアドレスを入力して下さい。
受取人のEメールアドレス 4:	Eメールアドレスを入力して下さい。
<input type="button" value="設定を保存する"/>	

通知構成	
項目	説明
メール通知	メール通知を有効または無効にします。
認証方法	ドロップダウンリストから、SMTP サーバアカウントの認証方法を選択します。
セキュリティタイプ	メール送信時のセキュリティタイプを選択します
SMTP サーバ	SMTP サーバのホスト名/IP アドレスを指定します。
ポート	発信通知電子メールを送信するポートを指定します。
SMTP アカウント ID	SMTP サーバの電子メールアカウント ID を設定します。
アカウントのパスワード	新しいパスワードを入力します。
ログレベル	電子メールを送信するログレベルを選択します。
送信者メールアドレス	電子メール通知を送信する送信者の電子メールアドレスを設定します。
HELO/EHLO ドメイン名	有効な HELO/EHLO ドメイン名を選択します
受取人の E メールアドレス (1、2、3、4)	電子メール通知を受信する 1 つまたは複数の受信者の電子メールアドレスを追加します。

OCN メールの設定をする場合は以下を参照してください。	
項目	説明
電子メール通知	システム問題の電子メール通知を有効または無効にします。
認証方法	On
セキュリティタイプ	SSL
SMTP サーバ	smtp.ocn.ne.jp
ポート	465
SMTP アカウント ID	(*****)@???.ocn.ne.jp の@以前(*の部分)
アカウントパスワード	アカウントのパスワードを入力します。
ログレベル	電子メールを送信するログレベルを選択します。
送信者メールアドレス	電子メール通知を送信する送信者の電子メールアドレスを設定します。
HELO/EHLO ドメイン名	有効な HELO/EHLO ドメイン名を選択します
受取人の E メールアドレス (1、2、3、4)	電子メール通知を受信する 1 つまたは複数の受信者の電子メールアドレスを追加します。

※：本設定は、一例で実施しています。

アカウントごとに異なる設定があるため、詳細は以下の URL に従って確認し設定してください。

<https://support.ntt.com/ocn/support/pid2990021006>

Yahoo メールの設定をする場合は以下を参照してください。	
項目	説明
電子メール通知	システム問題の電子メール通知を有効または無効にします。
認証方法	LOGIN
セキュリティタイプ	SSL
SMTP サーバー	Smtplib.mail.yahoo.co.jp
ポート	465
SMTP アカウント ID	(*****)@yahoo.co.jp の@以前
アカウントパスワード	アカウントのパスワードを入力します。
ログレベル	電子メールを送信するログレベルを選択します。
送信者メールアドレス	電子メール通知を送信する送信者の電子メールアドレスを設定します。
HELO/EHLO ドメイン名	有効な HELO/EHLO ドメイン名を選択します
受取人の E メールアドレス (1、2、3、4)	電子メール通知を受信する 1 つまたは複数の受信者の電子メールアドレスを追加します。

Gmail の設定をする場合は以下を参照してください。※2022 年 5 月以降対応版	
項目	説明
電子メール通知	システム問題の電子メール通知を有効または無効にします。
認証方法	Gmail
セキュリティタイプ	StartTLS
SMTP サーバー	Smtplib.gmail.com
ポート	587
SMTP アカウント ID	(*****)@gmail.com の@以前
アカウントパスワード	アカウントのパスワードではなく、 <b>アプリパスワード</b> を入力する。
ログレベル	電子メールを送信するログレベルを選択します。
送信者メールアドレス	電子メール通知を送信する送信者の電子メールアドレスを設定します。
HELO/EHLO ドメイン名	有効な HELO/EHLO ドメイン名を選択します
受取人の E メールアドレス (1、2、3、4)	電子メール通知を受信する 1 つまたは複数の受信者の電子メールアドレスを追加します。

(※Google のセキュリティ強化により設定方法が変更になりました)

2022 年 5 月以降 Google はセキュリティを強化し、ユーザー名とパスワードだけでは登録できなくなりました。Gmail で使えるようにするには、Google アカウント上で 2 段階認証を有効にした上で、アプリパスワードを有効にし、アカウントのパスワードの代わりにアプリパスワードを入力します。

## Google へのログイン



パスワード	前回の変更: 2021/04/01	>
2 段階認証プロセス	<input checked="" type="checkbox"/> オン	>
アプリパスワード	1 個のパスワード	>

## ← アプリパスワード

アプリパスワードを使用すると、2 段階認証プロセスに対応していないデバイス上のアプリから Google アカウントにログインできるようになります。このパスワードは一度入力すれば、以降は覚えておく必要はありません。 [詳細](#)

アプリパスワードがありません。

アプリパスワードを生成するアプリとデバイスを選択してください。

アプリを選択



デバイスを選択



生成

## 生成されたアプリパスワード

お使いのデバイスのアプリパスワード

ここに表示される16文字のパスワード

使い方

設定しようとしているアプリケーションまたはデバイスの Google アカウントの設定画面を開きます。パスワードを上に表示されている 16 文字のパスワードに置き換えます。

このアプリパスワードは、通常のパスワードと同様に Google アカウントへの完全なアクセス権が付与されます。このパスワードを覚えておく必要はないので、メモしたり誰かと共有したりしないでください。

完了

Email

securesally@gmail.com

Password

●●●●●●●●●●●●●●

Gmail の設定をする場合は以下を参照してください。※OAUTH2 の場合	
項目	説明
電子メール通知	システム問題の電子メール通知を有効または無効にします。
認証方法	Gmail(OAUTH2)
セキュリティタイプ	StartTLS
SMTP サーバー	Smtp.gmail.com
ポート	587
SMTP アカウント ID	(*****)@gmail.com の@以前
ログレベル	電子メールを送信するログレベルを選択します。
送信者メールアドレス	電子メール通知を送信する送信者の電子メールアドレスを設定します。
HELO/EHLO ドメイン名	有効な HELO/EHLO ドメイン名を選択します
受取人の E メールアドレス (1、2、3、4)	電子メール通知を受信する 1 つまたは複数の受信者の電子メールアドレスを追加します。

①上記設定をし、E メールテストを押下すると下図がポップアップします。(※広告ブロック・ポップアップ規制ソフトを使用している場合、表示されないことがあるのでその際は機能を一時的に無効にしてください。)

②使用したい gmail アカウントを選択するか、別のアカウントを使用してログインをしてください。



③ログインに成功すると以下の画面が表示されます。[詳細]を押下すると展開されるので[upraca.com(安全ではないページ)に移動]を押下してください。



④以下の表示されたら[Gmail のすべてのメールの閲覧、作成、送信、完全な削除です。][ユーザー本人に代わってメールを送信です。]の両方にチェックを入れ[続行]を押下してください。

done が表示され、[成功]のポップアップとテストメールが送信されたら設定完了です。

※[成功]のポップアップが表示されるまで他の操作を行わないでください。

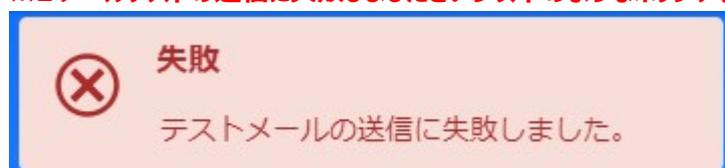
※必ずテストメールが送信されていることを確認してください。テストメールが送信されていない場合、うまく設定できていないので設定をやり直してください。

※Google アカウントの設定によってはセキュリティ通知などのメッセージが送信されることがあります。

※うまく設定できない場合は、アプリパスワードを発行する方法をお試しください。



※E メールテストの送信に失敗しましたという以下のようなポップアップが出た場合の対処について



- ①[メール通知を有効にする]のチェックボックスを外します。
- ②[設定を保存する]を押下します。
- ③再度設定をやり直してください。

### 注 1

設定の変更(メールアドレスの追加や削除等)を行う場合には、メール通知を無効(メール通知有効のチェックボックスを外して)にしてから設定内容を変更し設定を保存して再度メール通知を有効にしてください。

### 注 2

電子メールサーバー情報については、メールサーバー管理者にお問合せください。

### 注 3

システムフェイルオーバー構成下ではアクティブ筐体の設定が同期されますがスタンバイ筐体はメール送信せず、アクティブ筐体からのみメール送信します。フェイルオーバーが解除されると、スタンバイ筐体は同期された設定内容が有効になり【「通知」メール設定行う】の設定になります。

## 電源とハードウェア



※システムフェイルオーバーを設定する場合、コントロールパネルに「電源とハードウェア」は表示されなくなります。

※電源管理ではアカウントによって表示/設定できる項目が異なります。

## 電源管理

### 一般設定

[再起動] を押下してシステムを再起動する、または、[シャットダウン] を押下してシステムをシャットダウンします。



### 電源スケジュール

本製品の電源管理を使って、一日の特定の時刻にオンおよびオフにするよう本製品をスケジュール設定することで、消費電力とコストを節約することができます。

本製品のオンおよびオフのスケジュールを指定するには、最初に「電源スケジュールを有効にする」チェックボックスにチェックを入れて、機能を有効にします。

次に、[追加] を押下して、システム電源をオンまたはオフにする時刻を追加します。



#### 例 - 月曜日: オン: 8:00、オフ: 16:00

システムは、月曜日の午前 8:00 にオンになり、月曜日の 16:00 にオフになります。システムは、週の残りの曜日はオフになります。

時刻を指定せずオン時刻を選択した場合、システムは、スケジュール設定されたオフ時刻に達するか、または、手動でシャットダウンしない限り、システムはオンになります。

#### 例 - 月曜日: オン: 8:00

システムは、月曜日の午前 8:00 にオンになり、電源オフが手動で押されない限り、シャットダウンしません。

### 例 - 月曜日: オフ: 8:00、オフ: 16:00

システムは、月曜日の午前 8:00 にオフになります。システムは、オンになっていた場合、月曜日の 16:00 にオフになります。システムが、月曜日の 16:00 に既にオフになっている場合、システムはオフのままです。

電源スケジュールの推奨登録数は 32 件、最大 120 件までとなります。

### 自動再開

本製品では、停電再開時に 3 つの異なるモードを設定することができます。

自動再開

電源復帰時に自動的に電源をオンにします。

オフ                       オン                       前の状態

自動再開	
項目	説明
オフ	<b>オフ</b> を選択します。電源が復旧しても、電源は自動的にオンになりません。
オン	<b>オン</b> を選択します。通電状態に変化があった場合、電源がオンになります。 ※電源を切っていた場合でもオンになります。
前の状態	停電再開中の前のシステム状態を維持します。 停電前の通電時オンであった場合オンに、オフだった場合オフのままです。

## UPS

本製品は、USB インターフェースを介して、**無停電電源（以下 UPS）** をサポートします。**UPS サービスおよびリモート UPS の監視**設定から USB 接続された UPS の設定を変更し、**適用**を押して、変更を確定します。

APC 製とオムロン製 2 社の指定 UPS をサポートしております。

※動作確認済みの UPS 機器は以下となります。(2021 年 8 月現在)

BizBoxUPS : SMT750, SMT1500J, BL50T, BL75T, BL100T

※UPS 製品の選定に関しては販売店様へお問い合わせをお願い致します。

電源管理 UPS ハードウェア制御

### UPSサービス

UPSサービスを有効にする

製造者 APC

モデル SMT750J/SMT1500J

電源 切断されました

バッテリー状態 (%) 切断されました

最初の通知 (秒) ⓘ 5

次の通知までの間隔 (秒) ⓘ 20

シャットダウン率 (%) ⓘ 5

適用

各項目の詳細な説明については、次の表を参照してください。

UPS サービス	
項目	説明
UPS サービスを有効にする	UPS 監視を有効または無効にします。
製造者	ドロップダウンから UPS のメーカーを選択します。
モデル	ドロップダウンから UPS のモデル番号を選択します。
現在の供給電源	UPS に供給されている電源の現在のステータスです
バッテリーステータス	UPS バッテリーの現在のステータスです
初回通知 (秒)	電源障害と初回通知の間の秒単位での遅延時間です。
次の通知までの間隔 (秒)	次の通知の間の秒単位での遅延時間です。
シャットダウンするパーセント (%)	システムを自動シャットダウンする前の残存 UPS バッテリー量です。

設定が完了したら[ 適用 ]ボタンを押下することで反映されます。

## 注 1

フェイルオーバを構成する際には、UPS の設定をフェイルオーバ設定よりも先に行う必要があります。フェイルオーバ設定を先に実施した場合は、一度フェイルオーバ設定の解除を行い、フェイルオーバ設定を無効にしてから UPS 設定を行ってください。

## 注 2

UPS 接続時に電源スケジュールを利用する場合は、以下の手順で実施してください。

- 1)本製品への UPS 接続
- 2)UPS の設定
- 3)電源スケジュール設定の有効化
- 4)スケジュールタスクの登録

## ハードウェア制御

システムブザーの鳴動設定を行うことができます。鳴っているブザーを止めたい場合チェックを外します。チェックを外した場合には、再度有効にするまでブザーはなりません。一時的に止めたい場合には、LCM 操作によるミュート機能をご利用ください。



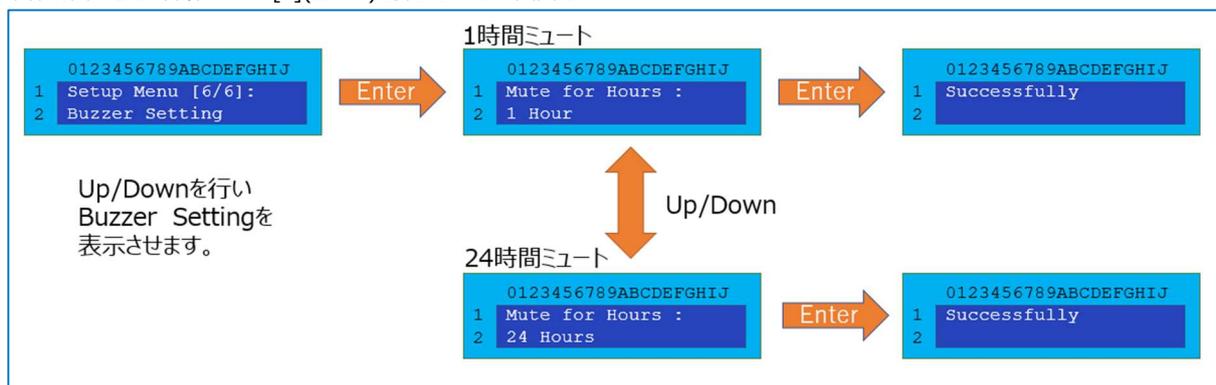
### ハードウェア制御

チェックボックスをクリックすることで、システムブザーを**有効/無効**にすることができます。チェックを入れて、エラー発生時のシステムブザーを有効にします。または、無効にして、システムをミュートします。

本体前面の操作パネルでも一定時間ミュートにすることができます。

#### LCM 設定

本体前面の LCM 操作ボタンの[Enter]を押して Menu 画面に入ります。



## システム情報

### システムステータス

この画面は、基本的なシステムステータス情報を提供します。設定変更ができる項目はありません。  
本製品

システム ステータス ネットワーク ハードウェア情報

システムステータス

モデル名	N5820BAT
バージョン	
シリアル番号	
CPU負荷率	0.0 %
メモリー稼働率	7.1 %
連続動作時間	2日, 2時間, 48分
CPU温度	30°C / 86.0°F
CPUファン速度	3061 rpm
システム温度1	20°C / 68.0°F
システム温度2	25°C / 77.0°F
システムファン速度1	1162 rpm
システムファン速度2	2842 rpm
ミニUPS/バッテリー	接続されていません
充電状態	充電していません
ミニUPS状態	ミニUPSがインストールされていないため、バッテリーの状態チェックは実行されません。
AC電源	接続済み

システムステータス	
項目	説明
モデル名	このモデル名とはベースモデル名：N5820BAT（本製品の製品名とは異なります。）
バージョン	現在のファームウェアバージョンです。
シリアル番号	シリアル番号が表示されます。
CPU 使用率	本製品の現在の CPU 負荷状態を表示します。
メモリー使用率	本製品の現在のメモリー負荷状態を表示します。
連続動作時間	システムの稼働時間を表示します。
CPU 温度	現在の CPU 温度を表示します。
システム温度 1	現在のシステム温度を表示します
システム温度 2	現在のシステム温度を表示します。
システムファン速度 1	システムファンの現在のステータスを表示します。
システムファン速度 2	システムファンの現在のステータスを表示します。
ミニ UPS バッテリー	ミニ UPS は接続されていません。
充電状態	ミニ UPS が接続されていないので充電していません。
ミニ UPS 状態	ミニ UPS が接続されていないのでチェックは実行されません。
AC 電源	AC 電源の接続状態を表示します。

## ネットワークステータス

この画面は、基本的なネットワークステータスおよび情報を提供します。設定変更ができる項目はありません。

システム	ネットワーク	ハードウェア情報			
<b>ネットワークステータス</b>					
• ホスト名: BS390013					
• ドメイン名: WORKGROUP					
名前	IP アドレス	MACアドレス	ステータス	速度 (Mb/秒)	IPv6アドレス
WAN/LAN1	192.168.168.117	08:35:71:12:15:78	接続	1000	
LAN2		08:35:71:12:15:79	切断	N/A	
LAN3	10.254.253.2	08:35:71:12:15:7a	接続	1000	
LAN4		08:35:71:12:15:7b	切断	N/A	

ネットワーク情報 (グローバルパラメータ)	
項目	説明
ホスト名	ネットワーク上の 本製品を識別するホスト名です。
ドメイン名	本製品のドメイン名を指定します。
名前	ネットワークインターフェース名を表示します。
IP アドレス	ネットワークインターフェースの IPv4 アドレスを表示します。
MAC アドレス	ネットワークインターフェースの MAC アドレスを表示します。
ステータス	ネットワークインターフェースのリンクステータスを表示します。
速度(Mb/秒)	ネットワークインターフェースのリンク速度を表示します。
IPv6 アドレス	ネットワークインターフェースの IPv6 アドレスを表示します。

## ハードウェア情報

ハードウェア情報をクリックすると、対象モデルの関連ハードウェアの詳細が表示されます。

### ハードウェア情報

#### CPU

-  CPU1: Intel(R) Atom(TM) CPU C3558 @ 2.20GHz
-  CPU2: Intel(R) Atom(TM) CPU C3558 @ 2.20GHz
-  CPU3: Intel(R) Atom(TM) CPU C3558 @ 2.20GHz
-  CPU4: Intel(R) Atom(TM) CPU C3558 @ 2.20GHz

#### メモリー

-  Memory Size: 16023MB

#### ネットワークインタフェースカード (NIC)

-  WAN/LAN1: Intel Corporation Device 15e4 (rev 11)
-  LAN2: Intel Corporation Device 15e4 (rev 11)
-  LAN3: Intel Corporation Device 15e5 (rev 11)
-  LAN4: Intel Corporation Device 15e5 (rev 11)

#### ユニバーサルシリアルバス (USB)

-  USB2.0-1: Intel Corporation Device 19d0 (rev 11)
-  USB3.0-1: Intel Corporation Device 19d0 (rev 11)

#### ディスクコントローラー

-  SATA1: Intel Corporation Device 19c2 (rev 11)
-  SATA2: Device 1b4b:9215 (rev 11)
-  SATA3: Intel Corporation Device f1a6 (rev 03)

## ネットワーク

コントロールメニューから、**ネットワーク**を選択して、**ネットワーク設定**画面を表示させます。この画面には、グローバル設定と使用可能なネットワーク接続のネットワークパラメータが表示されます。

設定を変更する際は、適用を押下して、設定を確定してください。

各項目の説明は、次の表を参照してください。

※システムフェイルオーバーを構築する場合、コントロールパネルに「ネットワーク」は表示されなくなります。

### ネットワーク設定

#### WAN/LAN設定

<input checked="" type="radio"/> WAN/LAN1	IPv4: 192.168.168.132	デバイス速度: 1000 Mb/s	
<input type="radio"/> LAN2	IPv4:	デバイス速度: 0 Mb/s	
<input type="radio"/> LAN3	IPv4:	デバイス速度: 0 Mb/s	
<input type="radio"/> LAN4	IPv4:	デバイス速度: 0 Mb/s	

#### ホスト設定

ホスト名:

ドメイン名:

WINSサーバー 1:

WINSサーバー 2:

#### DNS設定

手動設定  DHCP

## ネットワーク設定

### WAN/LAN 設定:

LAN ポートは 4 つありますが、LAN 3 と LAN 4 についてはシステムフェイルオーバーの対向機のハートビート用、メンテナンス用と用途を制限しているためユーザーが設定、使用可能なポートは WAN/LAN1 と LAN2 だけになります。ポート設定を変更するには、対応するネットワークポートの編集をクリックしてください。設定画面が表示されます。

DHCP、手動設定を設定することができます。

### 基本設定:

The screenshot shows a window titled "LAN設定の編集" (Edit LAN Settings). It contains the following information:

- MAC アドレス: 08:35:71:12:15:78
- 現在のIP: 192.168.168.117
- リンクステータス: 接続済み
- 備考: 説明等を入力してください (input field)
- IPv4 モード:  手動設定,  DHCP
- IP アドレス: 192.168.168.117
- ネットマスク: 255.255.255.0
- ゲートウェイ: 192.168.168.254

Buttons at the bottom: 適用 (Apply), キャンセル (Cancel).

基本設定	
MAC アドレス	ネットワークインターフェースの MAC アドレス。
現在の IP	関連する NIC インターフェースの IP アドレス。
速度設定	関連する NIC ポートのリンク速度設定を表示します。
リンクステータス	関連する NIC ポートのリンクステータスを表示します。
備考	対応するネットワークポートの説明を入力することも可能です
IPv4/IPv6	手動入力または DHCP サーバーから IP アドレスを設定します。
モード	手動入力による静的 IP または DHCP サーバーから動的 IP を選択することができます。
IP アドレス	手動入力を選択されている場合は IP アドレスを入力します。または、DHCP サーバーから付与された IP アドレスを表示します
ネットマスク	手動入力を選択されている場合はネットマスクを入力します。または、DHCP サーバーから付与されたネットマスクアドレスを表示します
ゲートウェイ	手動入力を選択されている場合はゲートウェイを入力します。または、DHCP サーバーから付与されたゲートウェイを表示します

### 注

- SMTP および NTP などのネットワークサービスにおいて適切な DNS 設定を行うことが必要です。

## ホスト設定:

ホストやドメイン名など、ホストのグローバル設定を変更します。

### ホスト設定

ホスト名 :	<input type="text" value="BS390009"/>
ドメイン名	<input type="text" value="WORKGROUP"/>
WINSサーバー 1	<input type="text" value="WINSサーバーを入力してください。"/>
WINSサーバー 2	<input type="text" value="WINSサーバーを入力してください。"/>
DNS設定	
<input type="radio"/> 手動設定	<input checked="" type="radio"/> DHCP
<input type="text" value="8.8.8.8"/>	<input type="text" value="DNSサーバーを入力してください。"/> <input type="text" value="DNSサーバーを入力してください。"/>
<input type="button" value="適用"/>	

ホスト 設定	
項目	説明
ホスト名 :	本製品を識別する固有の名前です。サポートを受ける際に必要となる情報です。 <b>※ホスト名は変更できません。</b>
ドメイン名	ドメイン名を指定します。
WINS サーバー-1	1 番目の WINS サーバーを指定します。
WINS サーバー-2	2 番目の WINS サーバーを指定します。
DNS 設定	DNS サーバーを指定します。手動設定を選択した場合は直下のフォームに 3 台まで設定可能です。DHCP を選択した場合は自動取得されるためフォームへの入力不要です。

設定が完了したら[ 適用 ] を押下することで再起動を促すウィンドウが表示されます。[ OK ] を押下して再起動することで設定が反映されます。また、[ キャンセル ] を押して保留することも可能です。



## 地域オプション

### 日付/時間

地域オプションメニューを選択しますと日付/時間設定画面が表示されます。日付、時間およびタイムゾーンを設定します。また、本製品のシステム時間を NTP (ネットワークタイムプロトコル) サーバーと同期させることができます。

日付/時間

2020/01/30 15:18

タイムゾーンの設定

タイムゾーンモード  UTCモード  都市モード

都市 Asia ▼ 東京 ▼

適用

システム時刻設定

システム時刻設定  NTPサーバーと同期する  手動設定

NTPサーバー ⓘ ntp.nict.jp ▼

適用

#### タイムゾーンの設定

都市モードで Asia Tokyo に設定されています。※変更できません。

タイムゾーンモード  UTCモード  都市モード

都市 Asia ▼ Tokyo ▼

#### システム時刻設定

本製品の時刻を設定します。NTP サーバーと同期して設定することも可能です。

「NTP サーバーと同期する」を選択している場合は「NTP サーバー」ドロップダウンリストが表示されますので、同期したい NTP サーバーを選択してください。また同期したい NTP サーバーを直接入力することも可能です。初期値は、以下の NTP サーバーへ同期する設定にしております。

システム時刻設定  NTPサーバーと同期する  手動設定

NTPサーバー ⓘ ntp.nict.jp ▼

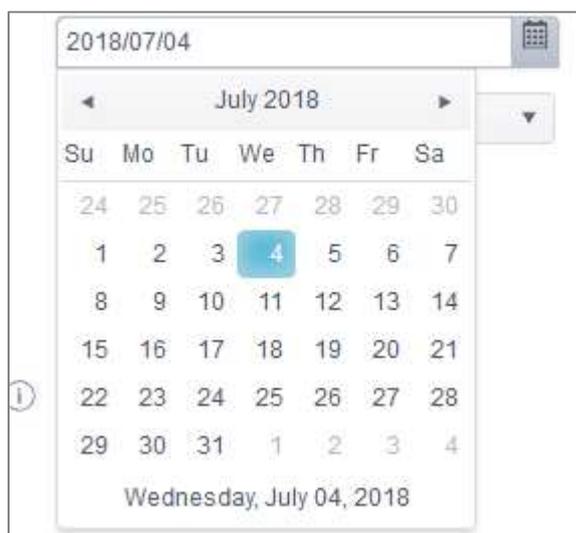
手動設定を選択した場合は日付を入力し、時間をドロップダウンメニューから選択してください。

システム時刻設定  NTPサーバーと同期する  手動設定

日付  

時間  :

日付については入力欄の右側にあるカレンダーアイコンを押下することで表示されるカレンダーから選択することも可能です。



設定が完了したら[ 適用 ]を押下して反映してください。

## 外付けデバイス

### 外付けハードディスク

外部デバイスメニューから、外付けハードディスクを選択します。外付けハードディスク画面が表示されます。この画面は、システムに接続された外付けハードディスクに関する情報を提供します。

Device Status	デバイスタイプ	モデル	ファイル名	デバイス容量	ファームウェアバージョン
Unmounted	USB	Logitec LHD USB Device	sdv	3.6 TB	0103
Mounted	USB	Kingston DataTraveler 3.0	sdz	28.9 GB	PMAP

※外付け USB ハードディスクは赤枠「Logitec LHD USB Device」を例としています

**モデル「Kingston DataTraveler 3.0」は暗号用 USB メモリとなりますので、こちらをフォーマットしないようにご注意ください。本製品で暗号用 USB メモリをフォーマットしようとすると以下のような表示となりフォーマットできません。**



Device Status	デバイスタイプ	モデル	ファイル名	デバイス容量	ファームウェアバージョン
Mounted	USB	Kingston DataTraveler 3.0	sdz	14.4 GB	PMAP
Mounted	USB	Logitec LHD USB Device	sdv	3.6 TB	0103

外付けHDD					
リフレッシュ					
Device Status	デバイスタイプ	モデル	ファイル名	デバイス容量	ファームウェアバージョン
● Mounted	USB	I-O DATA HDCZ-UT	sdaa	1.8 TB	0008
● Not Formatted	USB	BUFFALO USB Flash Disk	sdv	57.8 GB	1.00
● Mounted	USB	Kingston DataTraveler 3.0	sdz	28.9 GB	PMAP

外付け HDD	
項目	説明
リフレッシュ	USB の接続状況を再取得します。
フォーマット	選択した USB 機器のフォーマットを実施します。
取り出す	選択した USB 機器を安全に取り外します。中のデータは削除されません。
Device Status	Mounted:マウントされて使える状態です。 Unmouted:マウントされていないため使えません。(※暗号化キーがなく復号が出来ていないときに表示されます。) Not Formatted:フォーマットされていないため使えない状態です。 Formating:フォーマットしています。 Error:フォーマットに失敗するなど何か問題があります。
デバイスタイプ	USB で左に USB メモリのマークがついているものは暗号化されています。
モデル	USB メモリや USBHDD のベンダー名やモデル名を表示します
ファイル名	sd*は本製品におけるデバイス名であり保存先の情報として使われます。
デバイス容量	そのデバイスのフォーマット後の容量です。
ファームウェアバージョン	USB デバイスのファームウェアのバージョン名です

### 注

- 暗号化キーが含まれる外付け USB デバイスはフォーマットが出来ません。
- 暗号化キーは YYYYMMDD\_hhmmss.key という命名規則で作成時に名前が付けられ  
YYYY = 西暦 (0001~9999)、MM = 月 (01~12)、DD = 日 (01~31)、hh = 時間 (0~23)、mm = 分 (00~59)、ss = 秒 (0~59) が入ります。うるう年対応でカレンダー上存在する日であるかを判定しています。
- 上記法則に従ったファイルがあると暗号化キーであると判断し、フォーマットが出来なくなります。

### フォーマット

外付 HDD バックアップやシステムフェイルオーバーの External USB Backup を行う場合、必ずこの USBHDD フォーマットでフォーマットを実施してください。NTFS でフォーマットされハードウェア暗号化を行い、暗号化キーは RAID と同じ USB メモリに保存されます。

※システムフェイルオーバーの External USB Backup は、外付け HDD のバックアップを含めてフェイルオーバーする機能です。(同容量の外付け HDD をアクティブ側、スタンバイ側に接続してください)

USBHDD フォーマット
×

フォーマット

デバイス情報

デバイス タイプ	USB
デバイス モデル	BUFFALO USB Flash Disk
パーティション ⓘ	Single Partition
デバイス容量 ⓘ	57.8 GB
暗号キー保存先USBデバイス	Kingston DataTraveler 3.0 / ... ▼

適用
キャンセル

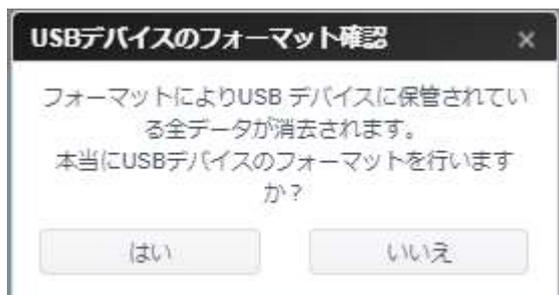
#### デバイス情報

USBHDD フォーマット	
項目	説明
デバイスタイプ	USB と表示されます
デバイスモデル	USB のモデル名が表示されます。
パーティション	パーティションの状態が表示されます。パーティションの制限は単一パーティションです。この設定は変更できません。
デバイス容量	デバイスの容量が表示されます。パーティションの容量はデバイスの最大容量と同じです。
暗号化キー保存 USB デバイス	暗号化キーを保存する USB メモリが選択されています。(RAID ボリューム暗号化キーを保存している USB メモリ(付属の USB)が選択されており変更できません。
適用	設定した内容でデバイスのフォーマットを実施します。

適用を押下するとフォーマットの確認が表示されます。フォーマットを行う場合は「はい」を押下してください。

フォーマットを実行すると中の全データは消去され、本 NAS でしか使用することが出来なくなります。

※取り外して PC に接続しても暗号化されているため、中のデータを取り出すことは出来ません。

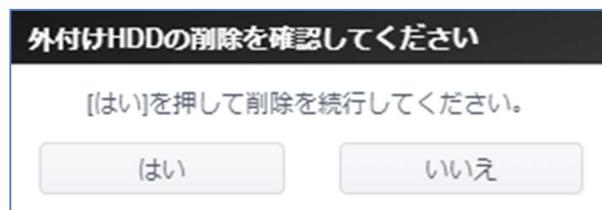


### **取り出す**

本 NAS で外付け USBHDD としてフォーマットされた USB デバイスは暗号化されて保存されているため本 NAS 以外では使用することが出来ません。

一時的に本 NAS から抜き取る必要がある場合は「取り出す」を実行して NAS から削除を行ってください。

※外付け HDD の削除とは登録を一時的に削除するもので中のデータは削除されずそのまま残っているため再度接続すると Mounted (マウント) されます。



### **外付けHDD**

外付けHDDを正常に取り外しました。

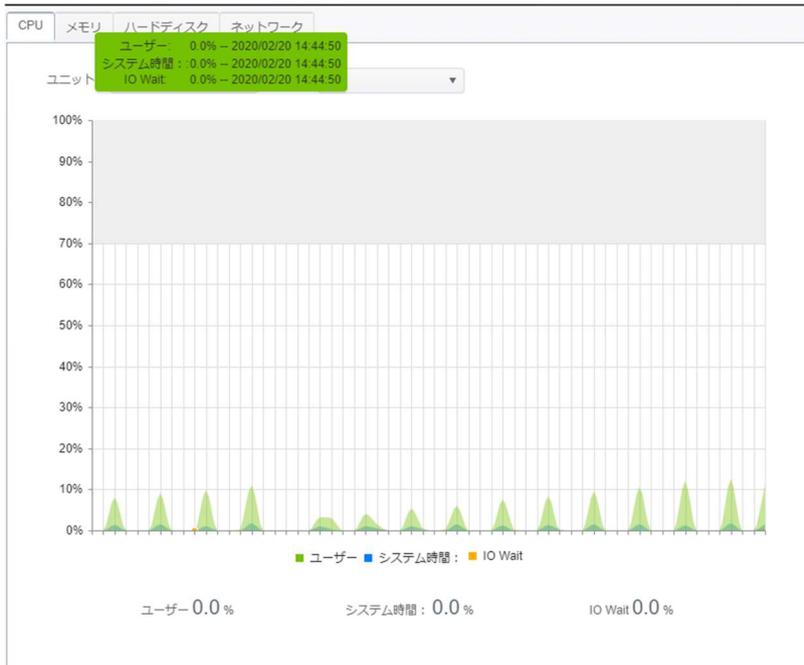
## モニター

システムモニターは、CPU、メモリー、ハードディスクおよびネットワークを含むシステムステータスを監視することができます。

システムステータスを監視するには、関連する項目のタブをクリックします。それに応じた画面が表示されます。

※モニター情報は起動時から自動で記録されていますがファイル保存することが出来ず、最大保存期間 180 日で古いデータから消えていきます。電源オフ、再起動で情報は全て失われます。

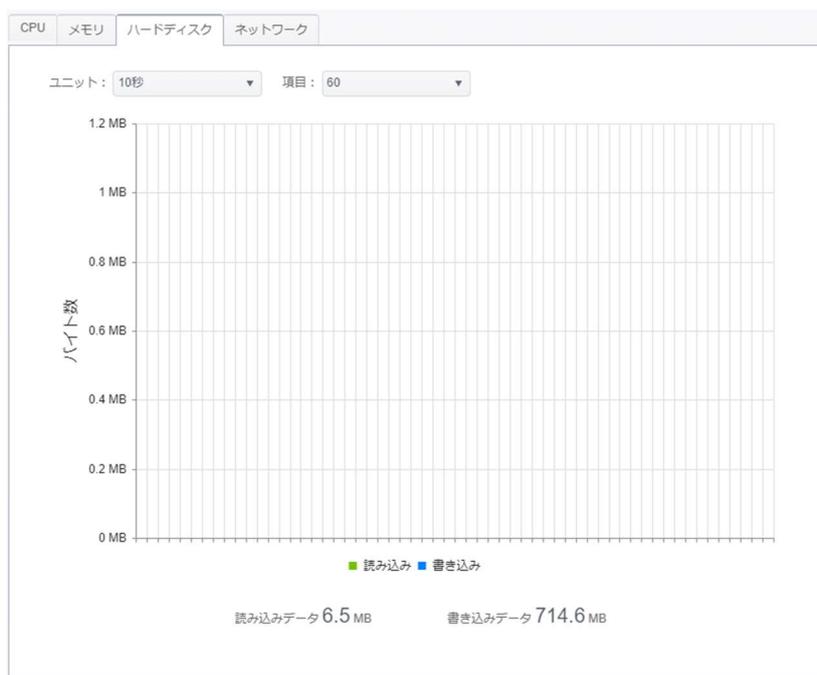
## CPU



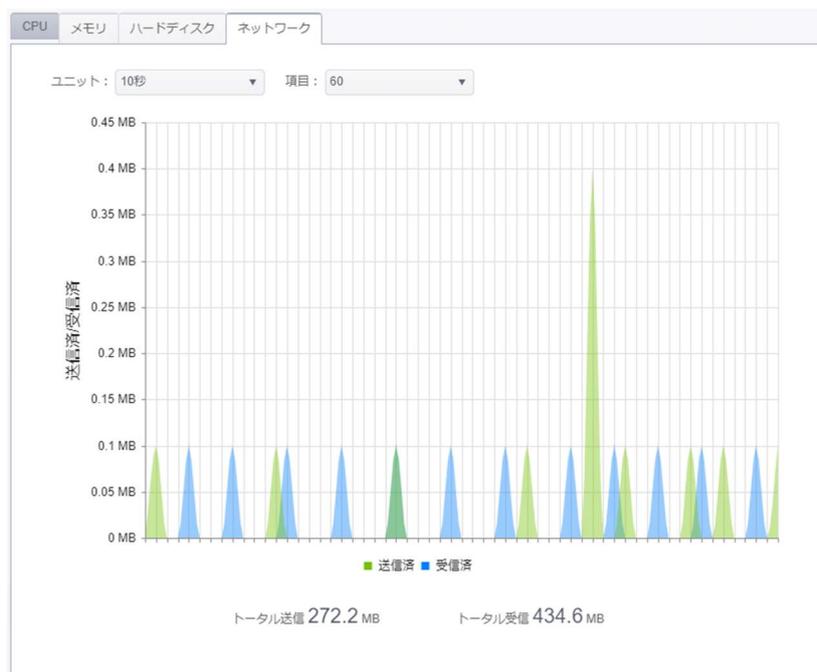
## メモリー



## ハードディスク



## ネットワーク



## ファームウェア設定

※システムフェイルオーバーを実施した場合、「ファームウェア設定」はコントロールパネルに表示されなくなります。システムフェイルオーバーの構成要件として2台のマシンが同一のファームウェアバージョンであることが必要なため事前に更新の確認を行ってください。

### 自動更新

**今すぐ更新をチェック**をクリックすることで、最新のファームウェアバージョンにアップデートすることができます。

**スケジュール**を設定することで月や週、時間を指定しての更新チェックが行えます。

更新を実施した場合再起動を行う表示が出ますので OK を押し必ず再起動を行ってください。

スケジュールで更新がありアップデートした場合は自動で再起動が行われますのでスケジュールは深夜など使わない時間帯に設定するようしてください。(エンドユーザー様が、利用している PC のデータのバックアップ等を夜間に行う場合には、この設定した時間をさけるように設定してください)

※ファームウェア更新初期日時設定：毎週土曜日 01:45

※設定した時間からランダム(60分程度の幅)でFWダウンロードを開始します。FW更新後自動で再起動します。



自動更新	
項目	説明
今すぐ更新をチェック	今すぐファームウェアの最新バージョンがあるか確認します。
スケジュール	自動更新のスケジュールを設定します。
期間	【毎週】:【月-日曜日】曜日を選択します。 【毎月】:【1-28】から選択します。
時間	時間を【00-23】【00-59】で設定します。
適用	設定したスケジュールを保存します。

**!** **自動更新**  
NASをインターネットに接続してください。現在すでに接続している場合、サーバーがビジー状態の可能性があります

インターネットに接続しているのにこのような表示がされる場合、自動更新サーバーがメンテナンス中または公開を停止している場合があります。開放必要な各通信ポートについては本マニュアル後半の補足 E:通信ポート一覧を参照頂くようお願い致します。

本製品に対し各ファイルサービス(SMB、FTP)利用中、データのバックアップ・アップロード(ローカル、クラウド)中にファームウェアのバージョンアップが開始された場合、通信が中断されるため本製品上には不完全なファイルデータが生成される場合があります。この場合は再度本製品に対してファイルデータのアップロードをお願い致します。

## 設定管理

設定管理を用いて、システム設定情報のバックアップまたは復旧をすることができます。システム設定の対象は設定パネルにて設定できる情報のうち、共有フォルダーを除いたものとなります。

### 設定をバックアップ

### 設定を復旧

【注意】  
バックアップデータの喪失を防ぐため、コンフィグの復元時はローカルおよびクラウドバックアップのスケジュール実行が無効化されます。

コンフィグの復元後はデータのリストアを行っていただき、その後に無効化されているローカルおよびクラウドバックアップタスクのスケジュール実行を有効な状態に戻していただきますようお願いいたします。

※ データのリストア前にバックアップタスクのスケジュール実行を有効化されますとバックアップデータが喪失しますのでご注意ください

RAID ⓘ       Dom ⓘ       Server ⓘ       PC upload ⓘ

USB Selected

各項目の詳細な説明については、次の表を参照してください。

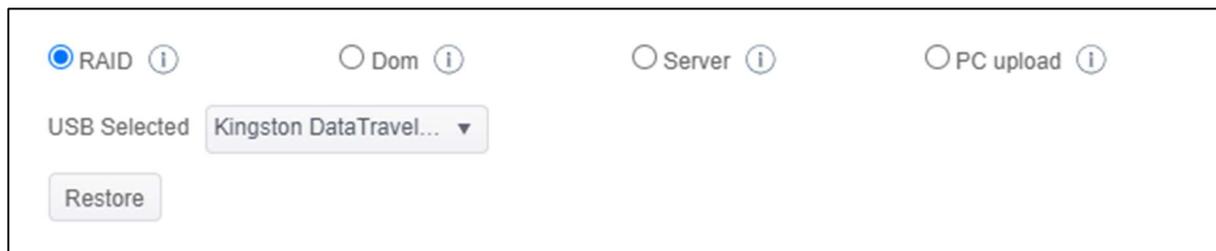
システム設定管理	
項目	説明
設定をシステムに保存	現在のシステム設定をシステム[RAID]（10世代まで）、[Dom]（最新のみ）、[Server]（最新のみ）に保存します。
設定をPCに保存	現在のシステム設定を手動で今利用しているPCにダウンロードします。
設定を復旧	[RAID]HDD、[Dom]システム、[Server]クラウド、[PC upload]PCのいずれかからバックアップしてある設定を読み込んでリストアします。
USB Selected	バックアップしたHDD暗号化キーをどのUSBメモリに復元するかを選択します。USBメモリが故障した場合、新しいUSBメモリに交換して実施する必要があります。

### 注

初回の「設定をシステムに保存」ボタンを押下し、設定のバックアップを行ってください。  
お客様LAN環境のネットワーク機器(UTM、ルーター、ファイヤーウォール等)において、設定バックアップ用のポート開放設定をお願い致します。詳細は補足の通信ポート一覧をご確認をお願い致します。  
また**設定ファイルは毎日のAM00:05~01:35の間に自動保存されます。**  
RAID、Dom、Serverに自動保存されます

USBメモリ故障時には、サポートサービスを契約している場合は、サポートセンターへ連絡ください。サポート契約未加入の場合には、修理依頼書を記入し修理依頼を実施してください。

## 設定を復旧



The screenshot shows a control panel for restoring settings. At the top, there are four radio buttons: RAID (selected), Dom, Server, and PC upload. Below them is a dropdown menu labeled 'USB Selected' with 'Kingston DataTravel...' selected. At the bottom left is a 'Restore' button.

バックアップ先をクリックして選択します。選択した場所より復旧が行われます。暗号化キーを復旧する USB メモリが選択されていることを確認します。

### 【RAID/Dom】

※RAID からの復旧は HDD 故障時には使用できません。他の場所からの復旧を使用してください。

※Dom は本製品の OS が格納されている専用領域です。

Restore を押下します。

### 【Server】



The screenshot shows the same control panel as above, but with the 'Server' radio button selected. Additionally, there is a text input field labeled 'Host name' which is currently empty. The 'Restore' button remains at the bottom left.

Host name にホスト名を入力します。

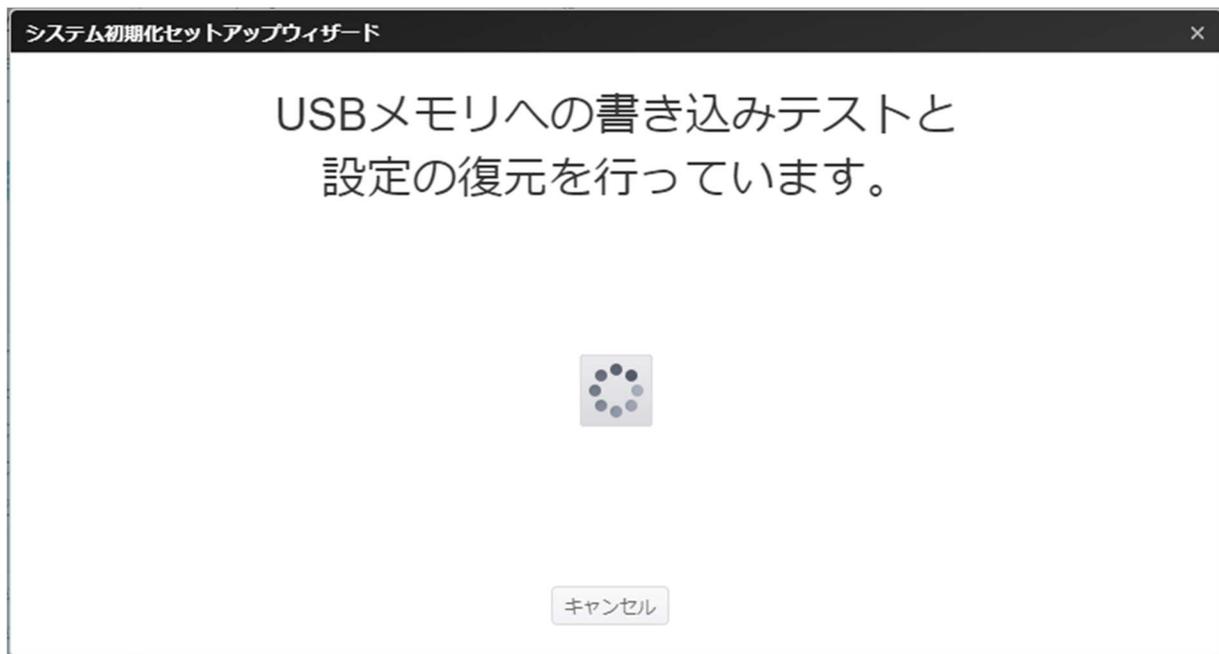
[コントロールパネル]⇒[ネットワーク]⇒[ネットワーク設定]⇒[ホスト設定]ホスト名を確認してください。

ホスト名を入力後に Restore を押下します。

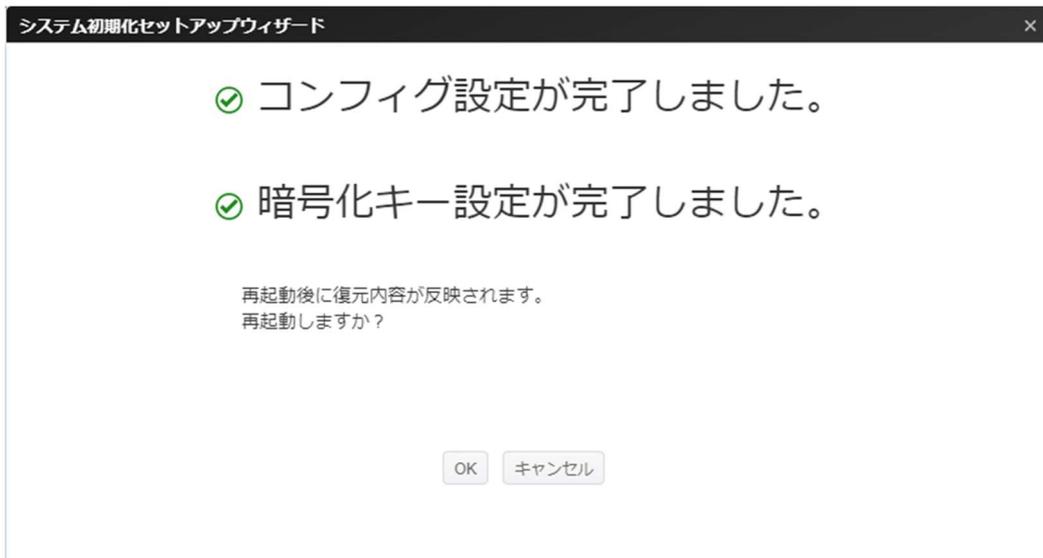
## 【PC upload】

The screenshot shows the 'PC upload' option selected in a system setup wizard. At the top, there are four radio buttons: RAID, Dom, Server, and PC upload (which is selected). Below them is a dropdown menu for 'USB Selected' showing 'Kingston DataTravel...'. A dashed box contains the instruction '設定復元に使う設定ファイルを選択してください。' (Please select a configuration file to use for restoration.) and a '選択' (Select) button. To the right of the button is the text 'ここにファイルをドロップ' (Drop files here).

設定をバックアップで【設定を PC に保存】している場合、選択から conf.bin を選択するかファイルをドロップします。  
設定ファイルを登録したら Restore を押下します。



USB メモリへの書き込みテストが実施され、その後暗号化キー、コンフィグ設定が復元されます。



「暗号化キーを USB メモリへ復元できませんでした」と表示された場合、他のバックアップ先からの復旧も再度実施します。それでも復旧が行えない場合は、USB メモリまたは本体の故障の可能性があります。

故障と判断される場合には、故障アラートが出ている可能性があります。メールを確認いただき、サポート契約の有無により以下の対応をお願いします。

- ・サポート契約あり：オフサポへご連絡ください。オフサポセンターより、先出センドバック依頼を行います。
- ・サポート契約無し：修理対応を行います。修理品を修理依頼書

(URL(<https://www.nttpc.co.jp/support/term/securityboss.html>))をダウンロードし、保証書もしくは、リース証明書のコピーとともに送付してください。修理後、修理品をお送りします。



再起動すると復旧が完了します。OK を押し、再起動を行ってください。

以上の手順を実施しても再度同じ画面が表示される場合、故障の可能性がありますのでコールセンターまでご連絡ください。

## 注

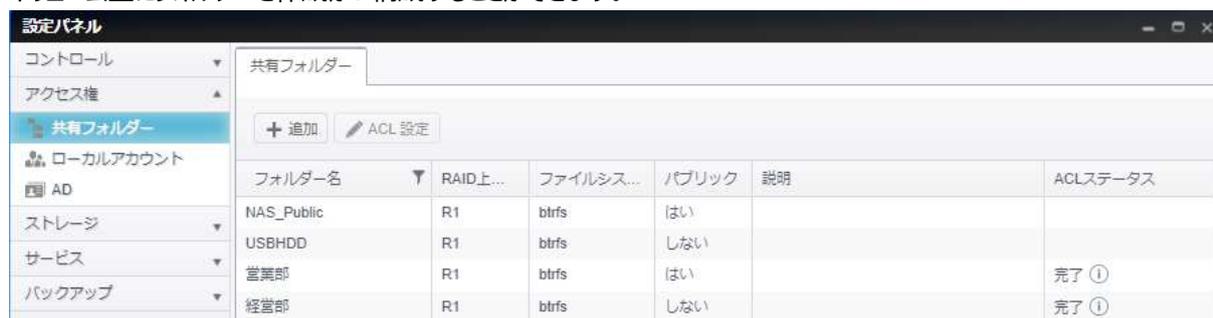
- ・一度復号化されると次回起動時まで有効です。暗号化キーによる復号化は起動シーケンスの最中に行われます。この時に USB メモリが挿入されていない、不正なシャットダウン、ディスクが正しく挿入されていないなどのトラブルがあると復号化に失敗するおそれがあります。使用中の USB メモリの不用意な挿抜、強制シャットダウンなどは行わないよう注意してください。
- ・USB メモリの故障時は新しい USB メモリを実装し第 4 章：システム管理「ファームウェア設定」の「設定管理」の「設定を復旧」の手順に基づいてリストアを行ってください。

## アクセス権



### 共有フォルダー

アクセス権メニューから、**共有フォルダー**を選択します。**共有フォルダー**画面が表示されます。この画面では、本製品ボリューム上にフォルダーを作成かつ構成することができます。



#### ■ NAS\_Public

初期状態で作成されているフォルダーです。

ネットワーク接続しているすべてのユーザーが、読み書き可能なフォルダーになります。(アクセス制限をしておりません)

#### ■ USBHDD

初期状態で作成されているフォルダーですが USBHDD を共有フォルダーにすることはできません。外付けの USBHDD や USB メモリはバックアップ先としてのみ使用できます。

USB メモリを指定する場合において RAID 暗号複合キーの USB メモリは指定しないようご注意ください。

判別は「設定パネル」「外付けデバイス」「外付け HDD」の「モデル」列の Kingston DataTraveler 3.0 の標記があるものが RAID 暗号複合キーの USB メモリとなります。



## フォルダーの追加

共有フォルダー画面で[+作成] を押下すると、**フォルダー作成**画面が表示されます。

必要な情報を入力し、[適用] を押下して、フォルダー作成を完了します。

新規作成

一般設定

RAID ID FileServer

フォルダー名 ここにフォルダー名を入力してください。

説明 説明等を入力してください。

最大スナップショット数 ⓘ 15

パブリック

読み取りのみ

参照可能 ⓘ

適用 キャンセル

### 一般設定:

必要な情報を入力し、フォルダー作成の一般設定を完了してください。

フォルダーの追加	
項目	説明
RAID ID	新しいフォルダーが存在する RAID ボリュームです。設定をする必要はありません。(初期値のままご利用ください)
フォルダー名	フォルダーの名称を入力します。
説明	フォルダーの説明を入力します。
スナップショット世代数	保存するスナップショット世代の最大数を設定します。最大は 15 です。
パブリック	このフォルダーへのパブリックアクセスを承認または拒否します。 <b>はい</b> を選択すると、ユーザーがこのフォルダーに書き込む際はアクセス許可を持つ必要はありません。
読み取りのみ	関連情報を読み取ることができますが、書き込むことはできません。
参照可能	ユーザーによるフォルダー内容の閲覧を有効または無効にします。 <b>はい</b> を選択すると、共有フォルダーは参照可能になります。
適用	<b>適用</b> を押して、フォルダーを作成します。

### 注 1

フォルダー名は 60 文字に制限されています。  
使用環境毎のフォルダ数の最大作成可能数は以下となります。

- ・Windows 10 → 本製品(SAMBA) : 227~233
- ・MAC OS X → 本製品(SAMBA/AFP) : 255
- ・本製品の Web UI File Center → 本製品 : 60

## ACL 設定

共有フォルダー画面でパブリックではない共有フォルダを選び[ACL 設定] を押下すると、そのフォルダーの ACL 設定画面が表示されます。

### ユーザー ACL:

ACL 設定画面で、**ユーザー ACL** ボタンを押します。**ユーザー ACL 設定**画面が表示されます。この画面では、ユーザーに対して、特定フォルダーへのアクセスを設定することができます。左カラムのユーザーリストから、**拒否**、**読み込み**または**書き込み**を選択し、アクセスレベルを設定します。[ **適用** ] を押下して、設定を確定します。

※ACL を設定した場合は、パソコン端末のログオフ・ログオンするか再起動により再確認をお願いします。

ユーザー名	ユーザータイプ	<input type="checkbox"/> 読み込み	<input type="checkbox"/> 読み込み書き込み	<input type="checkbox"/> 拒否
a	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
g	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
h	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ユーザー ACL 設定	
項目	説明
読み込み	この絡むに表示されているユーザーに読み込みのみのアクセスを提供します。
読み込み/書き込み	このカラムに表示されているユーザーに読み込み書き込みアクセスを提供します。
拒否	このカラムに表示されているユーザーのアクセスを拒否します。

## グループ ACL:

ACL 設定画面で、**グループ ACL** ボタンを押します。**グループ ACL 設定**画面が表示されます。この画面では、グループに対して、特定フォルダーへのアクセスを設定することができます。左カラムのグループリストから、**拒否**、**読み込み** または **書き込み** を選択し、アクセスレベルを設定します。[ **適用** ] を押下して、設定を確定します。

グループ名	グループタイプ	<input type="checkbox"/> 読み込み	<input type="checkbox"/> 読み込み/書き込み	<input type="checkbox"/> 拒否
users	ローカルグループ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

グループ ACL 設定	
項目	説明
読み込み	このカラムに表示されているグループに読み取りのみのアクセスを提供します。
読み込み/書き込み	このカラムに表示されているグループに書き込みアクセスを提供します。
拒否	このカラムに表示されているグループのアクセスを拒否します。

### 注

一人のユーザーが異なる権限を持つ複数のグループに属している場合、権限の優先順位は次のようになります：  
拒否 > 読み取りのみ > 書き込み

### サブフォルダー ACL:

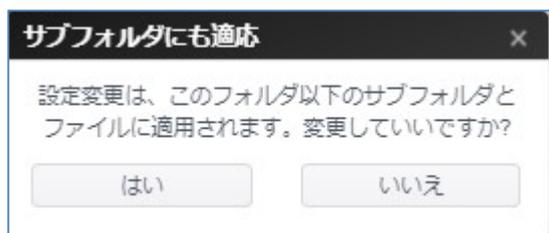
フォルダーレベルのアクセス制御サポート以外にも、本製品は、サブフォルダー ACL の利用が可能です。サブフォルダー ACL を設定するには、**サブフォルダー ACL** タブをクリックします。下のような画面が表示されます。

左側に、関連付けられている親フォルダーに対するサブフォルダーの一覧が表示されています。サブフォルダーをクリックすると、右側の領域が表示され、システムのユーザーとグループを持つことになります。対応するサブフォルダーのユーザーまたはグループのアクセス権に対して必要な変更を行います。設定完了後は、必ず、[ **ACL 保存** ] を押下してください。

The screenshot shows the '編集 - 経営部' (Edit - Management) window with the 'サブフォルダー ACL' (Subfolder ACL) tab selected. The left pane displays a list of subfolders: topfolder-1-1, topfolder-1-2, topfolder-1-3, topfolder-1-4, topfolder-1-5, topfolder-1-6, and topfolder-1-7. The right pane shows a table for user/group permissions. The table has columns for 'ユーザー名' (User Name), '読み込み' (Load), '...' (More), and '拒否' (Deny). The rows are labeled 'a' through 'f'. Users 'a' and 'b' have the '...' checkbox checked. Below the table, there is a checkbox labeled 'サブフォルダにも適応' (Apply to subfolders) which is checked. At the bottom right, there are buttons for 'ACL保存' (Save ACL) and 'キャンセル' (Cancel).

ユーザー名	<input type="checkbox"/> 読み込み	<input type="checkbox"/> ...	<input type="checkbox"/> 拒否
a	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ユーザーACL、グループACL、サブフォルダACLの設定において[サブフォルダにも適応]にチェックが入っている場合は以下のようなサブフォルダに適用というポップアップが出ますので問題がない場合は[はい]、サブフォルダには適用したくない場合はチェックを外してから[適用]または[ACL 保存]を押下するようにしてください。



ACLの設定が完了すると設定キューが共有フォルダに入り、実施した変更の適用を始めます。ACLステータスが完了になると設定が反映されます。完了になるまでこの共有フォルダに対してACL設定を行うことはできません。完了の横のアイコンにマウスを重ねると開始時間と終了時間が表示されます。

共有フォルダ						
+ 追加    ✎ ACL 設定						
フォルダ名	RAID上に...	ファイルシス...	パブリック	説明	ACLステータス	
NAS_Public	FileServer	btrfs	はい			
USBHDD	FileServer	btrfs	しない		完了 ⓘ	
営業	FileServer	btrfs	しない		完了 ⓘ	
経理	FileServer	btrfs	しない		処理待ち	

## 注

不正なシャットダウンや再起動が起きても、設定状況はデータベースで保存されていますので設定の反映は継続されます。ただし、そのタイミングで反映作業を行っていた共有フォルダの順番は最後尾に回されます。大量にフォルダやファイルがある場合、反映に時間がかかることがあります。

ACL のアルゴリズムを以下に記載します。

	設定内容	グループ ACL			
		読み込み	読み込み /書き込み	拒否	設定なし
ユーザー ACL	読み込み	読み込み	読み込み	読み込み	読み込み
	読み込み /書き込み	読み込み /書き込み	読み込み /書き込み	読み込み /書き込み	読み込み /書き込み
	拒否	拒否	拒否	拒否	拒否
	設定なし	読み込み	読み込み /書き込み	拒否	拒否

上記の表の通りに、アクセス権についてはユーザー ACL の設定が優先され、その次にグループ ACL の設定が有効となります。

例)

グループ設定	
グループ AAA	ユーザー-B、ユーザー-C、ユーザー-D
グループ BBB	ユーザー-A、ユーザー-B
フォルダー設定	
フォルダー-CCC	グループ BBB とユーザー-D を許可
フォルダー-DDD	グループ BBB とグループ AAA を許可 ユーザー-B をアクセス拒否
フォルダー-EEE	ユーザー-B を許可 グループ AAA、グループ BBB をアクセス拒否
アクセス状態	
フォルダー-CCC	ユーザー-A、ユーザー-B、ユーザー-D がアクセス可能
フォルダー-DDD	ユーザー-A、ユーザー-C、ユーザー-D がアクセス可能
フォルダー-EEE	ユーザー-B がアクセス可能

### 注

アクセス権 アクセス権の変更（拒否から許可）を行った場合、変更されたユーザーは変更前のアクセス権限でのアクセスとなり、アクセス権の変更更新がうまく行えない場合があります。この場合、一度 PC のログオフ、ログオン、または再起動をおこなってください。

## フォルダーの変更/削除

既存フォルダーリスト上で、**フォルダー**をクリックします。関連するメニュー項目が表示されます。



### 注

スナップショット項目は、ユーザー作成フォルダーおよび NAS\_Public フォルダー に表示され、USBHDD には表示されません。

### 編集:

**編集** ボタンをクリックします。【一般設定】のみが表示されます。

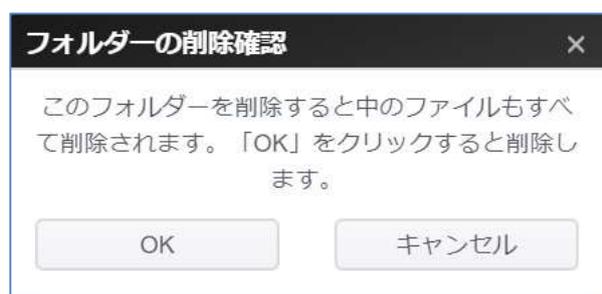
### 一般設定

変更できない唯一の項目は、対応する RAID ボリュームに属しているフォルダーです。その他については、必要に応じて、変更を行います。



## フォルダー削除:

フォルダー削除ボタンをクリックします。関連するフォルダーがシステムから削除されます。



### 警告

フォルダーが削除されるとフォルダー内のすべてのデータが削除されます。データは回復できません。

### 注

管理画面から削除したフォルダーが、PC のエクスプローラー等から見えたままになることがあります。OS を再起動することで以後表示されなくなります。

## スナップショット

本製品は、ファイルとフォルダーのスナップショットを 15 世代保存が可能です。

本製品は出荷時点で BTRFS のファイルシステムにて RAID 構築済みです。

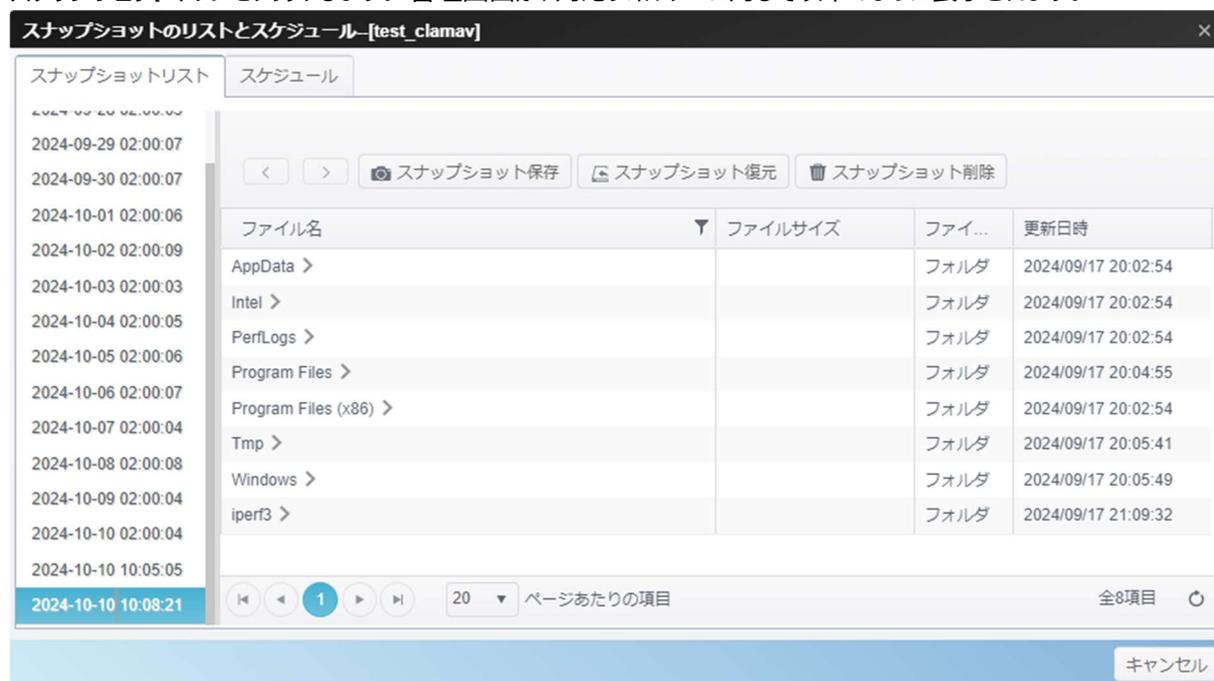
**NAS\_Public 以外の共有フォルダは標準でスナップショット設定がオンとなり、毎日 2:00 に自動取得します。また古いスナップショットから自動削除するように設定されます。**

「共有フォルダー」サブメニューでは、スナップショットボタンは、ツールバーで利用可能です。



## スナップショット保存

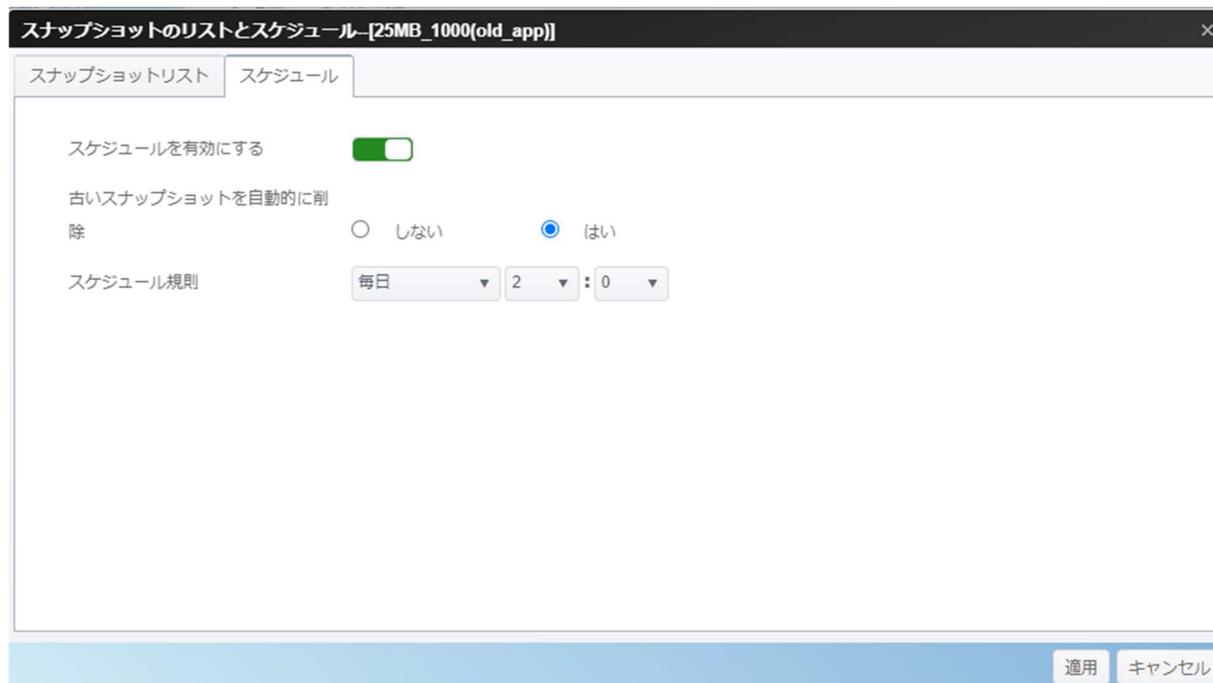
スナップショットボタンをクリックします。管理画面が、対応フォルダーに対して以下のように表示されます。



手動でスナップショットを保存するには、**スナップショット保存**ボタンを押下します。スナップショット履歴がリスト表示されます。

手動スナップショットのほかに、スケジュール化されたバックアップが可能です。**スケジュール**をクリックします。設定画面が表示されます。「スナップショットスケジュールを有効にする」にチェックを入れ、スナップショット間隔を選択します。毎日、毎週または毎月が選択できます。

「古いスナップショットを自動的に削除」オプションを用いると、スナップショットの 15 世代制限により、自動的に最も古いバージョンが削除されます。容量不足などのシステム要因でスナップショットの取得に失敗した場合はアラートメールにより通知されますので、システム管理画面から不要なスナップショットを削除してください。



スナップショットのスケジュール 設定	
項目	説明
スケジュールを有効にする	スライダーを右にし、緑色：有効 スライダーを左にし、赤色：無効
古いスナップショットを自動的に削除	スナップショットは 15 世代まで保存できます。 しない：15 世代まで保存するとスナップショットが保存できなくなります。その場合手動でスナップショットを削除します。 はい：古いものから自動で削除します。
スケジュール規則	毎月：[1-28]日 時間[0-23]:[0-59] 毎週：[日-土曜日] 時間[0-23]:[0-59] 毎日：時間[0-23]:[0-59] 毎時：[0-59]分

## スナップショットの復元

スナップショットの復元は以下の手順により行って下さい。

手順 1：復元したい日時のスナップショットをスナップショットリストから選択してください。

The screenshot shows the 'スナップショットのリストとスケジュール' window. The 'スナップショットリスト' tab is active. A list of snapshots is shown on the left, with '2024-10-10 10:08:21' highlighted in red. The main area shows a table of files and folders for that snapshot. The table has columns: 'ファイル名', 'ファイルサイズ', 'ファイ...', and '更新日時'. The files listed are: AppData, Intel, PerfLogs, Program Files, Program Files (x86), Tmp, Windows, and iperf3. At the bottom, there are navigation buttons and a 'キャンセル' button.

ファイル名	ファイルサイズ	ファイ...	更新日時
AppData >		フォルダ	2024/09/17 20:02:54
Intel >		フォルダ	2024/09/17 20:02:54
PerfLogs >		フォルダ	2024/09/17 20:02:54
Program Files >		フォルダ	2024/09/17 20:04:55
Program Files (x86) >		フォルダ	2024/09/17 20:02:54
Tmp >		フォルダ	2024/09/17 20:05:41
Windows >		フォルダ	2024/09/17 20:05:49
iperf3 >		フォルダ	2024/09/17 21:09:32

手順 2：復元したいファイル、サブフォルダがある場合には、コントロールキーやシフトキーを使用し復元したいサブフォルダ、ファイルを選択し青い選択状態にしてください。何も選択しなければ共有フォルダすべて復元します。

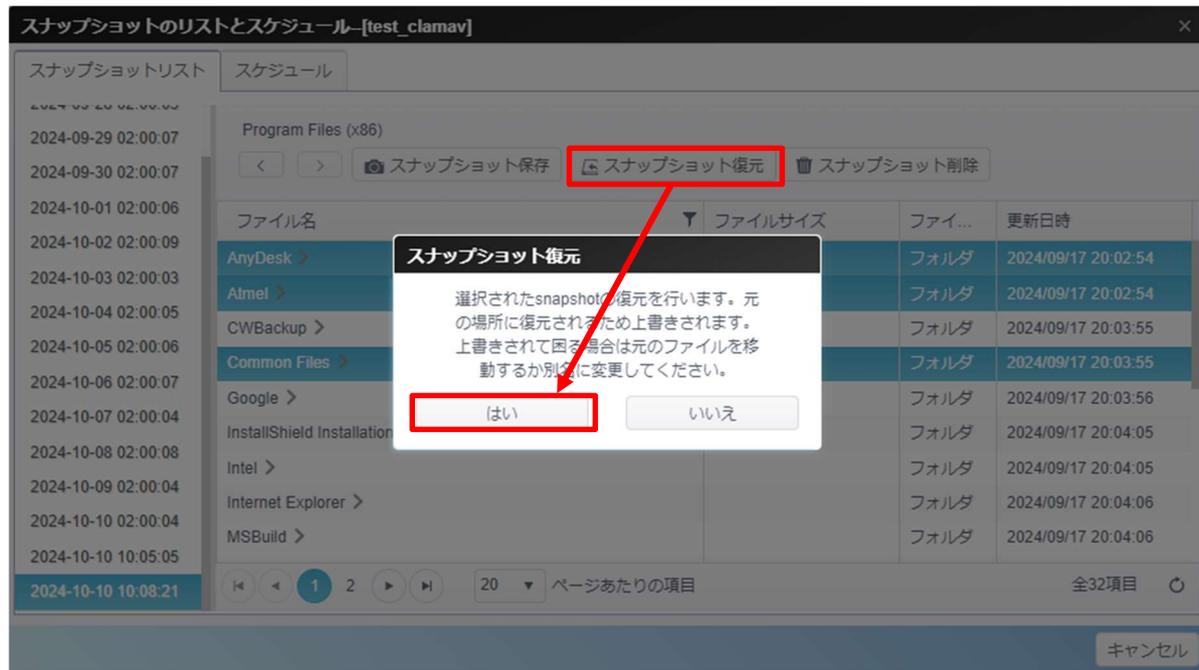
The screenshot shows the 'スナップショットのリストとスケジュール' window. The 'スナップショットリスト' tab is active. The list on the left has '2024-10-10 10:08:21' selected. The main area shows a table of files and folders for that snapshot. The table has columns: 'ファイル名', 'ファイルサイズ', 'ファイ...', and '更新日時'. The files listed are: AnyDesk, Atmel, CWBackup, Common Files, Google, InstallShield Installation Information, Intel, Internet Explorer, and MSBuild. The files 'AnyDesk', 'Atmel', 'Common Files', and 'Google' are highlighted in blue. At the bottom, there are navigation buttons and a 'キャンセル' button.

ファイル名	ファイルサイズ	ファイ...	更新日時
AnyDesk >		フォルダ	2024/09/17 20:02:54
Atmel >		フォルダ	2024/09/17 20:02:54
CWBackup >		フォルダ	2024/09/17 20:03:55
Common Files >		フォルダ	2024/09/17 20:03:55
Google >		フォルダ	2024/09/17 20:03:56
InstallShield Installation Information >		フォルダ	2024/09/17 20:04:05
Intel >		フォルダ	2024/09/17 20:04:05
Internet Explorer >		フォルダ	2024/09/17 20:04:06
MSBuild >		フォルダ	2024/09/17 20:04:06

### 注

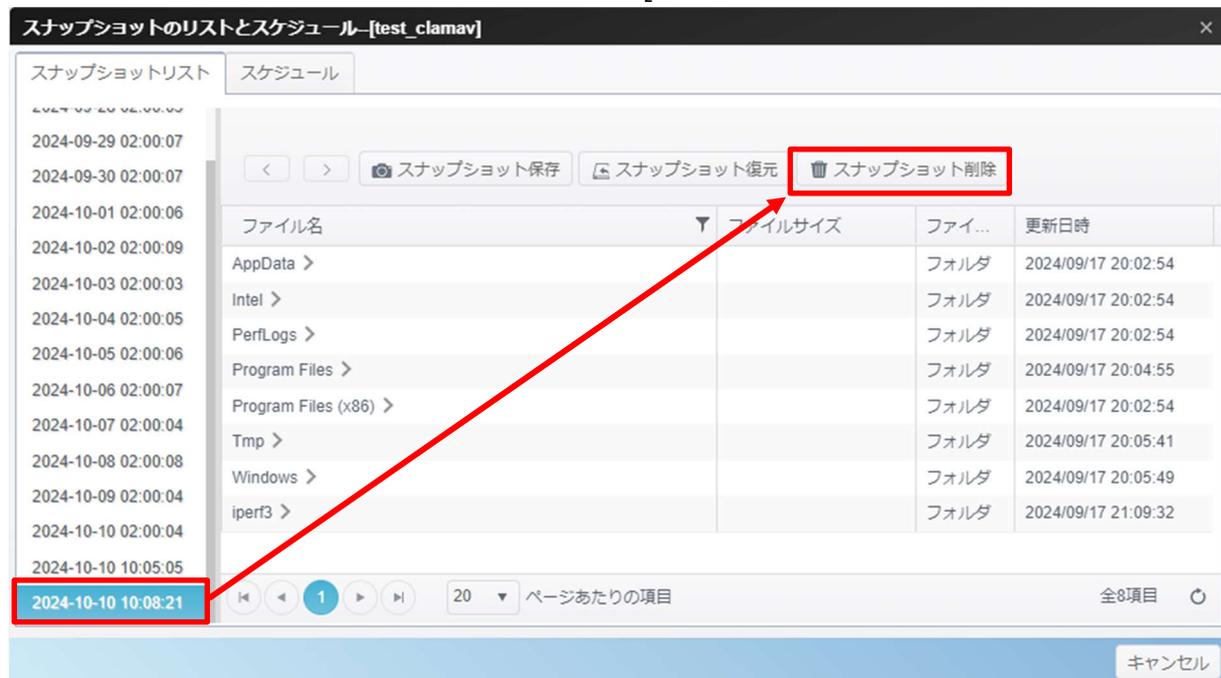
1つのページに表示されているものを Ctrl またはシフトを使って複数選択することができます。複数ページにまたがってファイル・フォルダを選択することは出来ません。ページが変わると選択はリセットされます。同様に異なる階層のファイル・フォルダも同時に選択することはできません。お手数ですが上下のスクロールで表示可能なページ内で選択してください。複数ページにまたがる場合はページごとで復元を繰り返し実行してください。

手順 3：スナップショット復元を押下すると下図のように確認ができます。「はい」を押すと元の場所に復元されます。上書きされて困る場合は「いいえ」を選び、一度キャンセルした上、元のファイルを移動するか別名に変更した上で再度実施してください。



### スナップショットの削除

スナップショットを削除するには、リストからバージョンを選択し、[スナップショット削除]を押下します。



## ローカルアカウント

本製品には、異なるグループポリシーを使用して、管理者がユーザーアクセスを管理することを可能にするユーザーデータベースが組み込まれています。**ローカルアカウントのアクセス権**メニューから、ユーザーを作成、変更および削除し、ACL 設定を行い、それらを指定するグループに割り当てることができます。



ユーザーID	ユーザー名	説明	Admin	最後のログイン	ユーザータイプ
1000	a		No	2023-12-12 08:26:28	ローカルユーザ
1001	EIGYOU		No		ローカルユーザ
1002	HINKAN		No		ローカルユーザ
1003	Shacho		No		ローカルユーザ
1004	EIGYOU-1		No		ローカルユーザ

## ユーザー

ローカルアカウントメニューから、ユーザー項目を選択します。ローカルユーザー設定画面が表示されます。この画面で、ローカルユーザーを追加、編集、削除、ACL 設定およびバッチ処理することができます。

ユーザーID	ユーザー名	説明	Admin	最後のログイン	ユーザータイプ
1000	a		No	2023-12-12 08:26:28	ローカルユーザー
1001	EIGYOU		No		ローカルユーザー
1002	HINKAN		No		ローカルユーザー
1003	Shacho		No		ローカルユーザー
1004	EIGYOU-1		No		ローカルユーザー

ローカルユーザー設定	
項目	説明
リフレッシュ	リフレッシュを押して、ユーザーリストを再読み込みします。
追加	追加ボタンを押して、ローカルユーザーのリストにユーザーを追加します。
編集	編集ボタンを押して、ローカルユーザーを変更します。
削除	削除ボタンを押して、ローカルユーザーを削除します。
ACL 設定	ACL 設定ボタンをおして、ACL の設定を行うことができます。
バッチ処理	バッチ処理ボタンを押します。関連画面が表示され、ローカルユーザーのバッチ入力を行うことができます。

## ユーザーの作成:

ユーザー画面で、**追加**ボタンを押します。**ユーザー作成**画面が表示されますので、ウィザードに従い、設定を完了します。

1. **ユーザー ID** 番号を入力するか、そのままにして、システムデフォルト値を使用します。
2. **アカウント ID** フィールドに**ユーザー名**を入力します。
3. **パスワード**ボックスに新しいパスワードを入力し、**確認**ボックスに新しいパスワードを確認のため再入力します。
4. ユーザー説明を入力します
5. ユーザーのメールアドレスを入力します
6. **[ 次 ]** を押下して、次ページに移動します。

### ユーザー情報

基本的なユーザー情報を入力します。

ユーザーID	<input type="text" value="1002"/>
*アカウントID	<input type="text" value="ここにユーザー名を入力してください。"/>
*パスワード	<input type="text" value="ここにパスワードを入力してください。"/>
*パスワード確認	<input type="text"/>
説明	<input type="text" value="ここに説明を入力してください。"/>
Eメール	<input type="text" value="ここにEメールを入力してください。"/>

### ユーザー名の制限

ユーザー名は 1~64 文字(英字および日本語などのマルチバイト文字)、  
使用できない文字は ^/;/;<=>?~&@[]\*,\$!()"|`#%¥^{}、および空白

**特殊アカウント** (以下の同一・類似文字列は大文字小文字含めシステムにより予約されているため使用できません。)

WebAdmin

root

nttpc

failover

clamav

ftp

sshd  
admin  
nobody

### **パスワードの制限**

パスワードは 4～16 文字の英数字で以下の文字

•0～9

•a-z

•~!@#\$%^&\*()\_+=+{|}[]¥;:'''./<>?

以下は、禁足文字

•`

•- (dash)

•Space

7. ユーザーが所属するグループを選択します。グループメンバーは、このユーザーが所属するグループのリストです。
8. **[次]** を押下して、次ページに移動します。

	グループID	グループ名
<input checked="" type="checkbox"/>	100	users

9. ページは、チェック用にユーザー情報をリスト表示します。
10. **[新規作成]** を押下すると、ユーザーが作成されます。

項目	値
アカウントID	user01
説明	
Eメール	
グループリスト	users

戻る      新規作成      キャンセル

11. ユーザー作成が完了し引き続き ACL 設定を行う場合は[はい]、あとで行う場合は[いいえ]を選択します。

作成完了

ユーザーを作成しました。  
ACLの設定を行いますか?

はい      いいえ

12.ACL の設定を行い、[適用]を押下して保存します。

ACL 設定 - user01

ACL

フォルダー名	<input type="checkbox"/> 読み込み	<input checked="" type="checkbox"/> 読み込み/書き込み	<input type="checkbox"/> 拒否
経営部	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

サブフォルダにも適応

適用 キャンセル

13.ACL 設定を行うと共有フォルダに対して設定キューが飛び、順次処理されていきます。

共有フォルダー

+ 追加    設定    ACL 設定

フォルダー名	RAID上...	ファイルシス...	パブリック	説明	ACLステータス
NAS_Public	R1	btrfs	はい		
USBHDD	R1	btrfs	しない		
営業部	R1	btrfs	はい		完了 ⓘ
経営部	R1	btrfs	しない		完了 ⓘ
3	R1	btrfs	しない		完了 ⓘ
4	R1	btrfs	しない		完了 ⓘ
5	R1	btrfs	しない		完了 ⓘ
6	R1	btrfs	しない		設定中
7	R1	btrfs	しない		処理待ち
8	R1	btrfs	しない		処理待ち
9	R1	btrfs	しない		処理待ち
10	R1	btrfs	しない		処理待ち

## 注

処理は共有フォルダー単位で行われます。完了となっていない共有フォルダに続けてキューを入力することはできません。サブフォルダーやファイル数が沢山ある場合には時間がかかります。ユーザーACL から ACL 設定を行うおうとして前の処理が終わっていないため設定が出来ないような場合は、共有フォルダー側からユーザーACL を設定するようにしてください。

ACL の設定後の設定中、処理待ちの状態ではファイルシステム、内部システムが故障する恐れがありますので、本製品の再起動、電源オフは行わないようお願い致します。

## バッチ処理:

また、本製品は、ユーザーおよびグループをバッチモードで追加することができます。これにより、Microsoft Excel (\*.csv) ファイルをインポートして、多数のユーザーおよびグループを自動的に追加することができます。

ユーザーメニューから、**バッチ処理**をクリックします。**バッチユーザー入力作成**ダイアログが表示されます。ユーザーおよびグループのリストをインポートするには、次の手順に従います:

1. **[ 選択 ]**を押下して、Excel (.csv) ファイルを検索します。
2. **確認**欄にメッセージがある場合、Excel (.csv) ファイルを修正します。
3. **バッチ処理確認**ボタンをクリックして、インポートを確認します。
4. または、左下隅で、操作のためサンプルファイルをダウンロードすることができます。

ユーザー名	パスワード	説明	Eメール	確認
-------	-------	----	------	----

### 注 1

すべてのユーザーが、「ユーザー」グループに自動的に割り当てられます。

### 注 2

ユーザー名に日本語を使いたい場合、バッチ処理に使用する csv ファイルの文字コードは UTF-8 (BOM なし) である必要があります。Excel で csv ファイルを作成または編集した後は「名前を付けて保存」メニューからファイルの種類を「CSV UTF-8 (カンマ区切り) (\*.csv)」に設定して保存してください。

### 注 3

バッチ処理で設定できるのは、ユーザー名、パスワード、説明、Eメール、のみです。他の項目はバッチ処理後にユーザー単位で編集してください。

## ユーザーの編集:

1. リストから既存ユーザーを選択します。
2. **編集**ボタンをクリックします。**ユーザー設定**画面が表示されます。
3. 必要に応じて、変更を行います。

編集

情報 グループ

基本情報

ユーザー名 a

パスワード パスワードを入力して下さい

パスワード再入力

説明 説明等を入力してください。

Eメール ここにEメールを入力してください。

適用 キャンセル

### 注

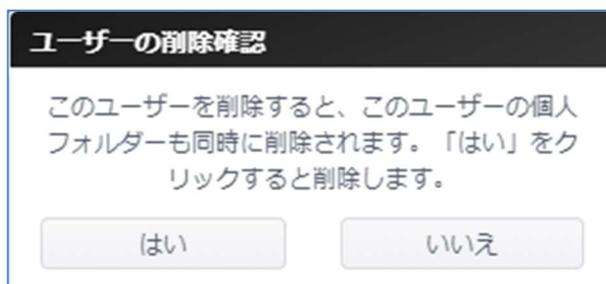
この編集画面で編集可能なのはパスワード、説明、Eメール、属するグループ名の変更となります。ユーザー名を変更されたい場合は、ユーザーを削除後に新規追加をお願い致します。

### 注

登録済みのユーザーの編集画面では登録済みのパスワードが表示されずに新たなパスワード入力を促していますが、登録済みのパスワードが消えたわけではありません。「キャンセル」押下することによって変更することなく、以前登録したパスワードで WebUI とファイルサービスをご利用いただけます。

## ユーザーの削除:

1. ユーザー画面で、ユーザーを選択して**削除**ボタンを押します。
2. **ユーザーの削除確認**画面が表示されますので、ウィザードに従い、「はい」を選択して削除します。  
削除しない場合は[いいえ]を選択します。



## グループ

### グループの作成:

グループ画面で、**追加**ボタンを押します。**グループ作成**画面が表示されます。ウィザードに従い、設定を完了します。

グループID	グループ名	グループタイプ
100	users	ローカルグループ

1. **グループ ID** 番号を入力するか、そのままにして、システムデフォルト値を使用します。
2. **グループ名**フィールドに**グループ**名を入力します。
3. [ **次** ] を押下して、次ページに移動します。

### グループ情報

グループの基本情報を入力してください。

グループID :

グループ名 :

4. ユーザーリストからグループメンバーを選択します。
5. [ 次 ] を押下して、次ページに移動します。

## ユーザー

### グループメンバー選択

全ユーザーの選択

<input type="checkbox"/>	UID	ユーザー名
<input checked="" type="checkbox"/>	1000	test1

◀ ◁ 1 ▷ ▶ 50 ▼ ページあたりの項目 全1項目 ↻

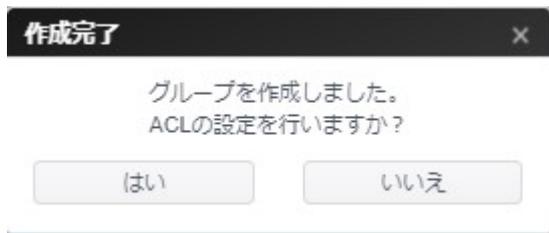
6. グループ設定の確認をしたら、[新規作成]を押下して新しいグループを作成します。

## グループ設定の確認

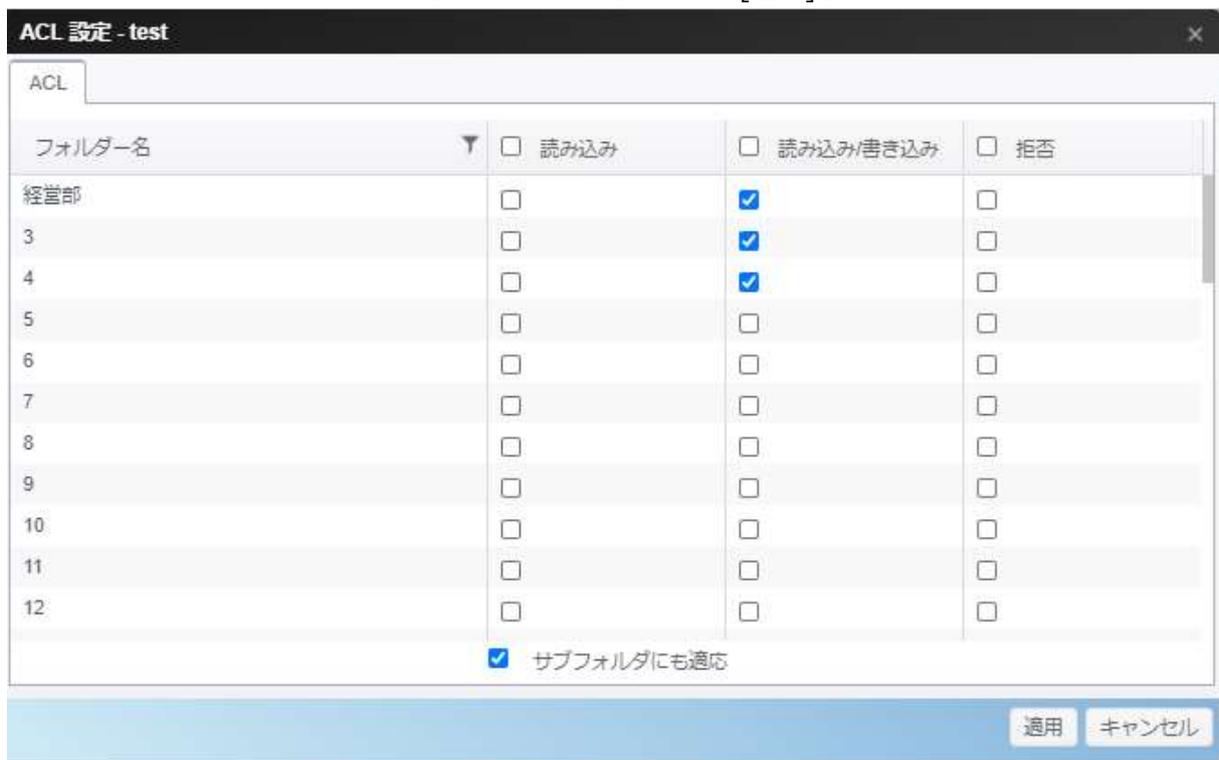
以下の設定を確認してください。ウィザードは数秒間処理します。

項目	値
グループ名	test
グループID	101

7. グループ作成が完了し、ACL 設定を引き続き行うときは[はい]、行わない時は[いいえ]を押下します。



8. 作成したグループの ACL 設定を行います。設定を実施したら[適用]を押下して保存します。



9. ここで ACL 設定を行わなかった場合、あとで ACL 設定をしたいグループを選択してから[ACL 設定]を押下することで設定をすることが出来ます。



### グループの編集:

1. リストから既存グループを選択します。
2. **編集**ボタンをクリックします。**グループ設定**画面が表示されます。
3. 必要に応じて、変更を行います。



編集

情報 ユーザー

基本情報

グループ名: test

グループID: 101

適用 キャンセル

### グループの削除:

1. リストから既存ユーザーを選択します。
2. **グループの削除**ボタンを押下します。削除確認が表示され OK を押下すると**ユーザー**がシステムから削除されます。



グループの削除確認

いずれかのユーザーの初期グループがこのグループの場合、このグループは削除されません。

OK キャンセル

## バックアップと復元

ユーザー・グループ・ACL の設定を保存、復元することができます。

### **保存(手動):**

1. 設定を PC に保存を押下すると「FileServer\_user-group-folder\_acl.bin」というファイル名で PC のダウンロードフォルダにダウンロードされます。

2. 設定を RAID に保存を押下すると RAID 内 (NAS\_Public¥ConfBin¥UserConf) に BPXXXXXX\_FileServer\_user-group-folder\_acl\_YYYYMMDD.bin という名前で保存されます。

1 日に複数回保存しようとしても 1 ファイルしか保存されず、上書き保存されます。

また保存できるのは 10 世代までとなります。

### **保存(自動):**

スライドを右に動かし緑色が有効、左側に動かし赤色が無効です。

有効になっていると毎日 0:05 に RAID 内に保存されます。無効化された場合、バックアップされませんので、適宜手動バックアップを取得するようお願い致します。

### **復元:**

<PC ファイル使用时>

復元に使うファイルを選択してくださいを押下してエクスプローラーから bin ファイルを選択するか、点線内のフィールドに bin ファイルをドロップしてください。

<RAID 保存ファイル使用时>

RAID 内ファイルを選択してくださいを押下し、10 世代のファイルから選んでください。

ユーザー	グループ	バックアップと復元
------	------	-----------

ユーザー・グループ・ACL設定の保存と復元

**保存(手動)**

設定をPCに保存      設定をRAIDに保存

**保存(自動)**

**復元**

<PCファイル使用時>      <RAID保存ファイル使用時>

復元を使うファイルを選択してください  
ここにファイルをドロップ

RAID内ファイルを選択してください  
RAID内コンフィグを選択

## AD

ネットワーク内のドメインセキュリティに対処するために Windows Active Directory (AD) サーバーを設置している場合は、AD サポート機能を有効にすると、AD サーバーに接続し、自動的にドメインユーザーおよびグループのすべての情報を取得します。**アクセス権**メニューから、**AD** を選択します。**AD 設定**画面が表示されます。これらの項目を変更し、**適用** を押して、設定を確定することができます。

設定を反映させるために再起動が必要となります。

## アクティブディレクトリ (AD)

ワークグループ/ドメイン (NetBios名)

ADサービスを有効にする

サーバー名

ドメイン名

ユーザー名

パスワード

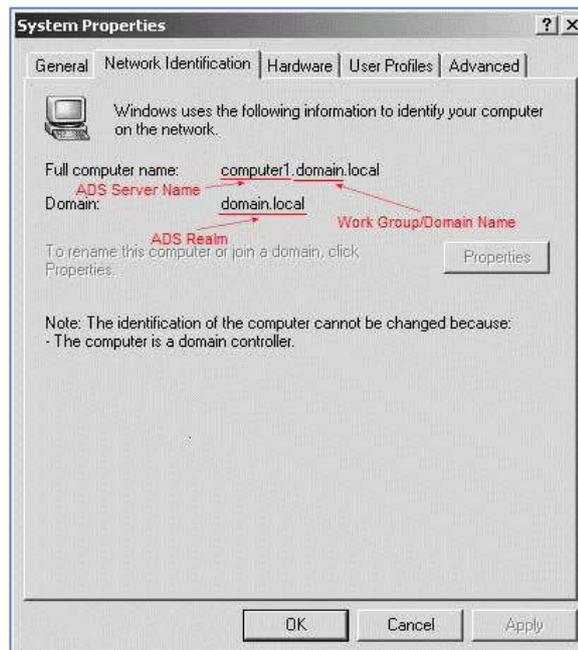
## 説明

1. ADに参加させる前にDNSサーバの各設定値が適切であることを確認して下さい。
2. ドメンコントローラとの時刻同期ができていることを確認して下さい。

各項目の説明は、次の通りです：

アクティブディレクトリ (AD)	
項目	説明
ワークグループ/ドメイン (NetBios 名)	SMB/CIFS ワークグループ/AD ドメイン名 (例えば、MYGROUP) を指定します。通常大文字で入力しますが小文字は大文字に自動変換されます。
AD を有効にする	Active Directory の有効無効を切り替えます。
サーバー名	AD サーバー名 (例えば、adservername) を指定します。
ドメイン名	AD レルム (例えば、example.com) を指定します。
ユーザー名	Windows Active Directory の管理者 ID を入力します。これは、本製品がドメインに参加するために必要です。
パスワード	AD 管理者のパスワードを入力します。
適用	設定を保存します。

AD ドメインに参加するために、次の図を参照し、以下の例を使って、関連するフィールド入力を設定してください:



AD ドメインの例	
項目	情報
ワークグループ/ドメイン名 (NetBios 名)	domain
AD サービスを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/> を入れる
AD サーバー名	Computer1
AD レルム	Domain.local
管理者 ID	Administrator
管理者パスワード	*****

**注**

- WAN/LAN1 設定ページで指定される DNS サーバーは、AD サーバー名を正しく解決できる必要があります。
- 本製品と AD の間のタイムゾーン設定が同一である必要があります。
- 本製品と AD の間のシステム時刻の差が 5 分未満である必要があります。
- 管理者パスワードフィールドは、AD (アクティブディレクトリ) サーバー用のパスワードであり、本製品用のパスワードではありません。

AD 設定が成功すると以下のようにローカルアカウントに AD ユーザーが追加されます。

AD サーバーがダウンした場合本製品にもアクセスできなくなりますので運用には注意が必要です。

ユーザーID	ユーザー名	説明	Admin	最後のログイン	ユーザクォ...	ユーザータ...
1000	a		No		--	ローカルユーザー
1001	b		No		--	ローカルユーザー
1002	c		No		--	ローカルユーザー
1003	user01		No	2020-02-14 03:19:43	--	ローカルユーザー
85739	administrator	Administrator	No	2020-02-14 14:07:36	--	ADユーザー
85740	guest	Guest	No		--	ADユーザー
85741	krbtgt	krbtgt	No		--	ADユーザー
86346	cas	AD Test1	No	2020-02-14 13:05:08	--	ADユーザー

表：アクセス権に関する動作環境

項目	OS4	OS8	OS12
ユーザアカウント数	50以下（推奨） 300以下（最大）		
ユーザ名	1～64文字(英字および日本語などのマルチバイト文字)、 使用できない文字は ^/:;<=>?~&@[]*+,\$!()"' `#%¥およびスペース。		
グループ名	1～16文字(英字および日本語などのマルチバイト文字)、 使用できない文字は ^/:;<=>?~&@[]*,\$!()"' `#%¥{ }およびスペース。		
最大保存ファイル数	250万ファイル（推奨） 1000万以下（最大）		
最大フォルダ階層	5階層（推奨）		
一階層の最大フォルダ数	50個（推奨）		
フォルダ名最大文字数	75文字（推奨） (*1)		
ファイル名最大文字数	75文字（推奨） (拡張子含む)(*1)		
フルパスの最大文字数	80文字（推奨） (¥¥ IPアドレス¥を含む) (*1)		
使用禁止文字	以下の文字は、ファイル名、フォルダ名に使用しないでください。 :[!]"*<>? /#\$%^&;¥ また、フォルダ名の先頭に (.) は使用できません。（必須）		

※環境依存文字は、利用しないでください。

## ストレージ



### ディスクと RAID

RAID および関連するストレージ情報が表示されます。また、ここから関連する設定を行うことができます。

### ディスク

ディスクと RAID は、不良ブロックスキャン中にハードディスクの基本情報、使用状況および進捗状況を表示します。

トレイ	モデル	容量	ファームウェア	使用状況	Support	進行
1	TOSHIBA MG04ACA4	3.6 TB	FJ5A	RAID	●ヘルスマネジメント: Green	
2	TOSHIBA MG04ACA4	3.6 TB	FJ5A	RAID	●ヘルスマネジメント: Green	
3	TOSHIBA MG04ACA4	3.6 TB	FJ5A	RAID	●ヘルスマネジメント: Green	
4	TOSHIBA MG04ACA4	3.6 TB	FJ5A	RAID	●ヘルスマネジメント: Green	
NVME1	TS128GMTE550T	122.1 GB	R1109C	未使用	●	

### リフレッシュ

画面の更新を行います。

### Support : ヘルスマネジメント

HDD の健康状態を定期的に監視して故障を予知します。

本機能は、一般的な故障検知機能の S.M.A.R.T よりも上位の HDD ベンダーから提供されるより詳細な情報に基づいて健康状態を判定しています。

Yellow のステータスが出て居る場合、Server サポート加入のお客様におきましては、保証期間内に限り HDD の無償交換を実施します。

サポートセンターにご連絡ください。

トレイ	モデル	容量	ファームウェア	使用状況	Support	進行
1	TOSHIBA MG08ADA4	3.6 TB	0101	RAID	●ヘルスマネジメント: Yellow	
2	TOSHIBA MG04ACA4	3.6 TB	FJ5A	RAID	●ヘルスマネジメント: Green	
3	TOSHIBA MG04ACA4	3.6 TB	FJ5A	RAID	●ヘルスマネジメント: Green	
NVME1	TS128GMTE550T	122.1 GB	R1109C	SSD Cache	●	

## スピンドウン (ディスク電源管理)

システムに取り付けたハードディスクに、しばらく読み書きが行われない場合、スピンドウン（停止）をさせることができます。初期値はオフ（無効）です。スピンドウンさせる時間を変更する場合 ドロップダウンオプションから選択して変更します。

スピンドウン (ディスク電源管理)

スピンドウン時間： オフ ▼

## ディスクセキュリティ

本製品は、ディスク自体のディスクロック機能を実行することができるディスクセキュリティはサポートしません。画面は表示されますが、設定等を行うことはできません。  
RAID の暗号化とは異なります。

RAID	ディスク	スピンドウン	Disk Security			
リフレッシュ						
<input type="checkbox"/>	トレイ	モデル	対応	暗号化	フリーズ	ロック
<input type="checkbox"/>	1	TOSHIBA MG04ACA4	✓	✗	✗	✗
<input type="checkbox"/>	2	TOSHIBA MG04ACA4	✓	✗	✗	✗
<input type="checkbox"/>	3	TOSHIBA MG04ACA4	✓	✗	✗	✗
<input type="checkbox"/>	4	TOSHIBA MG04ACA4	✓	✗	✗	✗

**説明**

1. 暗号化パスワードは必ず別の場所にバックアップをしてください。パスワードをなくすと、データは読み込めません。
2. ディスクがフリーズした場合、ホットプラグを行なってください。
3. ディスクを消去すると、Disk Securityは無効になります。
4. ディスクが使用中（RAID、ディスククローンなど）の場合、Disk Securityは有効にできません。
5. ディスクの消去にはしばらく時間がかかります。お待ちください。

## SSD キャッシュ

※本設定は出荷状態で設定済みです。新規作成、編集は行えません。

状態が「良好」であれば問題ありません。良好でない場合はサポートセンターに連絡してください。

SSD キャッシュは HDD アクセスの間に入り、書き込み速度が SSD と比べると遅い HDD のリード/ライトの応答性改善に役立ちます。

SSDキャッシュ						
キャッシュ名	SSD RAIDディスク	状態	RAID ID	ポリシー	モード	ブロック...
cache_md0_md100	NVME1	良好	FileServer	lru	wb	2048

**説明**

- ひとつ以上の未使用のディスクと対象のRAIDを選択しSSDキャッシュを構築してください。対象RAIDの書き込み、読み込み速度を向上します。
- 選択されたRAIDの容量はこれらの未使用ディスクの総容量より大きくなくてはなりません。
- 交換ポリシー：このポリシーは、SSDキャッシュがいっぱいになると適用されます
  - \* RAND：Random、データはランダムに置き換えられます。
  - \* FIFO：First In First Out、先に保存されたデータから置き換えられます。
  - \* LRU：Least Recently Used、最近使われていないデータから置き換えられます。
- モード：SSD RAIDの書き込みモードです。
  - \* WB：Write Back、先にSSD RAIDにデータを書き、その後RAIDに書き込みます。
  - \* WT：Write Through、SSD RAIDとRAIDに同時に書き込みます。
  - \* RO：Read Only、RAIDにのみデータを書き込みます。

## サービス

サービスメニューを使って、ネットワークサービスサポート設定を行います。



## ファイルサービス

管理者が Samba プロトコルに関連する 本製品の操作を有効/無効にするオプションがあります。



## Samba サービス

UNIX シリーズのオペレーティングシステムおよび Microsoft Windows オペレーティングシステムの SMB (サーバーメッセージブロック/共通インターネットファイルシステム) のために使用されます。インターネットプロトコルにリンクします。

Windows、Apple、Unix ドライブマッピングに対する SMB プロトコルを有効または無効にします。

### 注

- 一部の環境では、セキュリティ上の問題のために、コンピュータウイルスに対する予防策として SMB を無効にすることもできます。ただし SMB を無効にすると本機に接続できなくなる(ファイル共有できなくなる)ため通常は無効にすることはしません。

Samba オプションに関連する更なるオプションの詳細については、**詳細**を押下してください。

## Windowsファイルサービス(Samba)

Sambaサービスを有効にする

詳細 ▶

### 一般設定

ファイルアクセスキャッシュ

匿名ログインの制限

ネイティブモード

信頼できるドメインの許可

SMB Min プロトコル

2 ▼

SMB Max プロトコル

3 ▼

SMB Encryption (SMB3)

自動 ▼

SMB暗号化を指定します

ブロックサイズ

4096 ▼

サーバーサイニング

自動 ▼

LDAPのサポートポリシー

Sign ▼

### ファイルアクセスキャッシュ

ファイルアクセスキャッシュは、デフォルトで**有効**です。このオプションは、SMB プロトコル下の書き込みにおいて、単一クライアントが共有フォルダーにアクセスする際、性能を向上させます。

## 匿名ログインの制限

このオプションを有効にするには、共有フォルダーが公開アクセスに作成されているかどうかに関係はありません。SMB プロトコル下でアクセスするには、システムからのユーザーアカウントとパスワードが必要です。一方、匿名ログインは許可されません。

## ネイティブモード

本製品は、Samba モードオプションをサポートします。「ネイティブ」モードが選択された ADS 環境では、本製品は、ローカルマスターの位置をとることが可能です。

## 信頼できるドメインの許可

これは、Samba サーバーのみが、そのメンバーであるドメイン内のユーザーにリソースを提供するようにする場合に有用です。例えば、2 つのドメイン DOMA と DOMB があると仮定します。DOMB は、Samba サーバーを含む DOMA により信頼されています。通常の状態化で、DOMB 内にアカウントを持つユーザーは、DOMA 内にアカウントを持たない場合でも、Samba サーバー上に同じアカウント名を持つ UNIX アカウントのリソースにアクセスすることができます。これは、セキュリティ境界の実装を困難にする場合があります。

## SMB Min プロトコル/ SMB Max プロトコル

利用する最小および最大のプロトコルレベルを設定します。

## SMB Encryption (SMB3)

SMB3 有効時には暗号化機能を追加できます。

- 自動：クライアントが対応している場合に自動で適用されます
- 必須：常に暗号化が適用されます
- 無効：暗号化は適用されません

## ブロックサイズ

ディスクの空き容量を報告する際のブロックサイズを設定します。1024 と 4096 の 2 段階です。

## サーバーサイニング

SMB パケットのデジタル署名をどう適用するかを設定します。

- 自動：クライアント側の SMB パケット署名が有効の場合に自動的に適用
- 必須：常に SMB パケット署名を適用
- 無効：SMB パケット署名は適用されません

## LDAP のサポートポリシー

LDAP トラフィックを設定します。

- Sign：署名されます
- Seal：署名され暗号化されます
- Plain：署名/暗号化はされません

Mac 関係のオプションの詳細については、「Mac 関係」を押下してください。



### 一時ファイルを隠す

これは表示されませんが、アクセス可能なファイルやディレクトリのリストです  
Samba のゴミ箱に関する設定については、下記を参照してください。

### ゴミ箱

ゴミ箱を有効にする

表示フォルダー

Clean Up Recycle Bin Time

00 : 00

ごみ箱を空にする時刻を設定します

自動削除

0 日

(手動で空にする場合は0を入力してください。)

ごみ箱に入る単一ファイルの最大サイズ

0 GB

(サイズ制限を設けない場合は0を入力してください。)

本製品は、SMB プロトコルを介して、ゴミ箱をサポートします。

「ゴミ箱を有効にする」にチェックをごみ箱機能が有効になります。「表示フォルダ」にチェックを入れると、「\_NAS\_Recycle\_(RAID ボリューム名)」共有フォルダー内の削除されたフォルダー/ファイルを表示します。

削除したフォルダー/ファイルに対してゴミ箱を管理する 2 つの設定があります。

1. ゴミ箱内のフォルダー/ファイルを恒久的に削除するまでの「日数」を設定します。手動でゴミ箱を空にする場合は、値を「0」にします。

削除したフォルダー/ファイルをゴミ箱内に保持する「サイズ」を設定します。値を「0」に設定すると無制限になります。

### ファイルの削除とファイルの復元について

「ゴミ箱」機能が有効であるとき（例）NAS\_Public 中のファイルを削除した場合、\_NAS\_Recycle\_ (RAID ボリューム名) の NAS\_Public にファイルが移動されます。Windows ゴミ箱とは違い「元に戻す」機能を持っていません。

元の場所に戻したい場合は手動でファイルの「切り取り」を行い、元の場所に「貼り付け」を行うことで元に戻ります。元のファイルのファイル属性は維持されます。属性の維持については、以下の表、注のようにファイルフォーマットにより状態が異なります。

「切り取り」ではなく「コピー」を行った場合は、ゴミ箱にファイルが残ります。（上記設定で自動削除無効の時）この状態で再度同じファイルの削除を行うとゴミ箱に既に存在するファイル名と同じファイル名のファイルがゴミ箱に移動されることとなり、ファイル名の重複が起きるため、コピーによりファイルを取り出し再度ゴミ箱に廃棄した場合、ファイル名の重複を回避するために Copy # 1 of （ファイル名）というリネームが行われます。Copy # (数字) of （ファイル名）の（数字）は 1 から始まり、重複が増える度に数字は増えていきます。

<各ファイルシステムにおけるファイルの削除、ゴミ箱内、取り出した後の属性の変化>

	PC から本製品へ	本製品 フォルダー で 削除してゴミ箱へ	ゴミ箱 から取り出し 本製品フォルダーへ
Btrfs + Samba	R/S/A 属性維持	R/S/A > S に変化	S > SA に変化

（属性の意味）

R：読み出しのみ属性。書き込みが禁止されています。

S：システム属性。システムを構成する重要なファイル。

※Btrfs ファイルシステム使用時はゴミ箱から削除/取り出したファイルを削除しようとするファイルにシステム属性が付与されているため、Windows からシステムファイルの削除に対しての警告が出ます。通常元々ファイルがシステムファイルでない限り、この警告が出てても削除しても問題はありません。

A：アーカイブ属性。ファイルが更新されると付与され、バックアップソフトがバックアップする必要があるファイルにつけられる目印となっている。

**注**

- ゴミ箱に入るとシステム属性、取り出したファイルはシステム・アーカイブ属性と変化します。
- ファイルセンターと FTP でファイルを消去した場合はファイルシステムに関わらずゴミ箱には入らずに完全に削除されます。

**注**

- パブリックフォルダーのファイル/フォルダーは誰でも、削除/ゴミ箱から取り出しができますが、アクセス制限がされたフォルダーにおいては、管理者および所有者のみが、これらのファイル/フォルダー表示/読み書き/取り出しをすることができます。
- 削除された単一ファイルサイズがゴミ箱に入る単一ファイルの最大サイズで設定したサイズよりも大きい場合はゴミ箱には入らず、即座に恒久的に消去されます。

## FTP

本製品は、FTP サーバとして機能し、お気に入りの FTP プログラムを使って、ユーザーにファイルをダウンロードおよびアップロードさせることができます。**ファイルサービス**メニューから、**FTP** 項目を選択します。**FTP** 画面が表示されます。これらの項目を変更し、**適用**を押して、設定を確定することができます。

The screenshot shows a configuration panel titled "設定パネル" (Settings Panel) with a sidebar on the left containing menu items: コントロール (Control), アクセス権 (Access Rights), ストレージ (Storage), サービス (Services), **ファイルサービス** (File Services), VPNサービス (VPN Service), and バックアップ (Backup). The main area is titled "FTPサービス" (FTP Service) and has tabs for "Samba" and "FTP". A checkbox labeled "FTPサービスを有効にする" (Enable FTP service) is checked. Below it, the "ポート:" (Port) is set to "21". There are "詳細" (Details) and "適用" (Apply) buttons.

詳細設定を表示するには、「詳細」ボタンをクリックします。

The screenshot shows detailed configuration options for the FTP service:

- パッシブIP: Text input field with placeholder "ここにIPv4を入力してください。" (Enter IPv4 here).
- パッシブポート範囲: Range selector showing "30000" and "30020".
- アップロードのバンド幅: Input field "0" with "KB/s" label.
- ダウンロードのバンド幅: Input field "0" with "KB/s" label.
- FTPのエンコード: Dropdown menu set to "UTF-8".
- 匿名FTPアクセスを許可する: Dropdown menu set to "アクセスなし" (No access).
- Explicit TLS:
- オートリネーム:
- 全ファイル保持:
- 名前の変更禁止:

各項目の説明は、次の通りです:

FTP	
項目	説明
FTP	本製品の FTP サービスを有効にします。
ポート	非標準ポートでの着信接続用ポート番号を指定します。
パッシブ IP	ExplicitTLS の設定が有効になっているとき、ルーターのパブリック IP アドレスを入力します。ファイアーウォールが原因でうまく接続が行えない時に使用します。
パッシブポート範囲	FTP サーバが使用する限定されたポート範囲です。30000~32000 が入力できます。
FTP のエンコード	FTP クライアントまたはオペレーティングシステムが Unicode をサポートしていない場合 (例えば、Windows® 95/98/ME または MAC OS9/8) 、ファイルおよびディレクトリをサーバで正しく表示するためにこの OS と同じエンコードを選択します。利用可能なオプションは、BIG5、HZ、GB2312、GB18030、ISO、EUC-JP、SHIFT-JIS および UTF-8 です。
匿名 FTP アクセスを許可する	<b>アップロード/ダウンロード:</b> 匿名 FTP ユーザーがパブリックフォルダーへ/からファイルをアップロードまたはダウンロードできるようにします。 <b>ダウンロード:</b> 匿名 FTP ユーザーがパブリックフォルダーからファイルをダウンロードできるようにします。 <b>アクセスなし:</b> 匿名 FTP ユーザーのアクセスをブロックします。
アップロードのバンド幅	ファイルのアップロードのための最大帯域を設定できます。 <b>無制限の 0 または 1~524288KB/秒</b> の値が設定可能です。
ダウンロードのバンド幅	ファイルのダウンロードのための最大帯域を設定できます。 <b>無制限の 0 または 1~524288KB/秒</b> の値が設定可能です。
ExplicitTLS	セキュリティ TLS を有効または無効にします。クライアント FTP ソフトウェアが、セキュリティ TLS を有効に設定していることを確認してください。
オートリネーム	チェックを入れた場合、重複したファイル名でアップロードされたファイルの名前をシステムが自動的に変更します。名前変更方式は、[ファイル名].# です。ここで、# は整数を表します。
全ファイル保持	チェックを入れた場合、ユーザーはファイルをアップロードすることが出来ますがアップロードされたファイルを削除することは出来ません。
名前の変更禁止	チェックを入れた場合、ユーザーはファイルをアップロードすることが出来ますがアップロードされたファイルの名前を変更することは出来ません。

**注**

SAMBA の ACL で共有フォルダに対して読み取り専用とした場合でも FTP ではファイル転送・保存可能となりますので、ご注意ください。

## VPN サービス

### OpenVPN クライアント

出荷時設定済みです。

リモートサポートの際に必要です。接続成功と表示されていれば問題ありません。

「接続成功」状態の場合は「接続停止」ボタンは押下しないようにお願いします。

「接続中」状態となっている場合、もしくは「接続成功」となっていない場合は「接続停止」ボタンを押下し、「接続」ボタンを押下し「接続成功」となるようにお願いします。

※「接続成功」となっていない場合はリモートサポートが受けられなくなりますのでご注意ください。

権限がないアカウントでは閲覧のみで接続/切断の切り替え、設定はできません。

OpenVPNクライアント

OpenVPNクライアント

VPNクライアントを有効にする	接続停止
接続状態	接続成功
証明書用ZIPファイル	BS390009
リトライ回数	0
IP アドレス	172.19.5.234
最終接続日時	2020-09-07 01:27:03

①

選択 ここにファイルをドロップ

```
tun0 Link encap:UNSPEC HWaddr 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
inet addr: 172.19.5.234 P4-P: 172.19.5.233 Mask: 255.255.255.255
inet6 addr: fe80::a958:55:5505:1cf6/64 Scope: Link
UP POINTOPOINT RUNNING NOARP MULTICAST MTU:1500 Metric:1
RX packets:3856 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
TX packets:3883 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
collisions:0 bqueuelen:100
RX bytes:324744 (317.1 KiB) TX bytes:325560 (317.9 KiB)
```

OpenVPNクライアント

OpenVPNクライアント

VPNクライアントを有効にする	接続
接続状態	リンクなし
証明書用ZIPファイル	TS999203
リトライ回数	0
IP アドレス	
最終接続日時	

選択 ここにファイルをドロップ

OpenVPN クライアント	
項目	説明
VPN クライアントを有効にする	接続/接続停止の切り替えを行います。
接続状態	接続状態を表示します。
証明書用 ZIP ファイル	ホスト名が表示されます。
リトライ回数	接続試行した回数を表示します。接続がうまくいっていない場合試行回数が増えていきます。
IP アドレス	VPN クライアントの IP アドレスを表示します。
最終接続日時	最後に接続した時間を表示します。
ここにファイルをドロップ	Certificate ZIP File をドロップして読み込ませます。切断されている状態の時のみドロップできるようになります。

## バックアップ



### ローカルバックアップ

### 外付け HDD バックアップ

外付けの HDD/USB メモリを追加し、RAID ボリュームのデータのバックアップを行います。

※バックアップデータの喪失を防ぐため、コンフィグの復元時はローカルバックアップおよびクラウドバックアップのスケジュール実行が無効化されます。

コンフィグの復元後はデータのリストアを行っていただき、その後に無効化されているローカルおよびクラウドバックアップタスクのスケジュール実行を有効な状態に戻していただきますようお願いいたします。

※データのリストア前にバックアップタスクのスケジュール実行を有効化されると バックアップデータが喪失しますのでご注意ください。



### 外付け HDD バックアップの追加

+追加のボタンを押下し、バックアップ先を☑をつけて選択します。

- 以下バックアップ先についての注意事項です。

※**暗号化キーを保存している USB メモリを選択することはできません**。外付けデバイスでファイル名と表示されている項目で確認できます。通常 sd\* が暗号化キーを保存している USB メモリですが挿抜することで変わる場合があります。

※sd\*は本製品におけるデバイス名であり、この場所を☑すると右上に警告が出て選択することができません。

外付け HDD ではないため、チェックを行わないでください。

\*には a-z のアルファベットを本製品が自動で割り振ります。接続する台数によっては sdaa など\*のアルファベットが 2 文字になる場合があります。

※1 はパーティション番号であり、フォルダー階層としては一番上の場所（ルート、C:¥に相当する場所）となります。保存先はこのパーティション番号（数字）か、事前にフォルダーを作成してより下位の場所を選択してください。フォルダーなどがある場合、表示されます。

※System Volume Infomation というフォルダーを保存先に選択してはいけません。

※保存先はチェックボックスに☑をつけることで選択できます。☑の横はクリックが可能ですが選択する必要はありません。

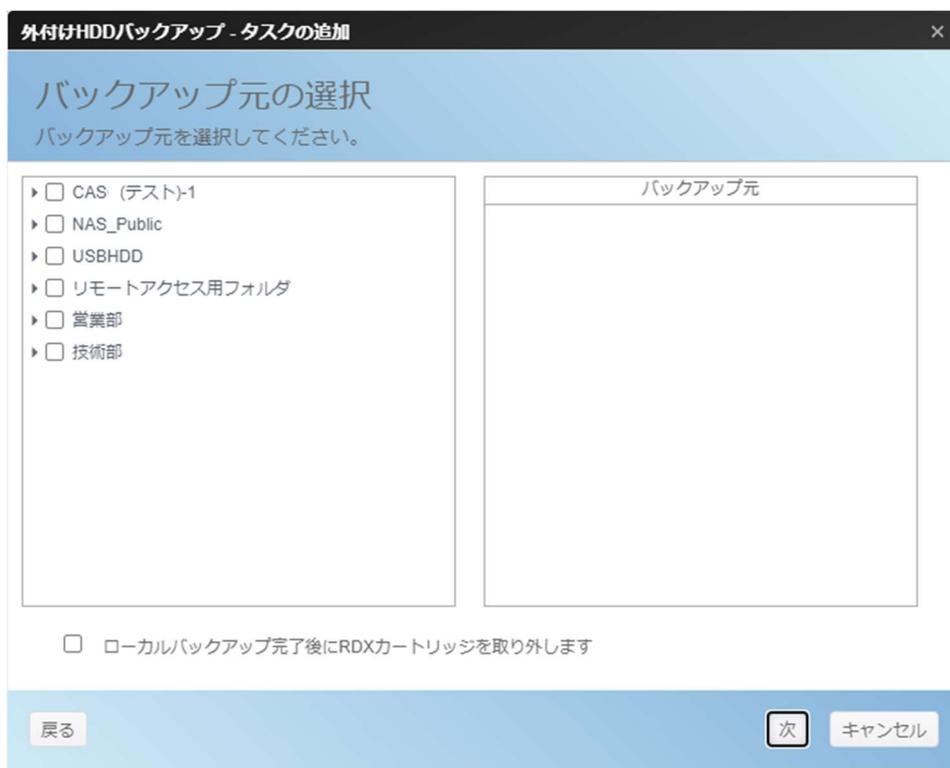


バックアップ元を☑をつけて選択します。(複数選択可能)

以下バックアップ元についての注意事項です。

※バックアップ元にバックアップ先である外付け HDD を選ぶことができますが、データが重複して HDD が容量超過になる可能性があるので選択しないでください。

バックアップ先同様**※暗号化キーを保存している USB メモリを選択することはできません。**



**詳細設定 :**

タスクの状態を有効にして設定を行います。

**外付けHDDバックアップ - タスクの追加** ×

## 詳細設定

項目を入力してください。

有効/無効

タスク名

同期タイプ  同期  増分

スケジュールタイプ  スケジュール  リアルタイム

ログファイルの場所

スケジュールを有効にする

頻度

時間  :

戻る次キャンセル

外付け HDD バックアップタスクの追加	
項目	説明
状態	スライダー右（緑色）：タスク有効 スライダー左（赤色）：タスク無効
タスク名	バックアップタスク名です。半角英数字および「-」「_」のみ使用できます。最大 30 文字までです。タスクの追加後のタスク名変更は不可となります。
同期タイプ	同期モード： バックアップ元とバックアップ先を完全に一致させます。バックアップ元で削除または追加されている通りにバックアップ先にファイルを削除および追加します。 増分モード： バックアップ元をバックアップ先に一致させ、すべての古いファイルを保持します、バックアップ元に追加されている通りにバックアップ先にファイルを追加します。しかし、バックアップ元ファイルで削除されている通りにバックアップ先でファイルを削除しません。
スケジュールタイプ	リアルタイム： 直ちにバックアップ元からバックアップ先にフォルダー/ファイルをバックアップします。一方、バックアップ元の変更は、直ちにバックアップ先にバックアップされます。 スケジュール： タスクはスケジュールに従ってのみ開始されます。
ログファイルの場所	表示のフォルダーに保存されます。

スケジュールを有効にする	バックアップが「スケジュール」に設定されている場合、関連する頻度と時間を入力します。
--------------	--

**詳細設定：**

詳細設定を行い次へ進みます。

外付けHDDバックアップ - タスクの編集
×

## 高度設定

リモートバックアップの高度設定

シンボリックリンクのバックアップ

圧縮を有効にする

直接データをアップデート

部分ファイルの再開

まばらなファイル

速度制限

KB/秒 (0にすると無制限となります。)

タイムアウト制限

秒

フィルターを有効にする

ファイルサイズ

KB ~  GB

includeを有効にする

ドキュメント    写真

ビデオ    音楽

その他

ファイルタイプを入力してください(例: jpg)

excludeを有効にする

戻る
次
キャンセル

外付け HDD バックアップタスクの追加	
項目	説明
シンボリックリンクのバックアップ	シンボリックリンクのバックアップを行います。
ACL 設定の維持	データおよび関連するフォルダー/ファイルの ACL 設定をバックアップします。
圧縮を有効にする	このオプションを使って、バックアップ先機器に送信する際、ファイルデータを圧縮します。これは、転送されるデータ量を削減し、低速接続において有用です。
直接データをアップデート	ファイルをコピー元からコピー先にコピーする際、一時ファイルの作成をバイパスします。これは効率的ですが、操作中に中断が発生した場合、リスクを負うことになります。
部分ファイルの再開	これを有効にし、部分ファイルを維持し、ファイルの残りの後続の転送をより高速にします。

まばらなファイルの処理	<p>バックアップ先のスペースを削減できるように、まばらなファイル进行处理します。</p> <p>チェックボックスを有効化した場合の効果：</p> <p>1)バックアップ対象のデータ量が大幅な減少</p> <p>2)バックアップ先の外付け HDD 使用スペースの効率化</p> <p>*「まばらなファイルとはファイルに割り当てられたブロックが空の場合にファイルシステムの領域を効率よく使用するコンピュータファイルのことです。ブロックを実際に"空"の領域で埋めるのではなく、空のブロックであることを示す簡単な情報（メタデータ）をディスクに書き込むことで、ディスクの使用量を減らします（すなわち、まばらなファイルには存在を示すためのゼロブロックだけがあり、ディスク上には全く領域が割り当てられません）。ブロックに"本物"の（空ではない）データが現れたときに、実際にディスクにデータ容量分のブロックサイズが書き込まれます。」</p>
速度制限	データアップ操作に対する帯域幅制限を入力します。
タイムアウト制限	バックアップ元とバックアップ先システムの間接続の構築を試みる際のタイムアウトを設定します。
フィルタを有効にする	<p>フィルタは、特定の状況においてのみ実行されるように設定することができます。それらのどれもが選択されていない場合、バックアップ元からバックアップ先へのバックアップを行います。</p> <p>ファイルサイズ: xx ~ xxx です  xx = 1 数字 1 で、xxx がブランクの場合、ファイルサイズ &gt; 数字 1 のみが、リアルタイムバックアップされます。  xx = 数字 1 および xxx = 数字 2 の場合、数字 1 と 数字 2 の間のサイズのみが、リアルタイムバックアップされます。  xx がブランクで、xxx = 数字 2 の場合、ファイルサイズ &lt; 数字 2 のみが、リアルタイムバックアップされます。</p> <p>※下記 include/exclude を有効にするの設定はどちらか一方のみ有効にすることができます。  include を有効にする: 関連するファイル形式のみをリアルタイムバックアップします。</p> <p>exclude を有効にする: 除外するファイル形式は、リアルタイムバックアップに含まれません。</p> <p><b>文書ファイル形式:</b> txt, rtf, pdf, doc, docx, xls, xlsx, ppt, pptx, htm, html</p> <p><b>写真ファイル形式:</b> ai, bmp, eps, gif, jpeg, jpg, png, psd, tif, tiff, pbm, tga, xar, xbm</p> <p><b>ビデオファイル形式:</b> avi, fli, flv, m4a, mov, mpg, mp4, mkv, ram, rm, rmvb, wmv</p> <p><b>音楽ファイル形式:</b> aac, dss, dvf, m4p, mp3, wav, wma, msv, 3gp, amr, awb, aif, flac</p> <p>ユーザー定義を他のボックスに入力することができます。</p>

**設定確認：**

行った設定（バックアップ元、バックアップ先）を表示します。

最後に終了を押下しないとタスクは保存されません。



## タスクの編集:

作成したタスクを編集するには、項目を選択し、**編集**を押下します。

外付けHDDバックアップ							
+ 追加		✎ 編集	🗑 削除	▶ 開始	↶ 復元	✎ リアルタイムバックアップ設定	
有効/無効	タスク名	バックアップ対象フォルダー	前回実行	タスク	同期タ...	頻度	ステータス
	Backup1	NAS_Public	前回バックアップ開始日時: 2024/10/16 13:22 前回バックアップ中止日時: 2024/10/16 13:26	スケジュール	同期	毎日 00:00	中止

外付け HDD バックアップタスク	
項目	説明
追加	新しいバックアップタスクを追加します。
編集	既にあるバックアップタスクを編集します。
削除	既にあるバックアップタスクを削除します。
開始	タスクを手動で開始します。スケジュールタスクでスケジュールを待たずに開始します。
中止	実行中のタスクを中止します。リアルタイムタスクは中止しないと編集や復元をすることが出来ません。
復元	保存先(USBHDD)の内容が保存元(RAID)と同期します。
リアルタイムバックアップ設定	サブフォルダ数が多い共有フォルダーのリアルタイムバックアップを実行すると、正常に完了しないことがあります。その場合は「待機キューのサイズ」を変更により改善される場合があります。。サイズによりメモリ使用量は増加する為、推奨値は初期設定値「20,000」です。[20,000(初期設定)][50,000][100,000][200,000]
有効/無効	タスクが有効であるときは緑、無効の時は黒い●が表示されます。
タスク名	タスク名を表示します。
バックアップ対象フォルダー	バックアップ対象フォルダーを表示します。
前回実行	上段に前回のバックアップ開始日時と下段にバックアップ完了、失敗または中止日時を表示します。
タスク	スケジュールがリアルタイムを表示します。スケジュールはスケジュールで設定した時間にタスクを開始します。リアルタイムは常にバックアップを実施しています。
同期タイプ	同期モード: バックアップ元とバックアップ先を完全に一致させます。バックアップ元で削除または追加されている通りにバックアップ先にファイルを削除および追加します。 増分モード: バックアップ元をバックアップ先に一致させ、すべての古いファイルを保持します、バックアップ元に追加されている通りにバックアップ先にファイルを追加します。しかし、バックアップ元ファイルで削除されている通りにバックアップ先でファイルを削除しません。
頻度	スケジュールタスクの周期を表示します。 ・毎日 hh:mm ・毎週 ●曜日 hh:mm ・毎月 ●日 hh:mm タスクがリアルタイムの場合、「-」を表示します。

ステータス	<p>[バックアップ中]、[完了]、[失敗]表示し、i マークにはそのファイル数を表示します。手動で中止した場合は[中止]を表示します。</p> <p>タスクがスケジュールの到来を迎え、キューとして待機している時は[待機中 n/N]と表示されます。</p> <p>バックアップタスクの順序制御(キュー制御)について</p> <p>複数のバックアップタスクを登録している場合、タスクに登録されたフォルダのファイルの数、容量や、タスク実行スケジュールのタイミング等によって登録タスクが実行されないようなことが発生しないように順序(キュー)制御を行っております。タスクがスケジュール実行時間となった場合、キューとして待機している時は[待機中 n/N]と表示されます。スケジュールタスクをキューという順番待ちに並べ、タスクが完了してから再度スケジュール実行時間になると再度キューに追加されます。キューとして順番待ちの間、重複してキューに登録されることはありません。これにより全てのタスクが順序制御され平等に実行されます。</p> <p>外付け HDD の故障や復号化に問題がある場合[ターゲットを喪失しました。]と表示されます。</p>
-------	--

タスク編集ウィザードに従い、必要な変更を行います。

タスクの追加時同様ですが、タスク名は変更不可となります。



### タスクの開始:

タスクのステータスが有効である場合、選択し、開始ボタンを押下して、直ちに実行することができます。

外付けHDDバックアップ							
+ 追加		● 中止		リアルタイムバックアップ設定			
有効/無効	タスク名	バックアップ対象フォルダー	前回実行	タスク	同期タ...	頻度	ステータス
	Backup1	NAS_Public	前回バックアップ開始日時: 2024/10/16 13:27 前回バックアップ完了日時: 2024/10/16 13:28	スケジュール	同期	毎日 00:00	待機中 (1/1)

有効/無効	タスク名	バックアップ対象フォルダー	前回実行	タスク	同期タ...	頻度	ステータス
	Backup1	NAS_Public	前回バックアップ開始 日時: 2024/10/16 13:28 前回バックアップ完了 日時: 2024/10/16 13:28	スケジュー ール	同期	毎日 00:00	完了 ⓘ

完了の右の i マークにカーソルを合わせるとファイル数の情報が表示されます。

有効/無効	タスク名	バックアップ対象フォルダー	前回実行	タスク	同期タ...	頻度	ステータス
	Backup1	NAS_Public	前回バックアップ開始 日時: 2024/10/16 13:34 前回バックアップ完了 日時: 2024/10/16 13:34	スケジュー ール	同期	毎日 00:00	完了 ⓘ Total files: 9,328 Transferred files: 4 Deleted files: 0

### タスクの復元:

バックアップタスクからバックアップを復元するには、タスクリストからタスクを選択し、次に、機能バーから「復元」を押下します。復元タスクは、バックアップ元に対して、復元対象フォルダーから関連するファイル/フォルダーを復元します。

**警告**

この動作は[同期]です。  
[バックアップ元]データは[バックアップ先]と同じ  
になります。  
本当にいいですか？

有効/無効	タスク名	バックアップ対象フォルダー	前回実行	タスク	同期タ...	頻度	ステータス
	Backup1	NAS_Public	前回バックアップ開始 日時: 2024/10/16 13:28 前回バックアップ完了 日時: 2024/10/16 13:28	スケジュー ール	増分	毎日 00:00	復元中

### 注

- 「リアルタイム」として設定されたバックアップタイプでタスクを復元するには、最初に復元操作停止し、その後、復元操作を続行する必要があります。

**ローカルバックアップ失敗時のアラートメール:**

ローカルバックアップに失敗するとアラートメールが送信されます。

タスク設定や HDD の接続状況をご確認ください。

Subject:ERROR([BP\*\*\*\*\*])

From:通知で設定したメールアドレス

To:通知で設定したメールアドレス

[ローカルバックアップ]タスク[task\_name]バックアップに失敗しました。  
タスクの設定およびハードディスクの接続状態(フォーマット含む)をご確認ください。

-----お客様情報-----

(BP\*\*\*\*\*)

(serialnumber)

[IP アドレス(VPN) : IP アドレス]

[フェイルオーバー利用有無 : No ]

[アクティブ・スタンバイ区分 : - ]

-----

## クラウドバックアップ

### ～注意事項～

クラウドバックアップサービスは、有料のサービスになります。ご利用になる場合には、販売店様へ申し込みの上設定をお願いします。

クラウドバックアップは、登録した全タスクのバックアップ元フォルダのトータル容量が契約容量の80%を超えた場合、アラートメールを送信します。バックアップは停止しません。

80%アラートメールを受信した場合には、契約容量をアップするか、バックアップ指定しているフォルダの容量を整理してアップロード容量制限に到達しないように調整をお願いします。

アップロード容量制限を超えたデータをアップロードすることはできません。※アップロード容量制限に到達している場合にはタスクは実行されずアラートメールが送信されます。

アラートメールを受信した場合には、契約容量をアップするか、バックアップ元のフォルダの容量を契約容量内になるように削減をお願いします。※削減が不可の場合は、設定で上限容量を変更することができます。上限容量を変更（アップ）した場合 Server バックアップの月額料金がアップします。上限容量の変更（アップ）につきましては料金アップをご認識の上変更をお願いします。工事が必要な場合の依頼はサポートセンタへお問い合わせ下さい。

アラートは、タスクごとに通知しております。この通知により複数タスクを登録していて1つのタスクに容量が集中している場合にどのタスク設定したフォルダの容量が多いかがわかりやすくなっております。

**あずけ～る(Server バックアップ)にてタスク登録を削除した場合には、クラウド上のデータも削除します。**

**タスクに登録したフォルダの内容は変更・削除はできません。フォルダ削除する必要がある場合は、先にタスクを削除して下さい。**

**クラウドへバックアップが可能な1ファイルあたりの最大容量は8GBまでとなっています。この制限を超えるファイルをクラウドへバックアップすることは出来ません。**

クラウドバックアップ(Server バックアップ、NSS バックアップ双方)のご利用に際し、「テスト」、および各バックアップのタスクが正常完了しない場合、インターネットへの接続が正しくできていない可能性があります。その場合はお客様 LAN 環境によるネットワーク設定内容をよくご確認ください。特にプライマリ DNS アドレスがローカルネットワークのアドレスが設定されている場合には、8.8.8.8 に変更する等をお願い致します。

### バックアップタスクの順序制御(キュー制御)について

複数のバックアップタスクを登録している場合、タスクに登録されたフォルダのファイルの数、容量や、タスク実行スケジュールのタイミング等によって登録タスクが実行されないようなことが発生しないように順序(キュー)制御を行っております。タスクがスケジュール実行時間となった場合、キューとして待機している時は[待機中 n/N]と表示されます。スケジュールタスクをキューという順番待ちに並べ、タスクが完了してから再度スケジュール実行時間になると再度キューに追加されます。キューとして順番待ちの間、重複してキューに登録されることはありません。これにより全てのタスクが順序制御され平等に実行されます。



⚠ タスク実行後の i マークの「残りのファイル」とタスクの「ステータス」について

タスクを開始し、バックアップ対象数としてカウントされた後で、バックアップ対象としてリストに追加される前に対象のフォルダから削除・移動することによりバックアップされないファイルがある場合は、そのファイルは「残りのファイル」としてカウントされ、タスクは「完了」となります。



⚠ タスク実行後の i マークの「失敗ファイル」とタスクの「ステータス」について

タスクを開始し、バックアップ対象数としてカウントされた後で、バックアップ対象としてリストに追加される後に対象のフォルダから削除・移動することによりバックアップされないファイルがある場合は、そのファイルは「失敗ファイル数」としてカウントされ、タスクは「失敗」となります。



⚠ 本製品上で Server バックアップのタスク正常完了後にバックアップ先サーバ(Server バックアップサーバ)の WebUI 上で対象フォルダ・サブフォルダを削除した場合は、以降正常完了しなくなりますのでご注意ください。正常完了しなくなった場合はバックアップ先サーバの最上位フォルダ(本製品上の共有フォルダと同名)削除し、本製品側のタスクを削除後に、再作成・再実行をお願い致します。



⚠ バックアップ順序について

①各階層でその階層のファイル、フォルダにバックアップ対象としての追加更新が行われ、アスキーコードによってバックアップ順序を決定します。

②ファイルとフォルダがある場合で、フォルダが先にバックアップ対象となった場合は、その階層のファイルのバックアップは後回しされ、下層のフォルダに対してバックアップ対象の追加更新を行います。

③そのフォルダの最下層まで行ったあとに、上に戻るにあたり、残っているファイルをアップロードします。

※上記のバックアップ、リスト作成順序は ASCII>UTF-8(2byte 文字)となり ASCII の順番は数字[0~9]>アルファベット[A~Z]の順序となります。具体的にはバックアップ時に全数のファイルとフォルダを統計し、その際に、本製品がファイルの名称を確認しそのルールに従ってバックアップすることになります。



⚠ ファイル分割について

1Gbyte 以上のファイルはクラウドバックアップサーバ側仕様により許容されておりません。そのため、本製品は 1GB 以上(1073741824byte 以上)のファイルをアップロードをする際に分割し、バックアップサーバ上で結合する仕様としています。



⚠ RAID 損傷発生時(HDD の同時 2 本以上故障時)は、タスクは強制停止され、バックアップは行われません。

以下の場合には、バックアップ元(本製品)とバックアップ先(クラウド)とで容量やファイル数に差分が生じる原因となりますのでご注意ください。

#### 1)バックアップ中に何らかの理由でタスクが中断した場合

- ・手動でタスクを「停止」させた場合
- ・タスクが「失敗」した場合
  - 1GB を超えるファイルが対象フォルダに存在する場合(1GB 単位で分割して送信されるため)
  - サーババックアップのクラウドから返答がない場合
  - サーババックアップのクラウドからエラー応答がある場合
  - タスク内のフォルダにサーババックアップのクラウドで利用できない文字列を含んだファイルやフォルダがある場合  
利用できない文字列につきましては、以下を参照ください。

[http://qa.flets-w.com/faq/show/5256?site\\_domain=default](http://qa.flets-w.com/faq/show/5256?site_domain=default)

#### 2)タスクが正常に終了した場合

- ・タスク内のフォルダに 8GB 以上の単一ファイルが存在する場合は対象ファイルをバックアップ対象から除外します。  
ファイル容量の制限につきましては、以下を参照ください。

[https://www.ntt-west.co.jp/smb/topics/data\\_ansinhokan/200721.html](https://www.ntt-west.co.jp/smb/topics/data_ansinhokan/200721.html)

追加ボタンからクラウドバックアップタスクを追加することができます。1 タスクにつき 1 フォルダの指定が可能です。ただしクラウドサービス ID は 1ID のみ登録可能としております。

クラウドバックアップ

⚙️ サービス設定
🔄 リフレッシュ容量
+ タスク追加
🗑️ 強制削除

サーバータイプ: Serverバックアップ      アカウントID: BBSID-110

有効/無効	タスク名	バックアップ対象フォルダー	前回実行	頻度	使用容量 (GB)	ステータス

タスク合計容量 (GB): 0.00 GB

契約容量 (GB)

0.01% 0.42GB / 3000.00GB

クラウドバックアップ設定	
項目	説明
サービス設定	契約内容に基づき設置業者、オンサイトサポートスタッフが設定いたします。特別な場合を除き、お客様が設定をすることはありません。
リフレッシュ容量	最新のサーバーデータ使用容量を確認します。サービス設定が済んでいない場合は表示されません
タスク追加	クラウドバックアップのタスクを追加します。サービス設定が済んでいない場合は表示されません。
強制削除	全てのタスクを強制的に削除することが出来ます。 <b>※通常時に使用しません。設置場所変更などで、あずけ～るサーバーとの接続・設定に問題が発生した場合に使用します。</b>

**サービス設定:**

※契約内容に基づき設置業者、オンサイトサポートスタッフが設定いたします。特別な場合を除き、お客様が設定をすることはできません。通常はこのような画面を確認だけ出来ます。

クラウドバックアップ - サービス設定

### Serverバックアップ 選択メニュー

利用するサービスのラジオボタンを押下し、必要情報を入力してください

Serverバックアップ

ログインID

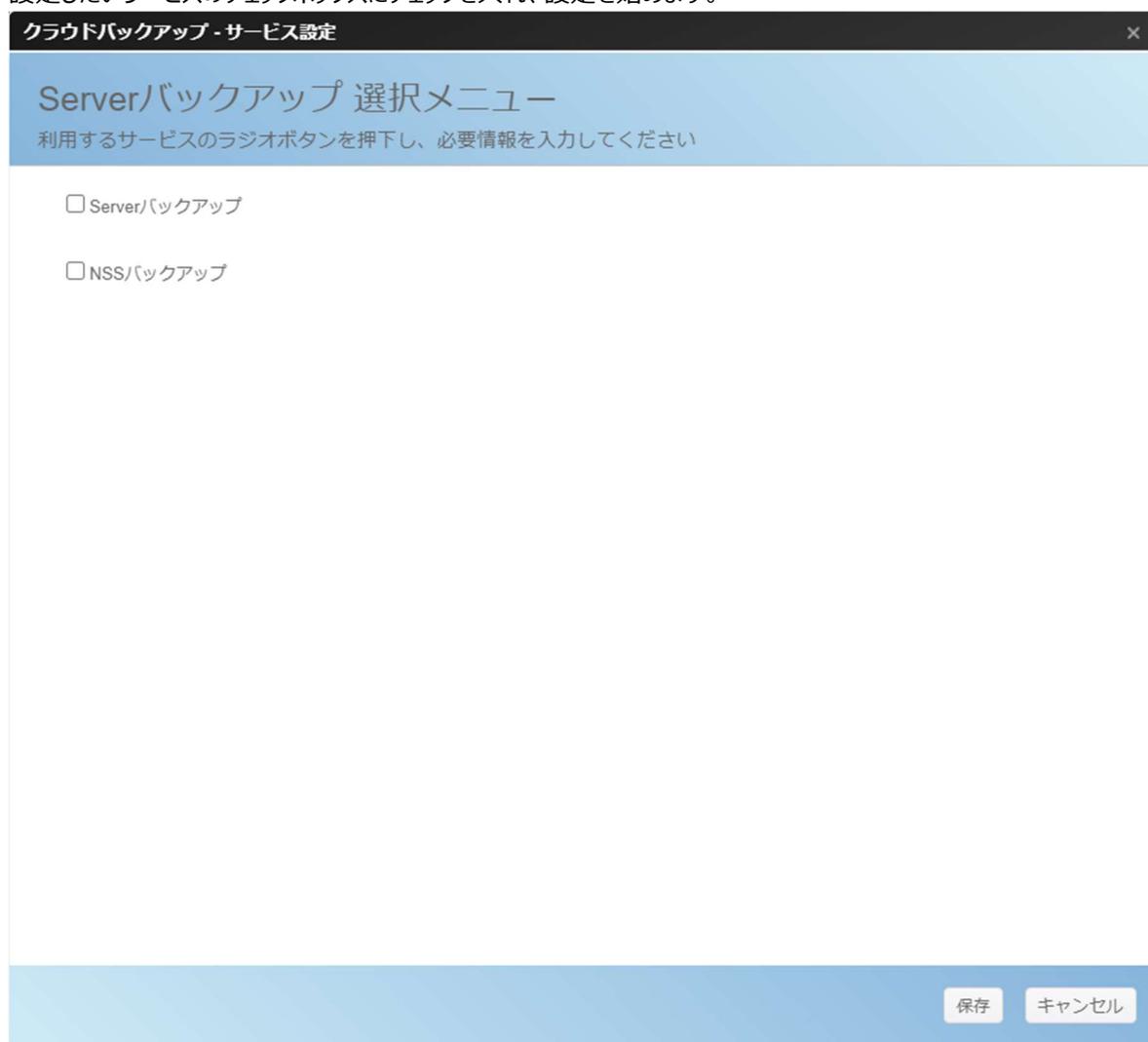
パスワード

アップロード容量制限  GB

NSSバックアップ

※以下は特別な場合で設定する必要がある場合に参考にしてください。

サービス設定を押下し、クラウドバックアップのアカウントの設定を行います。  
設定したいサービスのチェックボックスにチェックを入れ、設定を始めます。



クラウドバックアップ - サービス設定

### Serverバックアップ 選択メニュー

利用するサービスのラジオボタンを押下し、必要情報を入力してください

Serverバックアップ

NSSバックアップ

保存 キャンセル

クラウドバックアップ・サービス設定	
項目	説明
Server バックアップ	NTT 西日本のクラウドバックアップサービス「フレッツ・あずけ〜る」のアカウントの設定を行います。
NSS バックアップ	SecurityBoss ネットワークストレージサービス(NSS)のアカウントの設定を行います。

## Server バックアップ

契約時に発行されたアカウントのログイン ID、パスワードを入力し「テスト」ボタンを押下します。  
テストが完了すると「保存」ボタンが押下できるようになるので押下し、保存します。

設定を削除したいときは、先にログイン ID、パスワードを削除して空欄状態にしてからチェックボックスのチェックを外します。

※タスクがある状態でもタスクを全て削除しなくてもアップロード容量制限の値変更変更可能です。ただしアカウント情報の変更がある場合にはタスクは全て削除する必要があります。

クラウドバックアップ サービス設定

### Serverバックアップ 選択メニュー

利用するサービスのラジオボタンを押下し、必要情報を入力してください

Serverバックアップ

ログインID: BESID-009

パスワード: .....

アップロード容量制限: 100 GB

テスト

NSSバックアップ

保存 キャンセル

クラウドバックアップ サービス設定

### Serverバックアップ 選択メニュー

利用するサービスのラジオボタンを押下し、必要情報を入力してください

アカウント設定変更時は、先に全てのタスクを削除して下さい。  
※アップロード容量制限値のみ変更時は、タスク削除は不要です。

Serverバックアップ

ログインID: BESID-009

パスワード: .....

アップロード容量制限: 100 GB

テスト

NSSバックアップ

保存 キャンセル

### タスク追加:

タスク追加を押下し、クラウドバックアップを行いたい共有フォルダを選択します。1つのタスクでバックアップが可能な共有フォルダは1つだけとなります。全ての共有フォルダをクラウドバックアップしたい場合はその共有フォルダの数だけタスクを作成する必要があります。

下画像では NAS\_Public を選択している状態です。バックアップを行いたい共有フォルダを選択し「次」を押下します。



タスクを追加するには必ずタスク名をつけなくてはなりません。任意のタスク名をつけてください。

## タスク設定

同期タイプとスケジュールの設定です。

有効/無効

タスク名

ログファイルの場所

Backup Mode  Quick Backup ⓘ  Always Backup All

スケジュールを有効にする

頻度 :  every 06 hours

時間 :  :

戻る

終了

キャンセル

クラウドバックアップ設定	
項目	説明
有効/無効	有効:右にスライドして緑色の状態 無効:左にスライドして赤色の状態
タスク名	任意のタスク名をつけてください。タスク名をつけなければ設定を完了することが出来ません。
ログファイルの場所	表示の場所に保存されます。
Backup Mode	Quick Backup : 最後にバックアップを行ったときから更新のあったファイルだけをバックアップします。いわゆる差分バックアップです。  Always Backup All : 常に全てをバックアップします。
スケジュールを有効にする	スケジュールを有効にするにはチェックをいれ設定します。
頻度	[毎日] : [every 06 hours][every 12 hours][every 24 hours] 6 時間おき、12 時間おき、24 時間おきから選択。 [毎週] : [月曜日]-[日曜日] 曜日を選択。 [毎月] : [1]-[28] 日にちを選択。
時間	[00]-[23]:[00][59]から時間を選択
終了	設定が完了したら終了を押下して保存します。

タスクを選択して[編集]、[削除]、[開始]、[復元]が行えます。

クラウドバックアップ

サーバータイプ: Serverバックアップ      アカウントID: BBSID-110

有効/無効	タスク名	バックアップ対象フォルダー	前回実行 ▲	頻度	使用容量 (GB)	ステータス
	sales	営業	-	毎日 00:00 06:00 12:00 18:00	0.01GB	
	NAS_P...	NAS_Public	前回バックアップ開始日時: 2024年12月19日 15:37:10 前回バックアップ中止日時: 2024年12月19日 15:37:03	毎日 00:00 06:00 12:00 18:00	0.22GB	バックアップ中 70/10188 ⓘ

タスク合計容量 (GB): 0.40 GB

契約容量 (GB)

0.01% 0.22GB / 3000.00GB

クラウドバックアップ

サーバータイプ: Serverバックアップ      アカウントID: BBSID-110

有効/無効	タスク名	バックアップ対象フォルダー	前回実行 ▲	頻度	使用容量 (GB)	ステータス
	sales	営業	--	毎日 00:00 06:00 12:00 18:00	0.01GB	
	NAS_P...	NAS_Public	前回バックアップ開始日時: 2024年12月19日 15:37:10 前回バックアップ中止日時: 2024年12月19日 15:37:03	毎日 00:00 06:00 12:00 18:00	0.22GB	バックアップ中 125/10188 ⓘ

クラウドバックアップ	
項目	説明

編集	タスクを編集し設定を変更します。 スケジュール設定、ログファイルの場所、BackupMode の選択の編集が可能です。
削除	タスクの削除を行います。タスクの削除とともに当該タスクのクラウドのデータも削除されます。
開始	クラウドバックアップを開始します。
停止	クラウドバックアップを停止します。
復元	クラウドにバックアップした内容を本製品に書き戻します。
サーバータイプ	Server バックアップまたは NSS バックアップとなります。
アカウント I D	設定済みのお客様のアカウント I D です。
有効/無効	有効：緑 無効：黒 の●で表示されます。
タスク名	お客様が設定したタスク名です。
バックアップ対象フォルダー	タスク作成で選んだバックアップする共有フォルダーです。
前回実行	上段に前回のバックアップ開始日時、下段に前回のバックアップ完了、失敗または中止日時を表示します。
頻度	スケジュールが表示されます。毎日:指定時間より 6 時間おき、12 時間おき、1 日 1 回 hh:mm 毎週:●曜日 hh:mm 毎月:●日 hh:mm
使用容量	このタスクで使用しているローカル上の使用容量を表示します。
ステータス	[バックアップ中][待機中 (n/N)][復元中][完了][中止][失敗][削除しています][共有フォルダーが失われました]など現在のステータスが表示されます。 i マークにマウスオーバーすると成功ファイル数、失敗ファイル数、UL ファイルサイズ制限超過数、合計ファイル数の進捗状況が分かります。 タスクがスケジュールの到来を迎え、キューとして待機している時は[待機中 n/N]と表示されます。 ※複数のバックアップタスクを登録している場合、タスクに登録されたフォルダのファイルの数、容量や、タスク実行スケジュールのタイミング等によって登録タスクが実行されないようなことが発生しないように順序(キュー)制御を行っております。タスクがスケジュール実行時間となった場合、キューとして待機している時は[待機中 n/N]と表示されます。スケジュールタスクをキューという順番待ちに並べ、タスクが完了してから再度スケジュール実行時間になると再度キューに追加されます。キューとして順番待ちの間、重複してキューに登録されることはありません。これにより全てのタスクが順序制御され平等に実行されます。
タスク合計容量	各タスクの合計での使用容量となります。
契約容量	契約しているクラウドの容量と使用率を表示します。

## 注

- ・クラウドバックアップサービスは、有料サービスです。ご利用になる場合はお申込が必要です。お申込みは販売店舗への確認をお願い致します。
- ・アップロード容量制限以外のサービス設定を変更する場合には、全てのタスク設定を削除する必要があります。
- ・Quick Backup を使用している場合でも、フォルダへの ACL 設定追加変更時は、ファイル自体に変更がない場合においても、属性変更があったファイルとしてアップロードされます。

## システムフェイルオーバー

2機の本製品を運用系（以下アクティブ機）と待機系（以下スタンバイ機）に分けることで万一アクティブ機に障害が起きた場合でもスタンバイ機への切り替えを行うことで障害に備えることができます。**同一モデル(同容量)間かつファームウェアの Ver.が一致している場合のみ**、システムフェイルオーバーが可能です。

ここでは説明の一例としてアクティブ機の IP を 192.168.168.119、スタンバイ機の IP を 192.168.168.121 として設定をおこなっています。お使いの環境に合わせて設定してください。

システムフェイルオーバーの設定を行う前に以下の設定を行います。

①アクティブ機、スタンバイ機の WAN/LAN1 もしくは LAN2（バーチャル IP を設定するインターフェイス）の IP を固定 IP で設定してください。DHCP で設定していると IP が変化したときに正常に動作しなくなります。（この説明ではアクティブ機の IP を 192.168.168.119、スタンバイ機の IP を 192.168.168.121 として固定 IP で設定します。お使いの環境に合わせて自由に設定してください。）

②アクティブ機とスタンバイ機の LAN3 同士を LAN ケーブルで直結します。

③スタンバイ機のネットワーク設定の WAN/LAN 設定で LAN 3 の IP アドレスを 10.254.253.3 に変更します。

### スタンバイ機

以下のように IP アドレスを 10.254.253.3、ゲートウェイを 10.254.253.2 と設定します。この IP アドレスで設定してください。

LAN設定の編集

設定

MAC アドレス 08:35:71:12:15:7a 現在のIP: 10.254.253.2

速度設定 ① 自動的に設定 リンクステータス 接続済み

備考: 説明等を入力してください

IPv4

モード  手動設定  DHCP

IP アドレス 10.254.253.3

ネットマスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 10.254.253.2

適用 キャンセル

上記設定が完了した後、システムフェイルオーバーの設定を行います。

システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバーを有効にする ⓘ

役割  スタンバイ機  アクティブ機

相手側のIP ⓘ

ペアリングコード ⓘ

システムフェイルオーバー	
項目	説明
システムフェイルオーバーを有効にする	チェックすることでシステムフェイルオーバーを有効にします。アクティブ機が大容量である場合、最初のバックアップには時間がかかります。
役割	現在ログインしている本製品をスタンバイ機にするかアクティブ機にするかを選択します。

まずスタンバイ機側の設定を行います。

システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバーを有効にする ⓘ

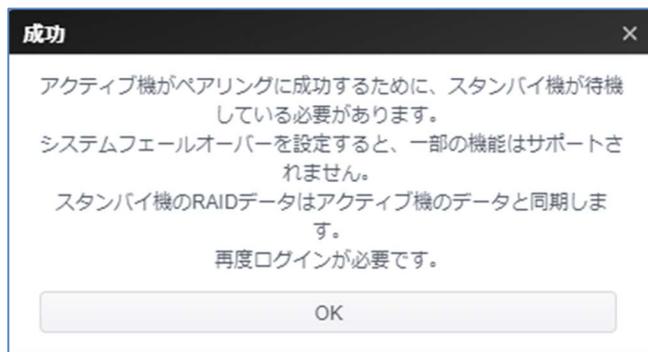
役割  スタンバイ機  アクティブ機

相手側のIP ⓘ

ペアリングコード ⓘ

スタンバイ機	
項目	説明
相手側のIP	アクティブ機のIPアドレスを設定します。
ペアリングコード	アクティブ機と共通のペアリングコードを設定します。使用可能文字は英数字で30文字までです。
適用	設定をシステムに反映します。

適用を押下すると以下の画面が表示され、OK を押下すると一度ログアウトします。



スタンバイ機でログインすると以下のように表示されます。



引き続きアクティブ機の設定を行います。

## システムフェイルオーバー

 システムフェイルオーバーを有効にする ⓘ

 役割  スタンバイ機  アクティブ機

 相手側のIP ⓘ 

 ペアリングコード ⓘ 

## バーチャルIP設定 ⓘ

 インターフェイス ⓘ 

 IP アドレス 

## Heartbeat設定 ⓘ

 インターフェイス ⓘ 

 アクティブIP 

 スタンバイIP 

## 正常動作確認設定

 正常動作確認の間隔 ⓘ 

 正常動作確認の回数 

## 同期スケジュール設定 ⓘ

 スケジュール 
 External USB Backup ⓘ

## アクティブ機

項目	説明
相手側の IP	スタンバイ機の IP アドレスを設定します。
ペアリングコード	スタンバイ機に設定したペアリングコードを設定します。

## バーチャル IP 設定

項目	説明
インターフェイス	バーチャル IP を割り当てるインターフェイスを設定します。
IP アドレス	バーチャル IP を設定します。この IP アドレスに対してアクセスすることで普段はアクティブ機に、アクティブ機に障害が発生した場合は自動的にスタンバイ機に接続できます。

## Heartbeat 設定

項目	説明
インターフェイス	アクティブ機とスタンバイ機がお互いの生存確認のために使用するインターフェイスを設定します。バーチャル IP と同じインターフェイスを設定

	することもできますが、その場合はデータ同期とネットワークサービスの速度が低下します。
アクティブ IP	上記インターフェースに割り当てられた IP アドレスが表示されています。ここでは変更できませんので必要であれば別途ネットワーク設定から変更してください。 <b>ネットワーク設定の LAN3 ポートの IP アドレス設定を変更しないでください。(初期値：10.254.253.2 を使用)</b>
スタンバイ IP	スタンバイ機の Heartbeat に使用する IP アドレスを設定します。インターフェースはアクティブ機と同じものを使用しなければなりません。 <b>ネットワーク設定の LAN3 ポートの IP アドレス設定を変更してください。(10.254.253.3 へ変更してください)</b>
正常動作確認設定	
項目	説明
正常動作確認の間隔	アクティブ機とスタンバイ機が正常に動作しているかを確認する間隔を 30 秒、60 秒、120 秒の 3 段階で設定できます。
正常動作確認の回数	上記で設定した時間が来た際に正常動作確認の回数を 1 回、3 回、5 回の 3 段階で設定できます。 <b>5 回に変更して下さい。</b>
同期スケジュール設定	
項目	説明
スケジュール	アクティブ機とスタンバイ機の同期を行う間隔を 5min、10min、30min、毎時、毎日、毎週の 6 段階で設定できます。 同期スケジュールは頻繁過ぎずかつ長い間隔にならない適度なものを設定することをお薦めします。(毎時～毎日 1 回程度)
外部 USB 同期設定	
項目	説明
External USB Backup	アクティブ機からスタンバイ機へ外付け HDD の同期を行います。本製品によってフォーマットされた外付け HDD 一台が対象でアクティブ、スタンバイ機双方に接続されていることが必要です。 <b>※外付け HDD の同期対象にする条件</b> 1)アクティブ側とスタンバイ側の 2 台の本製品に接続している外付け HDD は各正しく接続する 2)外付け HDD はアクティブ側とスタンバイ側ともに暗号化フォーマット済みにする。 3)スタンバイ側の本製品上のフェイルオーバー設定がアクティブ側より先完了する。 4)スタンバイ側で再ログインし External USB Backup の Standby USB のチェックボックスは無効になっていること。 ※上記 4 条件が満たされるとアクティブ側の本製品に External USB Backup の Standby USB に表示されます。
適用	設定をシステムに反映します。

設定後適用を押下すると以下の画面が表示されます。OK を押下するとログアウトされるので再度ログインします。



アクティブ機で再度ログインすると以下の表示になり、システムフェイルオーバーの設定が動作中の表示がされます。

システムフェイルオーバー

### システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバーは正常です。アクティブ機にはバーチャルIPでアクセス出来ます。 192.168.168.100

システムフェイルオーバーを有効にする ⓘ

役割  スタンバイ機  アクティブ機

相手側のIP ⓘ

ペアリングコード ⓘ

システムフェイルオーバー中は、設定したバーチャル IP でアクセスするようにします。

これによりアクティブ機が動作している時はアクティブ機に、アクティブ機にトラブルが発生してスタンバイ機がアクティブ機に昇格した際は旧スタンバイ機に自動でアクセスできるようになります。

ストレージ

### **フェイルオーバー構成下で AD を構成する場合**

先に 2 台の OSPro で AD の関連設定を行い、双方 OSPro で AD からのユーザー名一覧が取得できることを確認してから、フェイルオーバーを構成して下さい。

<AD 関連の設定>

ネットワーク設定のドメイン名、DNS 設定

アクセス権のアクティブディレクトリ(AD)設定

ワークグループ/ドメイン(NetBios 名)

AD サービスを有効にする。のチェックボックスと配下の各設定項目(サーバー名、ドメイン名、ユーザー名、パスワード)

## 注

- フェイルオーバーを実施している際は上記画像の様にコントロールパネルのストレージ関連の設定にアクセスすることができなくなります。
- フェイルオーバーのデータ同期は、ご利用データの容量及び利用のネットワークの速度により時間を要する場合があります。
- アクティブ機故障時の切り替わりは合計約 3 分かかります。  
バーチャル IP でのアクセスの切り替えは約 1 分、スタンバイがアクティブになり、WebUI 解除後に通常の画面に戻るのに約 2 分要します。
- フェイルオーバーを有効化するには、ローカルアカウント(ACL)で設定しているアカウント数は 299 以下である必要があります。
- フェイルオーバーのデータの同期実行中は、フェイルオーバーが優先される為、スナップショットの定期実行はスキップされ、システム内部にキューとして保存し、事後に遅延して取得されます。そのためフォルダ数・ファイル数が増える場合において、スキップと遅延取得を少なくするためには、スナップショットの実施時刻の分散設定、フェイルオーバーの「同期スケジュール設定」とが重複しないように設計・設定をお願い致します。フェイルオーバー時におけるスナップショットの手動実行は、キューとしては保存されず事後取得は行いません。

## 注 2

以下の場合は故障がない場合でもシステムフェイルオーバー構成が無効化されますのでご注意ください。

- 同一 LAN 内に OSPro の WAN/LAN1 の IP アドレスと同一 IP アドレスを設定した機器を起動した場合  
→他機器との IP アドレスの重複にご確認ください。
- アクティブ・スタンバイ双方の WAN/LAN1 をリンクダウンさせずに、対向機（スタンバイ・アクティブ）との通信ができない場合

例 1)アクティブ・スタンバイ筐体が異なる NW 機器接続、同一 NW 機器接続時に VLAN で分けた接続の場合の LAN ケーブル挿抜、NW 機器等のメンテナンス  
→一度システムフェイルオーバー構成を手動解除してから、NW メンテナンスを実施して下さい。

例 2)途中経路のリンクダウン等

→予期せぬネットワーク上の不疎通によって問題が生じた場合は、システムフェイルオーバー再構成手順によりアクティブ・スタンバイを E/U 様側にてご判断頂き、再設定と再有効化を行ってください。

## 注 3

※システムフェイルオーバーを構築している場合は、スタンバイ機側のこのボタンは表示されなくなりシャットダウン、再起動を任意に行うことが出来なくなります。

以下手順により対応をお願い致します。

- 1.システムフェイルオーバーの無効化(アクティブ・スタンバイ双方において確認)
- 2.アクティブ・スタンバイ双方 WebUI からシャットダウン(順不同)

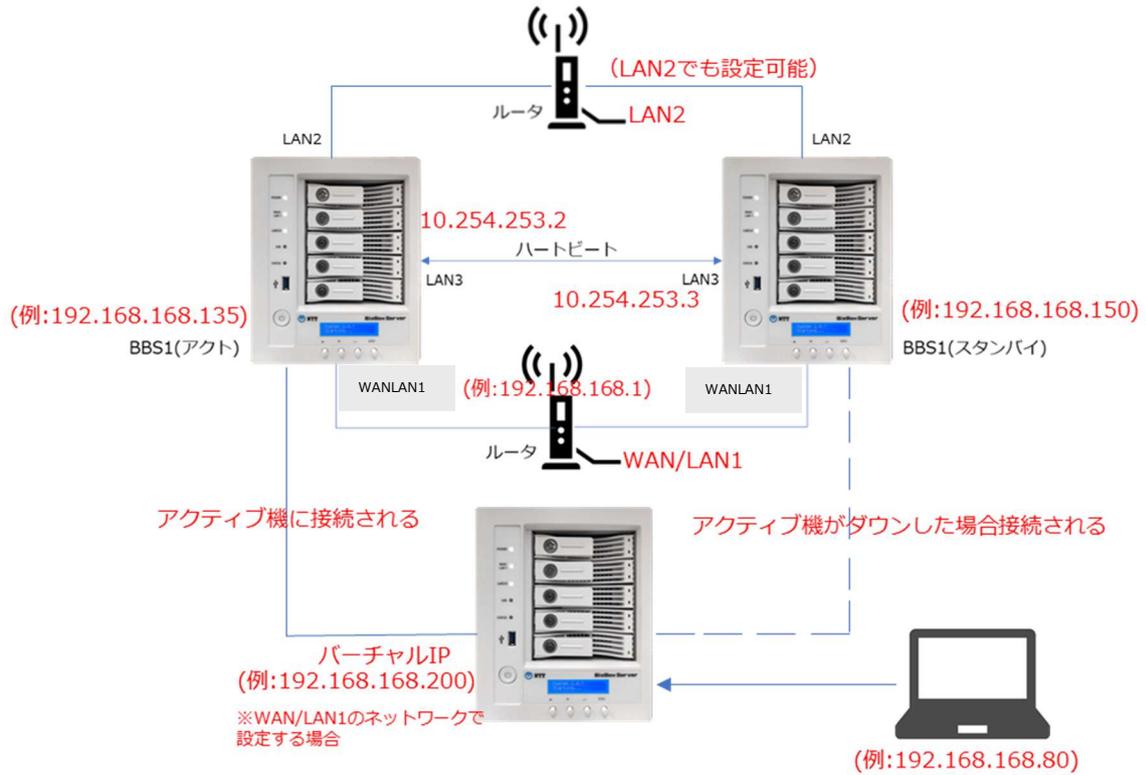
～計画停電・他ネットワーク機器等のメンテナンス～

- 3.アクティブ・スタンバイ双方の電源起動(順不同)
- 4.スタンバイのシステムフェイルオーバー有効化
- 5.アクティブのシステムフェイルオーバー有効化

※再起動必要時はシャットダウンを読み替えをお願い致します。

※システムフェイルオーバー構成下においては、電源スケジュールは設定不可となりますのでご注意ください。

## システムフェイルオーバー接続構成



**「フェイルオーバー動作イメージ(正常動作確認設定を5回と設定した場合)」**

1.アクティブ/スタンバイ相互に WAN/LAN1 の疎通確認

- 1)Ping による疎通確認
- 2)API ログイン

2.アクティブ/スタンバイ相互に LAN3 の疎通確認

- 3)Ping による疎通確認
- 4)API ログイン

1)~4)疎通確認 OK 時

- 1 ループで処理終了
- 正常動作確認間隔により、1)~4)の疎通確認を行う。

1)~4)疎通確認 NG 時

- 最大 5 ループの処理再試行
- 5 ループ NG 時:システムフェイルオーバー動作

※正常動作確認間隔：30 秒、60 秒、120 秒の設定値による

正常動作確認回数：1 回、3 回、5 回の設定値による

システムフェイルオーバー構成時における機能制限		
①システムフェイルオーバー構成時においても問題なく使用・設定変更可能な機能		
②システムフェイルオーバー構成前or構成解除時に設定変更可能な機能		
③システムフェイルオーバー構成時に提供されない機能		
機能	Active機	Standby機
外付けUPS	②	②③
AD	①	②③
外付けUSB-HDD	①	②③
電源スケジュール	②③	②③
QoS(SNMP)	②③	②③
地域オプション(NTP同期)	①	②③
ファームウェア設定のスケジュール変更	①	②
コンフィグバックアップのスケジュール変更	②③	②③
スナップショット	②*	②③
ローカルバックアップ	①	②③
クラウドバックアップ	①	②③
VPNサービス	①	①**
利用開始通知	①	①
ログと通知	①	②
モニター	①	①

\*システムフェイルオーバー構成時における設定は可能ですが、手動による保存・復元は不可となります。

\*\*Active 機のみを対象から Standby 機もリモートからの VPN サポートの対象となりました。

## 第 5 章: 一般ユーザーログイン

### 概要

本製品は、**一般ユーザー**向けに Web インターフェイス接続機能を提供しています。これを用いて、ネットワーク上の任意の場所にて本製品にアクセスしファイルを管理することができます。

\* ここでいう一般ユーザーとは、WebAdmin（管理者）によって作成された個人アカウントユーザーを指します。

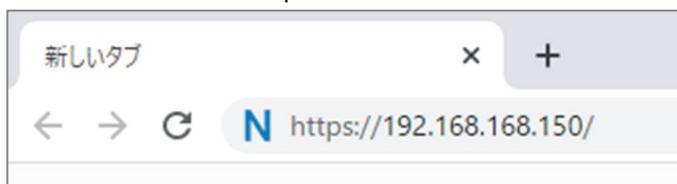
### ログインインターフェース

最初に、ネットワークがインターネットに接続されており、システム管理者がローカルユーザーアカウントを作成していることを確認してください。**一般ユーザー**として、本製品にログインするには次の手順をお試しください。

以下の説明は工場出荷状態の DHCP 設定で使用されている場合のものです。

（接続方法は WindowsPC/MacPC 共通です。本説明では GoogleChrome での表示画面で説明しています）

- ① WebAdmin（管理者）に、本製品の IP アドレスを確認してください。または本体の LCD 画面には 3 秒ごとの更新で様々な情報が表示されます。その中の「LAN 1」という項目に本体に割り当てられた IP アドレスが表示されます。
- ② 本体と同一のネットワークに接続した PC からブラウザを起動して、https://【本体の IP アドレス】
  - \* この説明では「192.168.168.150」を入力し接続します。
  - \* この時必ず「https」でアクセスしてください。



- ③ 以下のような画面が表示されますので「詳細設定」を押下してください。  
その後「IP アドレス」にアクセスする（安全ではありません）」を押下してください。  
（自己署名証明書を利用しているため、このような警告が出ていますが問題ありません。）  
※ブラウザによってこの警告画面は異なる場合があります。

この接続ではプライバシーが保護されません

192.168.168.150 では、悪意のあるユーザーによって、パスワード、メッセージ、クレジットカードなどの情報が盗まれる可能性があります。詳細

NET:ERR\_CERT\_AUTHORITY\_INVALID

アクセスしたページの URL、システム情報、およびページのコンテンツの一部を Google に送信して、Chrome セキュリティの改善にご協力ください。プライバシーポリシー

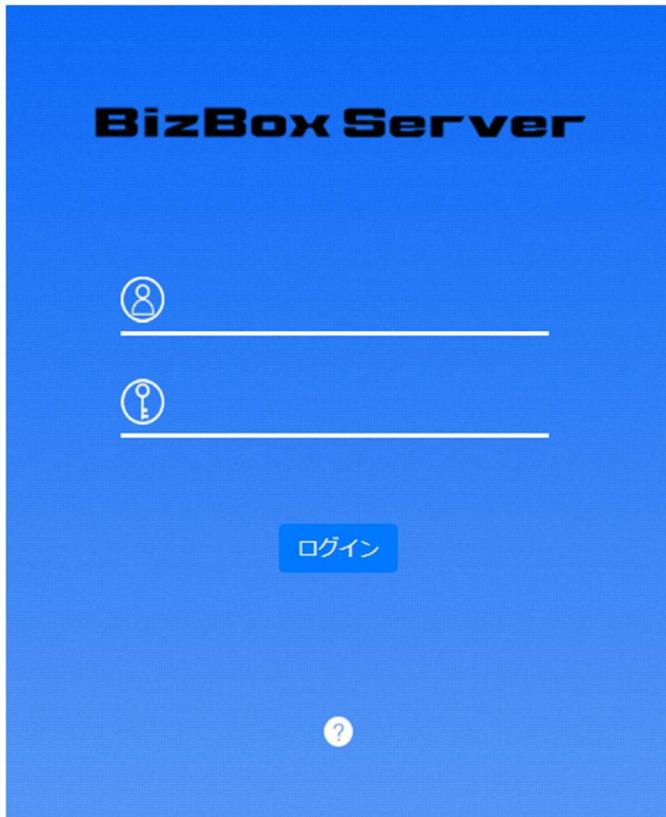
詳細情報を表示しない

セキュリティで保護されたページに戻る

このサーバーが 192.168.168.150 であることを確認できませんでした。このサーバーのセキュリティ証明書は、ご使用のパソコンのオペレーティングシステムによって信頼されているものではありません。原因としては、不適切な設定や、悪意のあるユーザーによる接続妨害が考えられます。

192.168.168.150 にアクセスする (安全ではありません)

- ④ ログイン画面が表示されます。WebAdmin（管理者）のアカウント、もしくは一般ユーザーの場合 WebAdmin（管理者）から発行されているアカウント情報を入力してログインします。



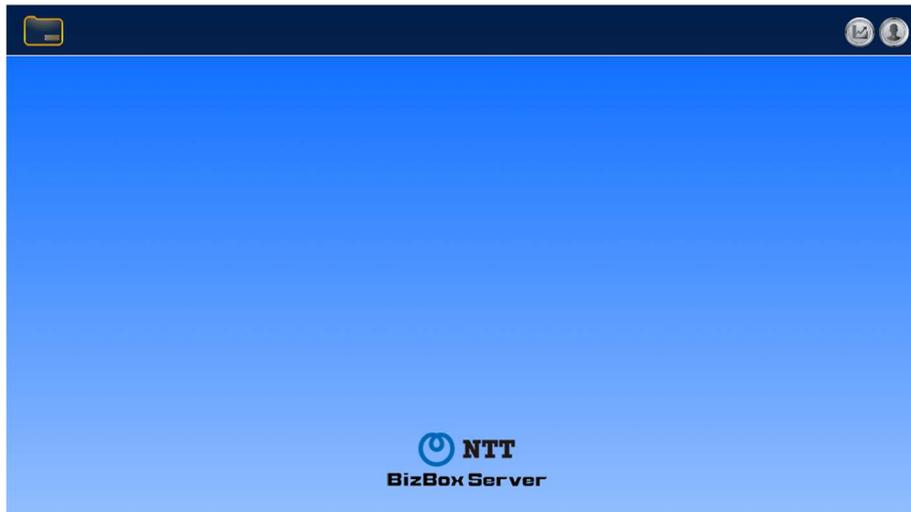
システム起動中です。少々お待ちくださいが表示される場合は起動中ですのでログイン出来るまでおまちください。

⑤ ログイン後、表示されるデスクトップ画面は次の通りです。

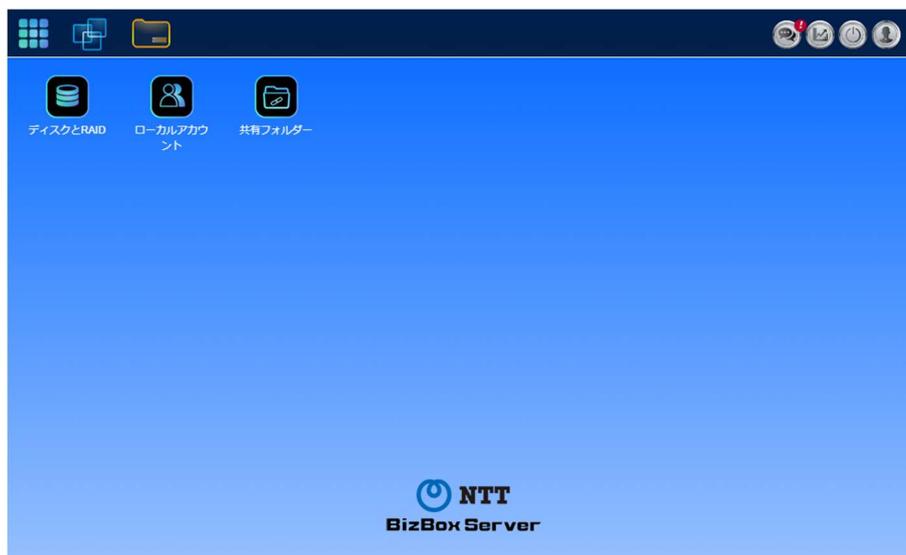
#### 【一般ユーザー】

**一般ユーザーインターフェース**は次の画像の通りです。ここから、パブリックフォルダ、アクセス権限が付与されたファイルへのアクセス、デスクトップの外見変更、パスワードの変更、表示言語の選択および リソースモニターの確認をネットワーク上の任意の場所から行うことができます。

WebAdmin（管理者）とは違い、ファイルセンターの機能のみ使用ができ、アクセスできる設定項目は外見に関するものを除き、制限されています。



#### 【WebAdmin】



## メニューツリー

メニューツリーで、一般ユーザーが本製品で操作することができる各トピックにアクセスすることができます。

【一般ユーザーの場合】



メニューバー	
項目	説明
ファイルセンター	ファイルセンターに入ります。

【WebAdmin の場合】



メニューバー	
項目	説明
コントロールパネル	コントロールパネルに入ります
アプリセンター	アプリセンターに入ります
ファイルセンター	ファイルセンターに入ります

これらの項目上にマウスを移動し、押下すると、各項目の対応画面が表示されます。

## システムのリソースモニターのクイック表示

メニューバーの右上隅で、 を押下します。CPU、メモリーおよびストレージ使用状況などのシステムリソース監視情報が表示されます。



## 一般的な設定

メニューバーの右上隅で、 を押下します。言語の変更（一般ユーザーのみ）、お好み設定（一般ユーザーのみ）、パスワードの変更（WebAdmin/一般ユーザー）、パスワードモジュールのパスワード変更（WebAdminのみ）、ログアウト（WebAdmin/一般ユーザー）が表示されます。

## 言語の変更

※WebAdmin ではこの項目はありません。

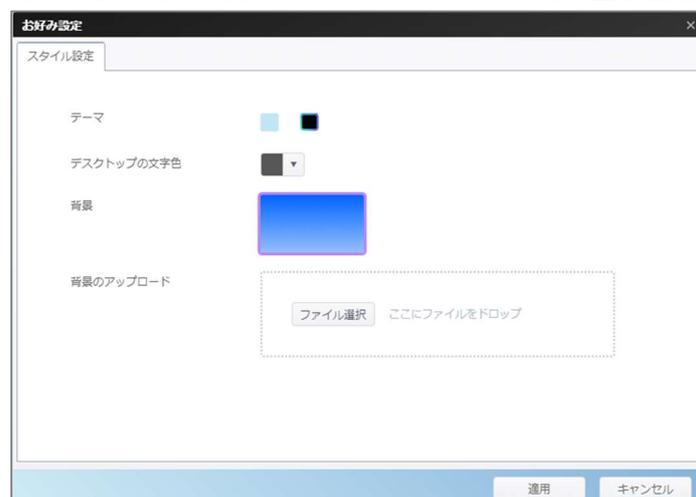
日本語と表示されている箇所を押下し、プルダウンメニューから好きな言語に変更することができます。



## お好み設定

※WebAdmin にはこの項目はありません。

メニューバーの右上隅で、**お好み設定**を押下します。テーマ、デスクトップの文字、壁紙を変更することができます。



## パスワードの変更

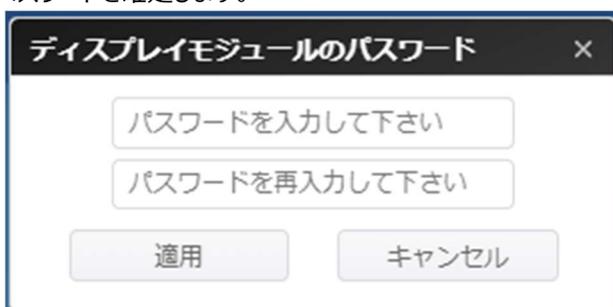
メニューバーの右上隅で、**パスワード**項目を選択します。**パスワードの変更**画面が表示されます。**新しいパスワード**ボックスに 新しいパスワードを入力し、**確認**ボックスに新しいパスワードを確認のため再入力します。[ **変更** ] を押下して、パスワードを確定します。



## ディスプレイモジュール(LCM)のパスワードの変更

※この項目は一般ユーザーでは表示されません。

ディスプレイモジュールのパスワードとは本体前面の LCM(LCD ディスプレイモジュール)のパスワードを指します。メニューバーの右上隅で、**ディスプレイモジュールのパスワード変更**の項目を選択します。**パスワードの変更**画面が表示されます。**新しいパスワード**ボックスに新しいパスワードを入力し、**確認**ボックスに新しいパスワードを確認のため再入力します。[ **変更** ] を押下して、パスワードを確定します。



## ログアウト

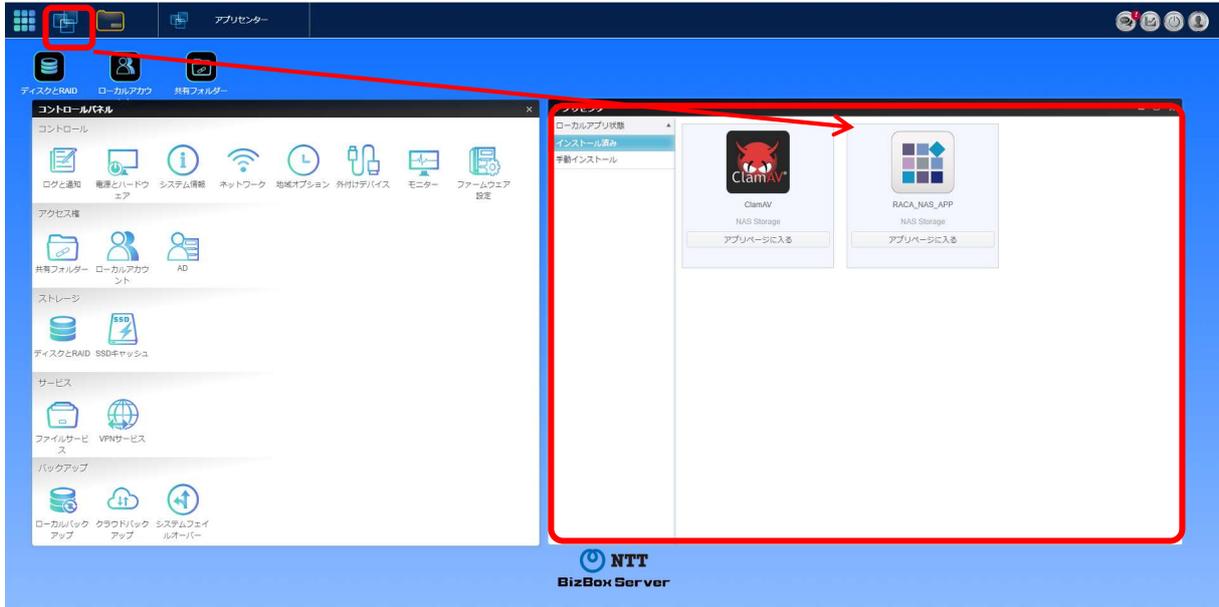
「ログアウト」を押下したあと「OK」を押下し、**一般ユーザー Web インターフェース**を終了します。



## アプリセンター



アプリセンターでは、本製品に対応したアプリケーションを使用することができます。アプリセンターアイコンを押下します。下のよう画面が表示されます。最初からインストールされた「インストール済みアプリケーション」が一覧表示されます。



メニューバー	
項目	説明
コントロールパネル	システムおよび機能設定に入ります(機能設定を行います)
アプリセンター	アプリセンターに入ります(ウイルススキャン設定(ClamAV)、リモートアクセス(OrbWeb))

関連するアプリの詳細を表示するには、アプリアイコンを押下して、ウィンドウを開きます。関連するアプリを実行するには、「アプリページに入る」を押下します。



## アップデートモジュールリストのスケジュール設定

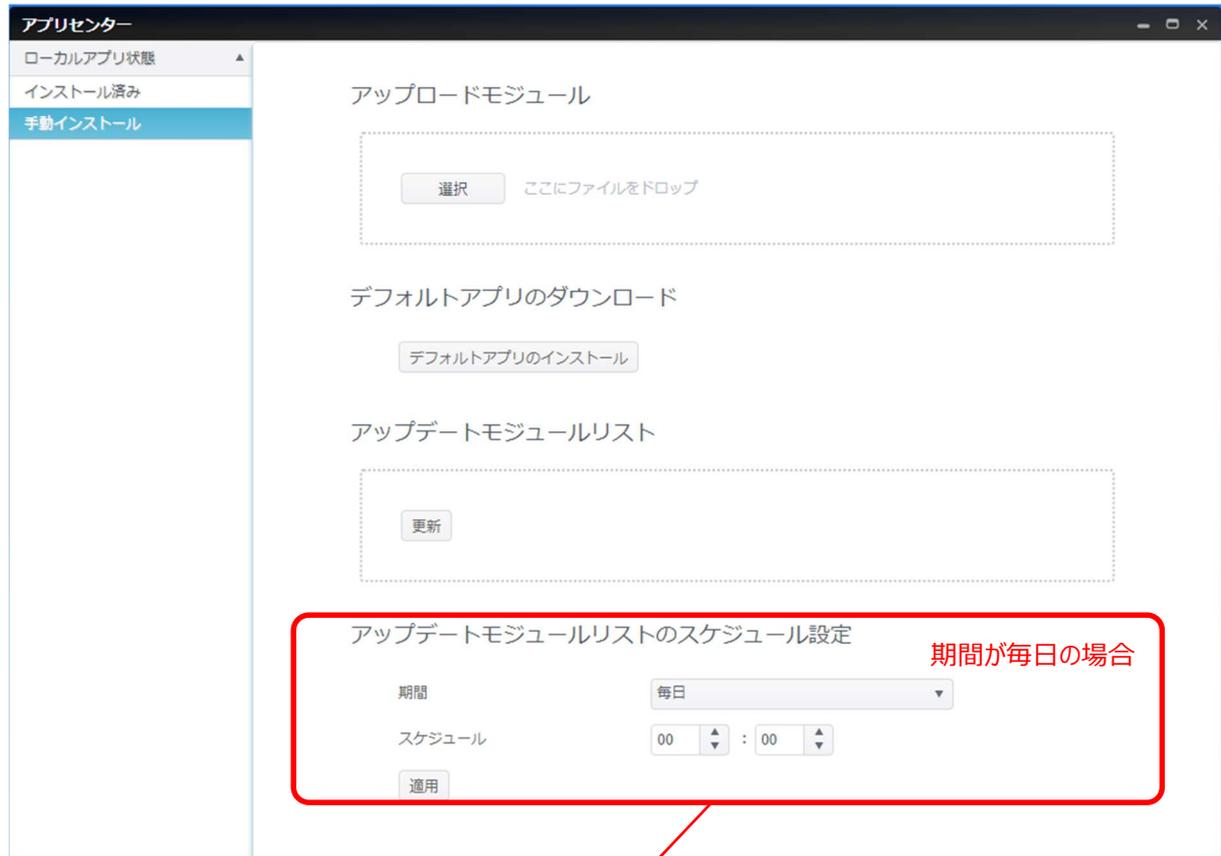
スケジュールしたタイミングで標準インストールアプリ(【ClamAV】【RACA】)のモジュールリストの更新を行います。標準インストールアプリは、最新に保つことを推奨します。

標準インストールアプリを常に最新にしておくためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。

アップデートのスケジュールは、下記の画面にて設定を行います。

アップデートモジュールリスト更新初期設定日時：毎週日曜日 5:35

期間	毎日	—	時	分
	毎週	月曜日～日曜日	時	分



## アプリの更新

アップデートモジュールリストの更新をスケジュール、手動で行った際アップデートがある場合自動的にアプリが更新されます。

## ClamAV®

ClamAV® は、トロイの木馬、ウイルス、マルウェア等の悪質な脅威を検出するためのオープンソース(GPL)のウイルス検出エンジンです。本アプリケーションをインストールすることによってコンピュータウイルスから本製品を保護することができます。

## スキャン

ウイルスをスキャンするディレクトリ(フォルダー)およびファイルの選択、スキャン設定、スキャンの実行を行うタブです。



The screenshot shows the ClamAV web interface. At the top left is the ClamAV logo. Below it, there's a sidebar with the ClamAV logo and scan status information: "最後のスキャン: 2024-10-17 13:50:43" and "最終アップデート: 2024-10-17 13:28:01 SUCCESS". The main area has tabs for "スキャン", "更新", "隔離", and "削除". Below these are "追加" and "ログ" buttons. A table displays scan results for various directories and files.

ディレクトリ/ファイル	最後のスキャン	感染数	ステータス
NAS_Public	2024-10-17 13:48:04	0	Finish
出荷	2024-10-17 13:48:24	0	Finish
品質	2024-10-17 13:47:07	0	Finish
営業	2024-10-17 13:48:43	0	Finish
外資	2024-10-17 13:50:43	0	Finish
幹部	2024-10-17 13:49:02	0	Finish
広報	2024-10-17 13:50:33	0	Finish
生産管理	2024-10-17 13:49:43	0	Finish
経理	2024-10-17 13:45:50	0	Finish
総務	2024-10-17 13:46:28	0	Finish
給与	2024-10-17 13:50:23	0	Finish
社長	2024-10-17 13:47:46	0	Finish
会計	2024-10-17 13:49:22	0	Finish
福利厚生	2024-10-17 13:50:02	0	Finish

追加ボタンを押すことでスキャン追加画面に移行し、スキャン内容を設定できます。

※スキャン対象フォルダは最大で 15 個を対象とする事が可能です。そのフォルダ下層のフォルダ・ファイルは全てスキャン対象となります。

スキャン追加画面に移行したら、左ペインからスキャン対象ディレクトリやファイルを選択します。ディレクトリの内部を参照したい場合はディレクトリ名左側の三角マークを押下します。

スキャン対象を選択したら右ペインからスキャン方法を設定します。検出したウイルスを一度態度保留して後で判断したい場合は隔離、自動削除したい場合はウイルス削除を選択します。スキャン間隔はすぐに、毎日、毎週のうちから選択できます。

スキャン追加

ファイルディレクトリスキャン:

- NAS\_Public
- USBHDD
- 会計
- 出荷
- 品質
- 営業
- 外商
- 幹部
- 広報

検出後:  隔離  ウィルス削除

スキャン間隔:  すぐに  毎日  毎週

キャンセル

**毎日**を選択した場合、スキャンの開始時間を指定します。

スキャン間隔:  すぐに  毎日  毎週

開始時間: 00 : 00

**毎週**を選択した場合、開始時間に加えてスキャンを実施する曜日を指定します。

スキャン間隔:  すぐに  毎日  毎週

開始時間: 00 : 00

週:

月曜日  火曜日  水曜日  木曜日

金曜日  土曜日  日曜日

**OK**を押してスキャン設定を完了するとスキャンタブに反映されます。スキャン間隔を「**すぐに**」に設定した場合、スキャンが開始されます。

「**ログ**」ボタンを押下するとご使用のPCのダウンロードフォルダにCSV形式のログがダウンロードされます。ログにはスキャンサマリ、検疫リスト、ウィルス削除リストが記載されています。

追加されたスキャン設定を押下すると「**編集**」、「**削除**」、「**開始**」ボタンが追加されます。



ディレクトリ/ファイル	最後のスキャン	感染数	ステータス
NAS_Public	2024-10-17 13:48:04	0	Finish
出荷	2024-10-17 13:48:24	0	Finish
品質	2024-10-17 13:47:07	0	Finish
営業	2024-10-17 13:48:43	0	Finish
外商	2024-10-17 13:50:43	0	Finish
幹部	2024-10-17 13:49:02	0	Finish

最後のスキャン: 2024-10-17 13:50:43  
最終アップデート: 2024-10-17 13:28:01  
SUCCESS

「**編集**」ボタンを押すことでスキャン編集画面が開き、スキャン設定を変更することができます。



削除ボタンを押すことでスキャン設定を削除できます。



開始ボタンを押下することで設定したスキャンを実行します。スキャン間隔を毎日もしくは毎週に設定した場合でも即座に実行されます。



スキャンが完了するとステータスが Finish になります。感染数を確認し、感染があった場合は**隔離タブ**または**削除タブ**を参照してください。画面左側でシステム全体の、スキャンタブからスキャン設定単位で最後にスキャンした日時を確認することができます。

ディレクトリ/ファイル	最後のスキャン	感染数	ステータス
NAS_Public	2024-10-17 13:48:04	0	Finish
出荷	2024-10-17 13:48:24	0	Finish
品質	2024-10-17 13:47:07	0	Finish
営業	2024-10-17 13:48:43	0	Finish
外資	2024-10-17 13:50:43	0	Finish
幹部	2024-10-17 13:49:02	0	Finish

## 更新

ウイルス定義をアップデートすることができます。手動アップデートの他に自動アップデートのスケジュールも設定できます。

※定義ファイルの初期更新日時：毎日 04:35

今すぐ更新ボタンを押下することで最新ウイルス定義を入手します。インターネット接続が必要です。特に隔離環境で本製品を運用している場合はネットワーク管理者に設定を確認してください。

スケジュール有効にチェックを入れることで最新ウイルス定義入手を自動化できます。毎日を選択した場合はアップデートを実施する時間を、毎週を選択した場合はさらにアップデートを実施する曜日を選択します。選択し終わったらスケジュール設定の保存ボタンを押して設定を保存します。



ClamAV  
最後のスキャン：  
2024-10-17 13:50:43  
最終アップデート：  
2024-10-17 13:28:01  
SUCCESS

スキャン 更新 隔離 削除

自動アップデート  
今すぐ更新  
オンラインアップデートには、インターネットの接続が必要です。アップデートには数分かかります。

スケジュールアップデート  
 スケジュール有効  
タイプ：  
 毎日  毎週  
開始時間：  
04 : 35  
スケジュール設定の保存

毎日を選択した場合、アップデートの開始時間を指定します。



スケジュールアップデート

スケジュール有効  
タイプ：  
 毎日  毎週  
開始時間：  
04 : 35  
スケジュール設定の保存

毎週を選択した場合、開始時間に加えてアップデートを実施する曜日を指定します。



スケジュールアップデート

スケジュール有効  
タイプ：  
 毎日  毎週  
開始時間：  
04 : 35  
週：  
 月曜日  
 火曜日  
 水曜日  
 木曜日  
 金曜日  
 土曜日  
 日曜日  
スケジュール設定の保存

OKを押してスケジュール設定を完了すると設定した日時にアップデートが行われます。今すぐ更新を押下した場合、すぐにアップデートが開始されます。

## 隔離

スキャンによって隔離されたファイルの一覧を確認できます。

検出したファイルを選択すると**リストア**、**削除**、**全削除**のボタンが追加されます。**リストア**ボタンを押下することで検出されたファイルを元の場所へ戻します。ウイルスとして誤検出された無害のファイルを戻すために使用します。**削除**ボタンを押下することで選択したファイルを個別に削除できます。**全削除**ボタンを押下することで一覧のファイルをすべて削除できます。

※隔離されたファイルはユーザーがアクセスできない RAID 内の特別の領域に隔離、保存されています。リストアでのみ元の場所に戻すことができます。



ファイル名	パス
eicar.com	/raid/data/eicar_test/eicar.com

## 削除

スキャンによって削除されたファイルの一覧を確認できます。**全削除**ボタンを押下することで一覧を空に戻すことができます。



ファイル名	パス
-------	----

**Orbweb.me®**

2022年3月31日にサービス終了しました。

## Remote Access Connection Agent(RACA)

RACA はスマートフォンやタブレット、WindowsPC、Mac のブラウザから簡単に本製品に接続することができるアプリです。スマートフォン、タブレット、PC に専用のアプリをインストールすることなく chrome や safari といったブラウザで本製品に簡単にアクセスしてファイルのアップロードやダウンロードをすることができます。

### ～特徴～

- このアプリを使用するのに、特別なユーザー登録やアプリのインストールは必要ありません。
- ブラウザだけで簡単にファイルの操作することができます。
- ファイルの共有を共有リンクや QR コードで簡単に行うことができます。
- どのフォルダーにアクセスできるか、読み書きができるかなどは全て本製品の ACL 設定に従います。
- このアプリでの操作は、本製品のアクセスログに記録されます。
- 最大 5 ユーザーまで同時に接続することができます。
- 1 つのユーザーで 2 台の異なる端末から同時にアクセスすることができます。

### ～注意点～

- **ブラウザでアクセスする URL は、本体交換やシステムファイルオーバー後、リモートアクセス用 URL 再発行ボタンを押した際は変更となり、変更前の URL は使えなくなります。**

### 対応端末と OS(2022.1 末時点)

端末	Windows PC	Mac	iPhone/iPad	Android 端末
OS	Windows10/11	macOS (Big Sur 以降) (intel/ApplesM1)	iOS14 以上 /iPadOS14 以上	AndroidOS10 以上

### 推奨ブラウザ

- Google Chrome
- Microsoft Edge
- Safari

※基本的にはブラウザが動作する環境であればご利用頂けますが、動作確認は上記対応端末と推奨ブラウザの組み合わせで行っております。

※ファイルのアップロード・ダウンロードは、回線の状態及び利用端末の性能により時間を要する場合があります。

失敗した場合、再実行することで読み込むことが可能になる場合があります。

※本製品への接続の最大接続数は、5 ユーザー、それぞれ 2 セッション、最大 10 セッションとなります。

※1 クライアント端末が安定して利用するにはおおよそ 3Mbps の帯域を必要とします。

※1 つのフォルダーに大量のファイルがある場合、表示に時間がかかります。快適にご利用いただく目安として、1 フォルダ内のファイル数は 1,000 以下を推奨いたします。

## 利用の流れ

1. 管理者は RACA を利用させたいユーザーを Web 管理インターフェースで作成します。（すでに作成済みの場合は不要です。）  
詳細は第 4 章システム管理 – アクセス権 – ローカルアカウントの項をご覧ください。
2. 管理者は Web 管理インターフェースのアプリセンターから RACA の機能を有効にし、リモートアクセス用の URL/QR コードを発行します。  
詳細は「RACA の設定」の項をご覧ください。
3. 管理者は 2. で発行したリモートアクセス用の URL/QR コードを RACA を利用したいユーザーに周知します。
4. RACA を利用したいユーザーは 3. で周知された URL/QR コードにブラウザでアクセスします。  
詳細は「RACA の使い方」の項をご覧ください。

## RACA の設定

Web 管理インターフェースのアプリセンター内にインストールされている RACA\_NAS\_APP のアイコンをクリックし、「アプリページに入る」を押下するとブラウザのページ（タブ）が新しく開きます。セキュリティ警告が出ますので「詳細設定」から「x.x.x.xにアクセスする（安全ではありません）」を押下してアプリページに進んでください。



RACA\_NAS\_APP

ユーザーにこのモジュールの使用を許可する。  
 デスクトップへのショートカットの表  
 示

**アプリページに入る**

選択 ▼



**この接続ではプライバシーが保護されません**

192.168.10.110 では、悪意のあるユーザーによって、パスワード、メッセージ、クレジットカードなどの情報が盗まれる可能性があります。詳細

NET:ERR\_CERT\_AUTHORITY\_INVALID

このサーバーが 192.168.10.110 であることを確認できませんでした。このサーバーのセキュリティ証明書は、ご使用のパソコンのオペレーティング システムによって信頼されているものではありません。原因としては、不適切な設定や、悪意のあるユーザーによる接続妨害が考えられます。

**192.168.10.110 にアクセスする（安全ではありません）**

## リモートアクセス機能

リモートアクセス機能を有効にする

ファイル転送最大容量設定

50 MB (1~50,000 MB)

ログイン3回失敗で30分間のアクセス拒否機能を有効にする

リモートアクセス用URL

RACA の設定画面が開き上記画像の設定画面が表示されます。

「リモートアクセス機能を有効にする」のチェックボックスにチェックを入れると、リモートアクセス機能が有効となり、リモートアクセス用 URL と QR コードが表示されます。

この URL は RACA で本製品にアクセスするために必要な URL となります。

管理者はこの URL/QR コードをリモートアクセスを利用するユーザーに共有します。ユーザーは①この URL/QR コード、②ローカルアカウントのユーザー名、③ローカルアカウントのパスワードでアクセスすることが出来ます。

アップロード/ダウンロードファイルは 1 M～50,000MB(50GB)のサイズ制限をかけることが出来ます。

制限を超える容量のファイルはアップロード/ダウンロードできません。



RACA Service チェック項目	
項目	説明
リモートアクセス機能を有効にする	RACA を使用して、リモートアクセスをする場合、チェックボックスをオンにします。
再発行ボタン	新規にまたは再度 URL を発行します。 ※既に URL を発行している場合に「再発行」ボタンを押すと URL が変更されるため、利用しているユーザーに URL を再度周知する必要があります。
リモートアクセス用 URL	リモートアクセスするときに接続する URL を表示します。管理者はこの URL をリモートアクセス機能を利用させるユーザーに共有してください。この URL は再度「再発行」ボタンを押下しない限り、変更されません。
ファイル転送最大容量設定	リモートアクセスでアップロード/ダウンロード出来る 1 ファイルの最大容量に制限をかけます。1～50,000MB の範囲で設定できます。無制限にすることは出来ません。
ログイン 3 回失敗で 30 分間のアクセス拒否機能を有効にする	チェックボックスをオンにすることでログイン失敗時のアクセス制限を有効にします。オンになると 3 回ログインに失敗した場合、30 分間ログインができなくなります。

## RACA の使い方

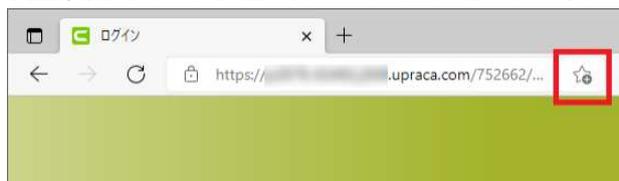
### ① 接続

管理者にリモートアクセス用 URL を共有してもらい、ブラウザに入力して接続します。

タブレットやスマートフォンでご利用の場合は、QR コードをカメラやアプリで読み取ってアクセスすることもできます。



次回利用時のために、ログインページをお気に入りやブックマークに登録すると便利です。



### ② ログイン画面

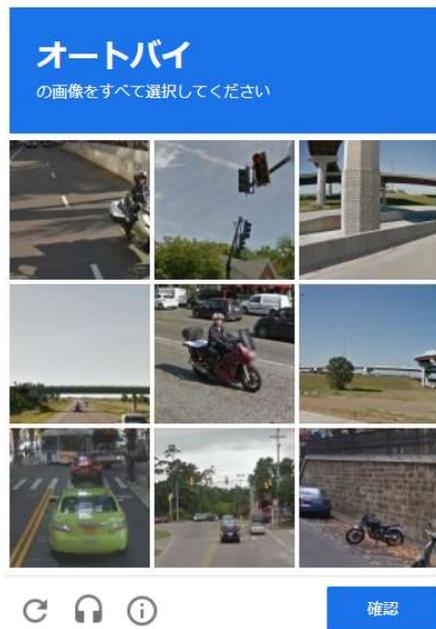
以下のログイン画面が表示されますので、普段自分が使用しているローカルアカウントの ID とパスワードを入力し、「私はロボットではありません」にチェックを入れた上で「ログイン」ボタンを押下します。



「私はロボットではありません」にチェックを入れようとすると以下のようなランダムな設問が表示されることがあります。

設問の通りに画像の中から該当するものを選択して確認を押下してください。

よくわからないときはスキップを押下して別の設問にすることも出来ます。



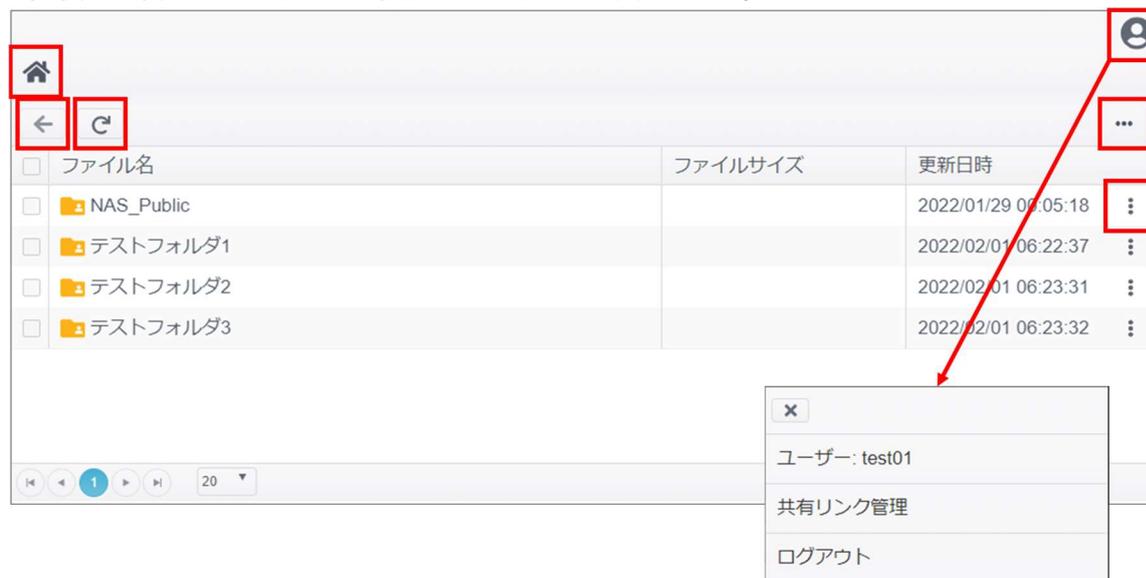
※アクセス拒否機能を有効にしている場合、ID・パスワードの入力を3回間違えると30分ロックがかかりログイン出来なくなります。

※画像選択画面が出る時と、出ないときがあります。これはボット対策として使用している Google reCAPTCHA のアルゴリズムによりランダムで制御されているため不具合ではありません。

### ③ 初期画面

ログインに成功すると以下のような画面が表示されます。

(お使いの環境、アカウントによって表示されるフォルダーは異なります。)



ボタン説明	
項目	説明
 アカウントボタン	アカウントアイコン。押下するとユーザー、共有リンク管理、ログアウトが表示されます。(共有リンク管理についてはファイル共有の項にて詳しく説明します)
 ホームボタン	ホームボタン。押下するとログイン直後の画面に戻ります。ログイン直後の画面には、パブリックな共有フォルダーとアクセスが可能なプライベートな共有フォルダーのみが表示されます。 <b>※フォルダーは参照可能である必要があります。</b>
 戻るボタン	一つ上の階層に戻ります。
 リロードボタン	リロードボタン。最新の情報に更新します。
 機能ボタン (フォルダー単位)	フォルダー単位の機能ボタンは[アップロード][フォルダー作成][貼り付け][削除][ダウンロード]があります。使用できないときは文字がグレイアウトして、選択できません。各機能は以下で説明します。
 機能ボタン (ファイル単位)	ファイル単位の機能ボタンは[切り取り][コピー][名前の変更][ファイル共有]があります。使用できないときは文字がグレイアウトして、選択できません。各機能は以下で説明します。

アカウントボタン押下時項目	
項目	説明
ユーザー	現在のログインユーザー名です。
共有リンク管理	このユーザーで作成された共有リンクを管理します。(詳細はファイル共有の項で説明します)
ログアウト	ログアウトします。10分以上操作しない場合、自動的にログアウトされます。



ファイル/フォルダ数が多くて1ページ表示しきれない場合、このボタンでページを移動します。タブに書かれている数字は1ページあたり何アイテム表示するかで、10,20,30,50,100より選ぶことができます。

左のチェックボックスで一つ・または複数選択したものを[削除]することが出来ます。[ダウンロード]は一つのファイルに対してのみ有効です。複数ファイル・フォルダにチェックをいれた場合は[ダウンロード]ボタンがグレーアウトして選択することができません。

※チェックボックスと [アップロード][フォルダ作成]は連携しません。



[切り取り][コピー][名前の変更][共有ファイル]のボタンは各ファイルの右にある  を押下することで表示され、これらの操作の対象となるのは  を押し、グレーの色が濃くなったその単一のファイルだけとなります。

※左のチェックボックスとは連動しません。複数ファイルをチェックボックスで選択して、[切り取り][コピー][名前の変更][共有ファイル]を実行することは出来ません。

## [アップロード]

アップロードしたいファイルをドロップするかファイル選択から選択してアップロードします。(左下図)

チェックボックスにチェックを入れると同名のファイルがあった場合を上書きします。

※一度に多量のファイルをアップロードすると動作が重くなることがあります。特にサイズの大きいファイルをアップロードする際は、1ファイルずつアップロードすることを推奨いたします。

※チェックを入れずにアップロード先に同名のファイルがある場合、アップロードに失敗します。(右下図)



## [フォルダー作成]

サブフォルダーを作成したい場所で[フォルダー作成]を押下すると以下のウィンドウが表示されます。フォルダー名を入力し、[はい]を押下することでフォルダーを作成することが出来ます。

※ホーム画面に共有フォルダーを作成することは出来ません。共有フォルダーを作成したい場合は、WebUIの「共有フォルダー」でフォルダーを追加してください。



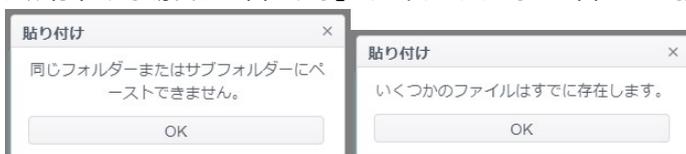
## [貼り付け/切り取り/コピー]

移動、またはコピーしたいファイルを1つ選び、そのファイルの右にある  から[切り取り][コピー]を押下。貼り付けを行いたいフォルダーで  から[貼り付け]を実施すると左下の画面が表示され、はいを押下すると移動、またはコピーが実施されます。(右下図)



※元ファイルと同じフォルダーに移動、左下図のようにエラーが表示され、コピーすることは出来ません。

※既に同名のファイルがある場合、右下図のようにエラーが表示され、移動またはコピーすることは出来ません。「ファイルが存在する場合、上書きする」にチェックを入れると上書きされて貼り付けされます。



## [削除]

削除を行うにはどのファイルを削除するか、左のチェックボックスを使って選択する必要があります。チェックを付けた複数のファイル、フォルダーをまとめて削除することが出来ます。



## [ダウンロード]

ダウンロードしたい一つのファイルの左のチェックボックスを使って選択し、[ダウンロード]を押すとダウンロードができます。

※複数ファイルやフォルダーをまとめてダウンロードすることはできません。

## [名前の変更]

名前を変更したいファイル/フォルダーを1つ選び、そのファイル/フォルダーの右にある  から[名前の変更]を押下すると、左下のウィンドウが表示されます。変更したい名前を入力し、[はい]を押下することで名前を変更することが出来ます。(右下図)



## [プレビュー機能]

ファイル名を押下すると「詳細」が表示されます。対応する一部の画像フォーマットについては画像のようにプレビューが表示されます。また[ダウンロード]を押下すればここからダウンロードが可能です。

※プレビューに対応している画像のファイルタイプは png, jpg, bmp, gif です。



## ファイル共有

ファイル共有の機能を使用すると本製品内のファイルを外部のユーザーと共有することができます。

### ～特徴および注意事項～

- 共有することができるファイルは共有者がアクセスできるファイルに限られます。
- 共有することができるのは 1 回につき、1 ファイルだけです。複数ファイルの共有を一度で行いたい場合は事前にファイルを圧縮するなどして 1 つのファイルにまとめてください。
- パスワードによる保護、ダウンロードの有効期限を設定することができます。
- 共有リンクとそのリンクの QR コードの作成ができます。共有リンクを共有したい人に伝えるだけで簡単にファイルの共有ができます。
- 外部のユーザーからファイルをアップロードし、共有することはできません。
- ファイル共有中にリモートアクセス用 URL が変更になった場合は、元の URL は無効となります。

共有を行いたいファイルの右端の  を押しし[共有ファイル]を押下します



必要に応じて「コード保護を取得（パスワード保護をする）」、「有効期限を設定する」にチェックを入れて有効に設定し、最後に[共有リンクを生成する]を押下します。



共有 設定項目	
項目	説明
ファイルパス	共有するファイルのファイルパスが表示されます。
コード保護を取得する	チェックボックスで有効にします。パスワードを設定すると、共有リンクの URL がわかってパスワードがわからなければダウンロードできません。少なくとも 4 文字以上で、`\$#&;+` と空白を含んではいけません。
有効期限を設定する。	チェックボックスで有効にします。有効にしない場合、ファイルが存在する限り無期限でダウンロード可能となります。
共有リンクを生成する	上記設定に問題なければ押下して共有リンクを生成します。

共有リンクが表示されます。赤枠のクリップボードマークを押下するとクリップボードに URL がコピーされます。

メールなどにペーストし、共有することが出来ます。

QR コードの画像を押下すると QRCode\_ファイル名.png という名前で QR コードの画像をダウンロードすることができます。スマートフォンなどのカメラでコードを読み取ってアクセスすることが出来ます。



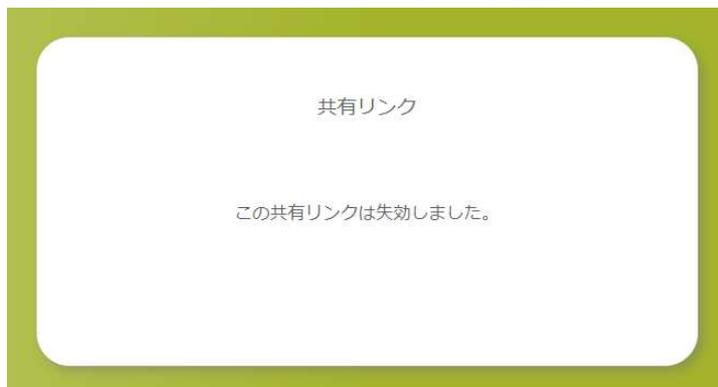
共有リンクにアクセスするとパスワードで保護されている場合以下のような画面が表示されるのでパスワードを入力して Get を押下します。



パスワードを入力して Get を押下した後、またはパスワード保護をしていない場合は直接以下のような画面になります。押下してダウンロードしてください。

ファイル名	
 サンプルイメージ.gif 2022/02/02 04:33:09	

有効期限が過ぎてしまうと下図のようにリンクは失効します。



#### [共有リンクの管理]

画面右上にあるアカウントボタンを押下し、共有リンク管理を押下します。

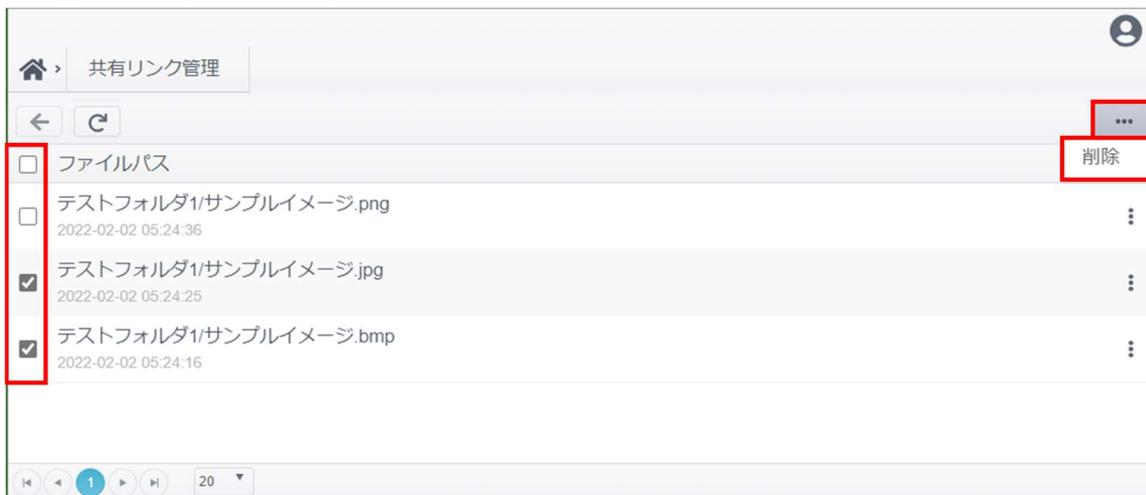


<input type="checkbox"/>	ファイル名	ファイルサイズ	更新日時	
<input type="checkbox"/>	NAS_Public		2022/01/29 09:05:18	⋮
<input type="checkbox"/>	テストフォルダ1		2022/02/01 06:22:37	⋮
<input type="checkbox"/>	テストフォルダ2		2022/02/01 06:23:31	⋮
<input type="checkbox"/>	テストフォルダ3		2022/02/01 06:23:32	⋮

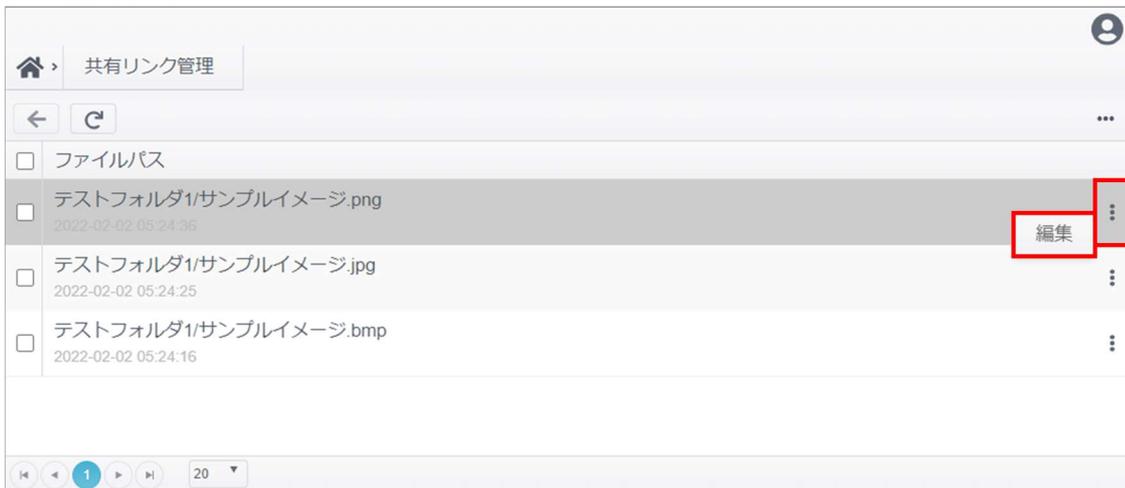
✕  
 ユーザー: test01  
共有リンク管理  
 ログアウト

下図のように共有リンクを作成した履歴が表示されます。

① 左でチェックを付けた履歴を削除する



② 各ファイルで編集を行うと既に発行したリンクを編集し、パスワードの追加・変更・削除、有効期限の変更を行うことが出来ます。

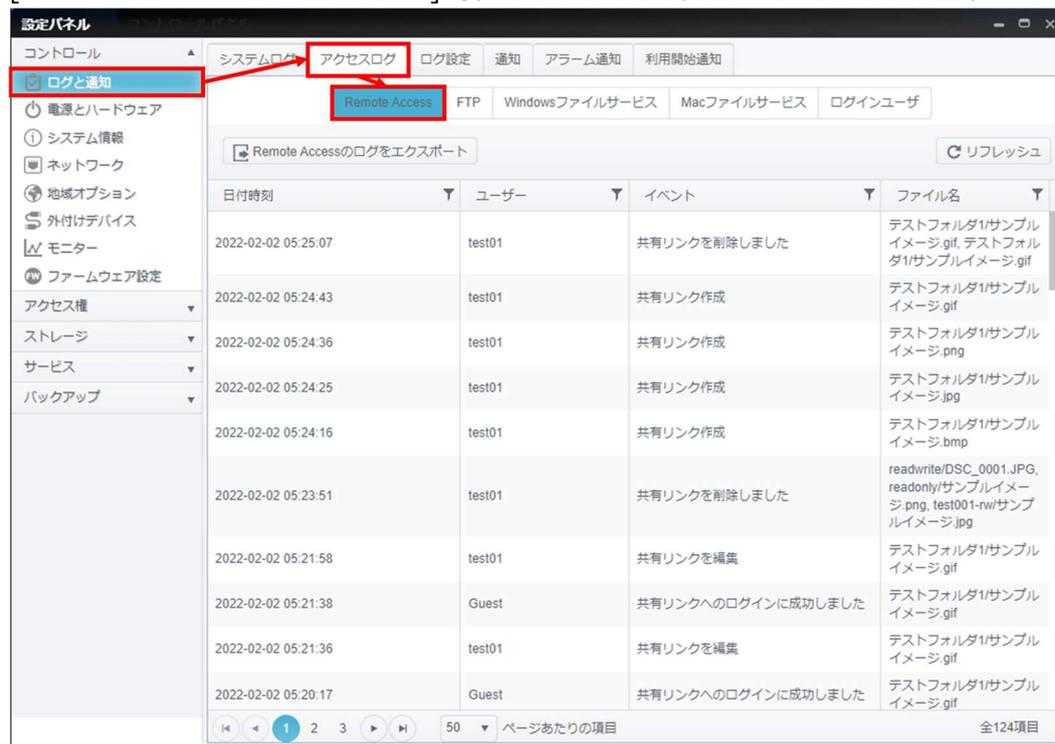


## リモートアクセスのログ

RACA はリモートアクセスでのアクセスログを取得、表示できます。[ログと通知]-[アクセスログ]-[Remote Access]でログを確認することができます。ログ項目は以下のとおりです。

- 日付時刻
- ユーザー：ローカルアカウントユーザー名が表示されます。共有リンクへのログインログは Guest となります
- イベント：下表を参照ください
- ファイル名：ファイル、フォルダ操作に関するログの場合、対象ファイル/フォルダ名が表示されます

[Remote Access のログをエクスポート]を押すことで CSV 形式でエクスポートすることができます。



Remote Access Log イベント項目	
項目	説明
ログインに成功しました/Login Success	ユーザーがログインに成功しました。
ログインに失敗しました/Login Fail	ユーザーがパスワードの入力を間違えました。
ログアウト/Logout	ユーザーがログアウトしました。
フォルダ作成/Create folder	ユーザーがフォルダを作成しました。
名前の変更/Rename File	ユーザーがファイル/フォルダ名を変更しました
削除/Remove File	ユーザーがファイル/フォルダを削除しました。
アップロード/Upload	ユーザーがファイルをアップロードしました。
ダウンロード/Download	ユーザーがファイルをダウンロードしました。
共有リンク作成/Create Share Link	ユーザーが共有リンクを作成しました。
共有リンクを削除しました/Remove Share Link	ユーザーが共有リンクを削除しました。
共有リンクを編集/Edit Share Link	ユーザーが共有リンクを編集しました。
共有リンクへのログインに成功しました/Login Share Page	ゲストがパスワード保護付き共有リンクにアクセスしました。
共有リンクへのログインに失敗しました/Login Share Page Fail	ゲストがパスワード保護付き共有リンクでパスワードの入力に失敗しました。

※コピーや切り取り、貼り付けなどはアクセスログとしては記録されません。

## その他注意事項

### ～リモートアクセス用 URL の変更について～

- 本機能には本体シリアルナンバーと関連した URL を使用する関係上、本体交換やフェイルオーバーでアクティブマシンが入れ替わった時などはリモートアクセス用 URL が変わります。

### ～フェイルオーバー機能利用時の注意点～

- システムフェイルオーバーを使用する場合はスタンバイ側のリモートアクセス機能は強制的に無効化されます。もしフェイルオーバーが作動し、このスタンバイが新アクティブに成り上がっても無効化されたままとなります。手動で有効にする必要があります。

### ～セキュリティ～

- セキュリティ上の観点から、長期的に同じ URL を使いつづけることは避け、定期的リモートアクセス用 URL を再発行することを推奨します。

### ～扱えるファイルについて～

- ファイルはどのプラットフォーム(OS)/クライアントにおいてもどのようなファイルタイプでも原則アップロード・ダウンロードすることができますが、アップロード元/ダウンロード先などがプラットフォーム(OS)/設定などによって制限される場合があります。これらはプラットフォーム(OS)側のポリシーによるものであり、またバージョンなどが変わることによって変わる可能性があります。(例えば ios の場合、icloud Drive を有効にしていると通常本体のダウンロードフォルダ以外に icloud Drive が追加されます。)
- ダウンロードしたファイルをオープン、編集できるかどうかはプラットフォームやインストールされているアプリによって異なります。

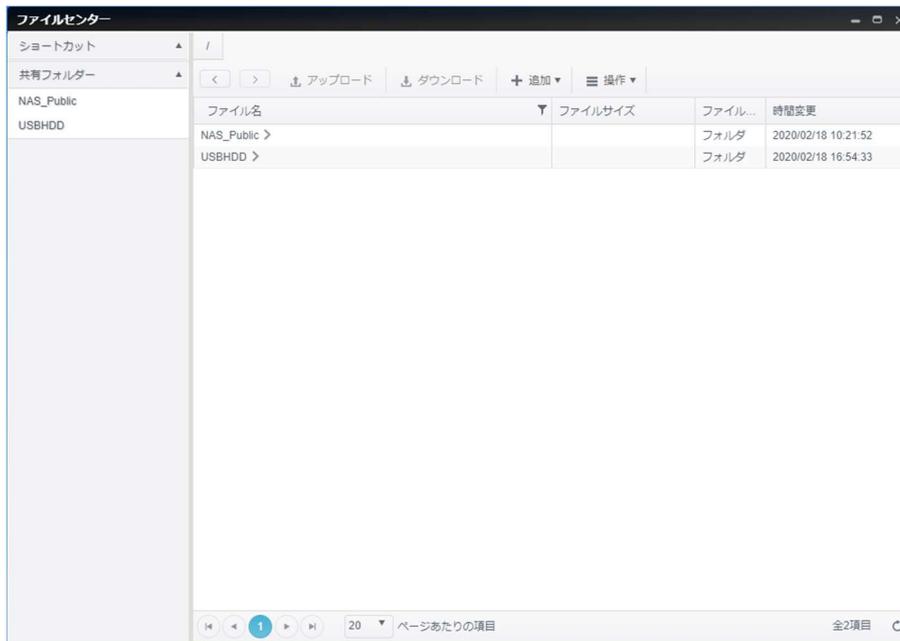
※RACA の利用は、製品の保証期間に合わせて利用可能期間は、5 年になります。

## ファイルセンター

ファイルセンターにより、WebAdmin(管理者)、一般ユーザーは、Web インターフェースを介して、ファイルのアップロード、ダウンロードおよびファイル/フォルダー操作ができます。ファイルセンターアイコンを押下します。システムは、公開システムフォルダー、ACL が許可された関連フォルダーおよびログインユーザーの**ホーム**フォルダーを表示します。

左側には、対象のログインユーザーが利用可能なすべてのフォルダーが一覧表示されます。右側には、選択したフォルダーに対する詳細なファイル/フォルダーのリストが表示されます。

機能タブを使ってファイル/フォルダーを管理したり、マウスの右ボタンをクリックして機能メニューを表示します。



いずれかの共有フォルダーにアクセスしなければ操作を行うことはできません。

### アップロード

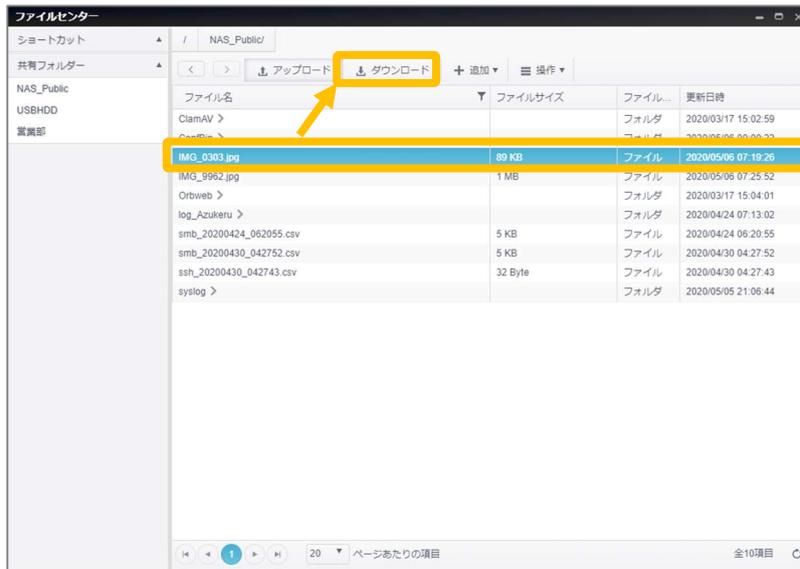
① ファイルを選択するかアップロードしたいファイルをドロップします。同名のファイルがあるのにアップロードしようとすると失敗します。上書きしてもいい場合は[ファイルが存在する場合、上書きする]にチェックを入れます。

③ 100%になればアップロードは完了です。右上の X で画面を閉じてください。



## ダウンロード

ファイルを選択し、ダブルクリックをするか、[ダウンロード]押下するとファイルのダウンロードが行えます。



## 追加（フォルダー作成）

①追加にマウスを合わせるとフォルダー作成が表示されるので押下します。

②フォルダー名を入力し、OKを押下します。

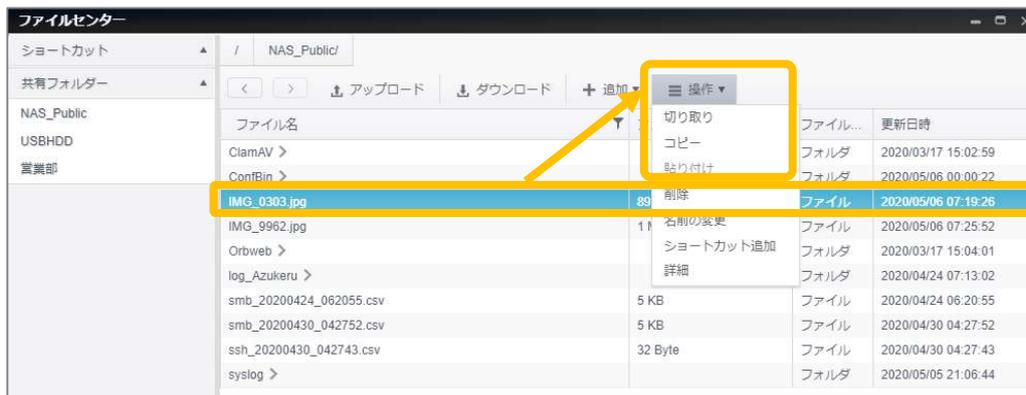


## 切り取り/コピー/貼り付け

①操作を行いたいファイル/フォルダーを選択します。SHIFT や CTRL を使い複数のファイル/フォルダー選択も可能です。

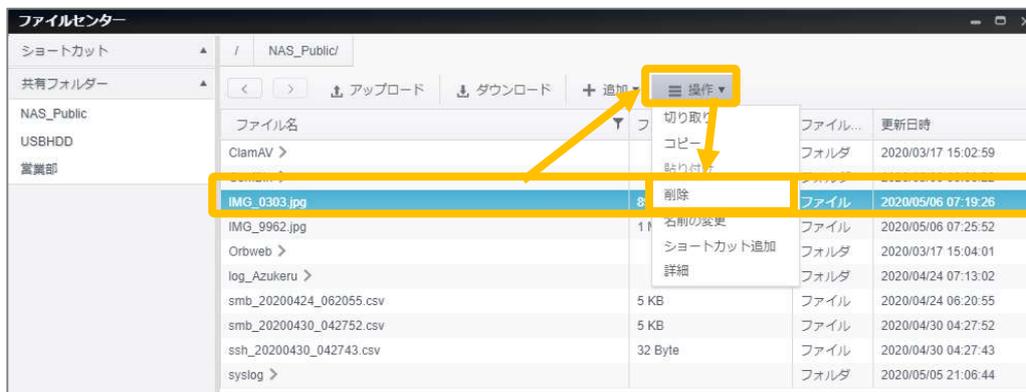
②操作にマウスを合わせるとメニューが表示されるので切り取り/コピーを選択します。

③貼り付けを行いたい場所で貼り付けを選択します。



## 削除

- ①削除を行いたいファイル/フォルダーを選択します。SHIFT や CTRL を使い複数のファイル/フォルダー選択も可能です。
- ②操作にマウスを合わせるとメニューが表示されるので削除を選択します。



## 名前の変更

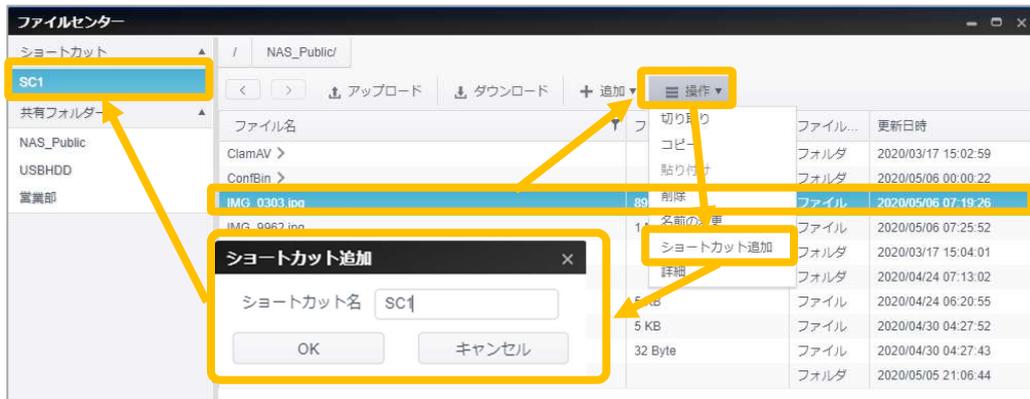
- ①名前の変更を行いたいファイル/フォルダーを選択します。。
- ②操作にマウスを合わせるとメニューが表示されるので名前の変更を選択し新しい名前を入力し OK を押下します。



## ショートカット追加

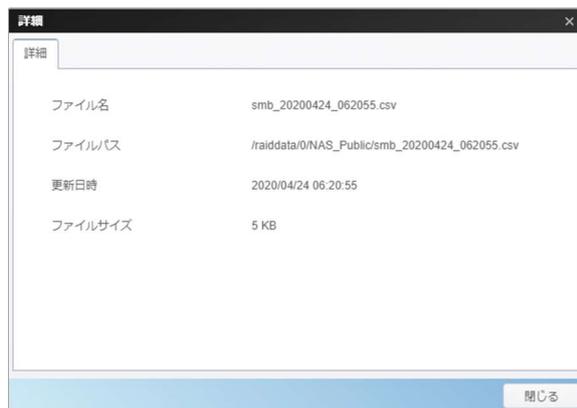
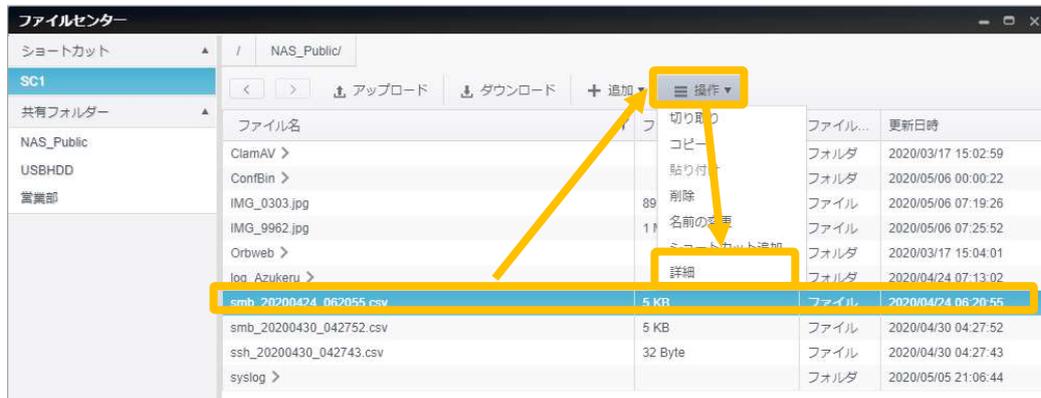
- ①ショートカットを追加したいファイル/フォルダーを選択します。
- ②操作にマウスを合わせるとメニューが表示されるのでショートカット追加を選択しショートカット名を入力し OK を押下します。

③左上のショートカットに入力したショートカット名が登録されます。これにより素早くアクセスすることができるようになります。



## 詳細

- ① 詳細を表示させたいファイル/フォルダーを選択します。
- ② 操作にマウスを合わせるとメニューが表示されるので詳細を選択すると詳細が表示されます。



ファイルセンターの機能に関する説明は以下の通りです。

ファイルセンターの機能	
項目	説明
アップロード	対応する 本製品フォルダーにファイルをアップロードします
ダウンロード	本製品からファイルをローカルシステム内の対応する本製品フォルダーにダウンロードします
追加	フォルダーの作成を行います
操作	
切り取り	選択したフォルダー/ファイルを切り取ります
コピー	選択したフォルダー/ファイルをコピーします。シフトキーを押しながら、次のファイル/フォルダーを複数選択します
貼り付け	切り取り/コピーしたファイル/フォルダーを貼り付けます
削除	選択したフォルダー/ファイルを削除します
名称変更	選択したフォルダー/ファイルの名称を変更します
ショートカットに追加	選択したファイル/フォルダーをショートカットリストに追加します
詳細	選択したファイル/フォルダーの詳細を表示します

## 注

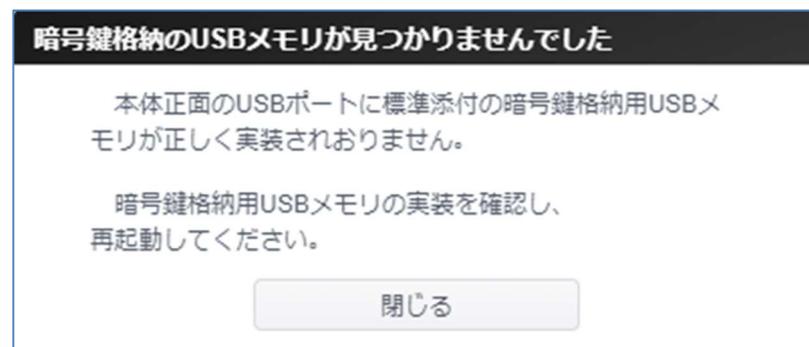
- ファイルセンターのアップロードを使って本機にファイルを転送するとファイルの属性が SA 属性に変更されます。  
Samba ファイル属性に記載の「ファイル属性とファイルの復元について」に記載している内容を参照ください。
- 一般ユーザーは WebUI にアクセスしたときこのファイルセンターの機能のみ使用できます。

## 第 6 章: お困りの時は

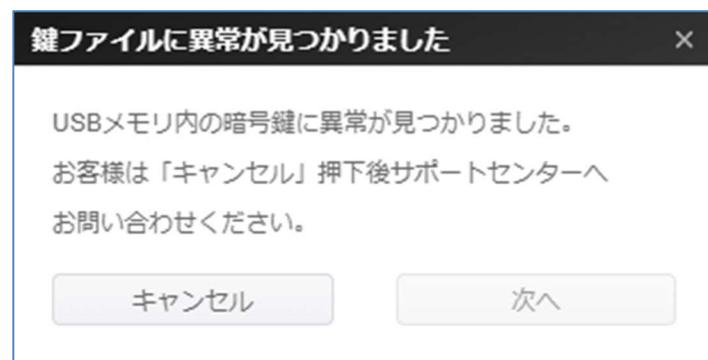
### RAID/USBHDD が復号出来ない

#### RAID 暗号の復号処理失敗

- ① USB メモリが挿入されていない場合、WebUI 上に以下のポップアップの表示とアラートメールが送信されます。画面の表示の通り、本体前面 USB ポートに標準添付の暗号鍵格納用 USB メモリが実装されているか確認し再起動を実施してください。実装されていない、紛失の際はサポートセンターにお問い合わせください。

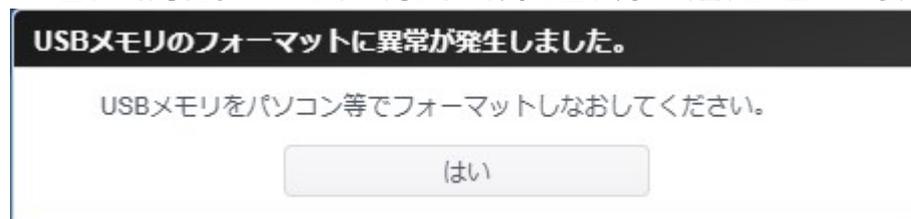


- ② キー破損などの要因で読み取ることができず RAID 暗号化が復号できない場合、WebUI 上に以下のポップアップの表示とアラートメールが送信されます。サポートセンターにお問い合わせください。



本製品では、出荷時暗号鍵を保存する USB メモリは、FAT32 にフォーマットし RAID 暗号鍵を保存し出荷しております。さらに、本製品として暗号鍵を保存する USB メモリを認識するフォーマットは、FAT32 と exFAT としております。通常の利用におきましては、フォーマットが変更になることは考えられませんがなんらか要因により暗号化キーが入っている USB メモリが FAT32 または exFat でフォーマットではなくなった場合 (NTFS など)、WebUI 上に以下のポップアップの表示とアラートメールが送信されます。

**正しい暗号化キーが入っていてもフォーマットが正しくない場合、このエラーが表示され復号化されません。**



以下対処 A～C のどれかを実施してください。

対処 A: USB メモリ内のキーファイル(\*.key)を全てパソコンに保存した上で、32GB 以下の容量の USB メモリの場合は FAT32 に、64GB 以上の USB メモリは exFAT にフォーマットしなおし、パソコンに保存したキーファイルを書き戻して再度本体前面の USB ポートに接続し、再起動を実施してください。

対処 B: パソコンで 32GB 以下の容量の USB メモリの場合は FAT32 に、64GB 以上の USB メモリは exFAT にフォーマットしなおします。フロント USB ポートにつないだあと、本マニュアル第 4 章コントロールパネルのファームウェア設定の「設定を復旧」から Dom または Server を選択してリストアして再起動してください。

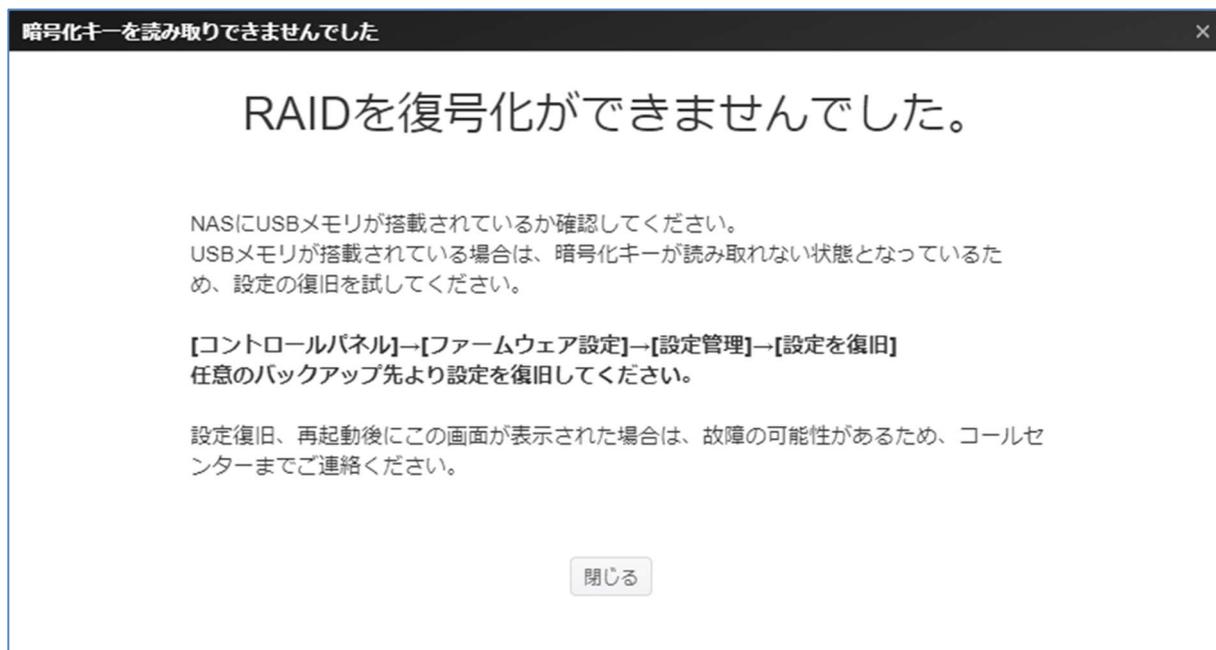


対処 C: パソコンにつないで 32GB 以下の容量の USB メモリの場合は FAT32 に、64GB 以上の USB メモリは exFAT にフォーマットしなおし、フロント USB ポートに接続し、再起動してください。②の状態になりますのでサポートセンターにご連絡いただき、復旧をご依頼ください。

ご不明な点がございましたらサポートセンターにお問い合わせください。

※これらのポップアップ画面は閉じてもすぐに最前面に再度表示されます。再起動を実施する場合は素早く操作を実施し再起動させる必要があります。操作中に再表示されて操作が出来なくなっても閉じるを押下すればまた操作することが可能になります。

以下の画像は、上記①鍵が保存された USB メモリが見つからない、②鍵ファイルに異常が見つかった場合、③USBメモリのフォーマットに異常が見つかった際に一緒に表示されます。この画面が出ている場合は、なんらかの要因で暗号化キーが読み取れなくなっていますので画面の表示に従い設定の復旧を行います。



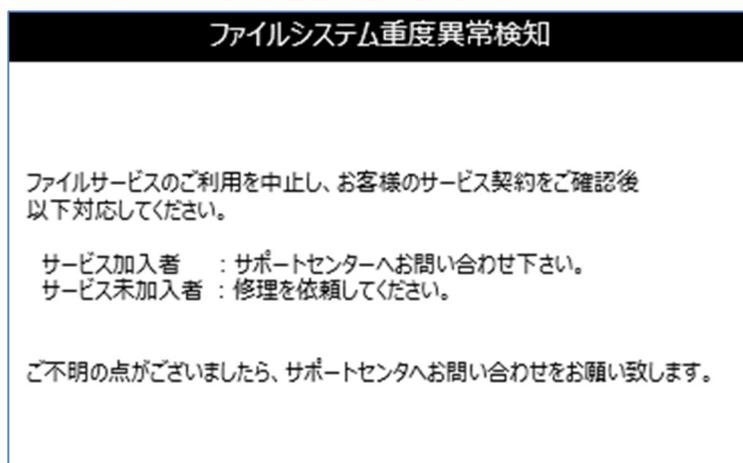
## ファイルシステム修復

### 重度異常検知

本 NAS システムでは定期的に RAID のファイルシステムについて自動チェックを実施し、重度異常が見つかった場合に WebUI 画面やアラートメールでお知らせします。また LCD 画面でもお知らせします。

すみやかにサポートセンターにご連絡いただき、修復の措置をしてください。

WebUI では以下のような画面が表示されます。



WebAdmin 等管理者宛てに以下のようなアラートメールが届きます。

Subject:ERROR([BP\*\*\*\*\*])  
From:通知で設定したメールアドレス  
To:通知で設定したメールアドレス

ファイルシステムの重度異常を検知しました。  
ファイルサービスのご利用を中止し、お客様のサービス契約をご確認後  
以下対応してください。

サービス加入者 : サポートセンターへお問い合わせ下さい。  
サービス未加入者 : 修理を依頼してください。

-----お客様情報-----  
(BP\*\*\*\*\*)  
(serialnumber)  
[IP アドレス(VPN) : IP アドレス]  
[フェイルオーバー利用有無 : No ]  
[アクティブ・スタンバイ区分 : - ]  
-----

LCD 画面では次のように表示されます。

**FILE SYSTEM  
CRITICAL FAIL**

### 修復

サポートセンターにご連絡いただき復旧が開始された場合に WebUI,アラートメール,LCD 画面に以下のように通知されます。修復処理中に中断や再起動、強制シャットダウンなどは絶対に行わないでください。ファイルシステムが破損し、復旧困難な状態に陥ります。

WebUI では以下のような画面が表示されます。

**ファイルシステム修復開始通知**

ファイルシステムの修復処理を開始しました。

処理中の途中中断・再起動・強制シャットダウンは絶対に行わないでください。

ファイルシステムが破損し、復旧困難な状態に陥ります。

WebAdmin 等管理者宛てに以下のようなアラートメールが届きます。

```
Subject:ERROR([BP*****])
From:通知で設定したメールアドレス
To:通知で設定したメールアドレス
ファイルシステムの修復処理を開始しました。
ファイルサービスのご利用を中止し、お客様のサービス契約をご確認後以下対応
してください。
  処理中の途中中断・再起動・強制シャットダウンは絶対に行わないでください。
ファイルシステムが破損し、復旧困難な状態に陥ります。

-----お客様情報-----
(BP*****)
(serialnumber)
[IP アドレス(VPN) : IP アドレス]
[フェイルオーバー利用有無 : No ]
[アクティブ・スタンバイ区分 : - ]
-----
```

LCD 画面では次のように表示されます。

**FILE SYSTEM  
REPAIRING**

### 修復完了

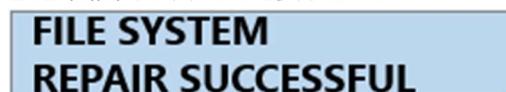
修復処理が成功した場合、WebUI,アラートメール,LCD 画面に以下のように通知されます。

WebUI では以下のような画面が表示されます。

WebAdmin 等管理者宛てに以下のようなアラートメールが届きます。

```
Subject:ERROR([BP*****])
From:通知で設定したメールアドレス
To:通知で設定したメールアドレス
ファイルシステムの修復処理を完了しました。
再起動後もエラーが改善せずファイルサービスご利用不可の場合は、
サポートセンターへの問い合わせをお願い致します。
再起動後ファイルサービスをご利用可能になった場合には
設定解除されている以下設定を手動にて有効化してください。
  システムフェイルオーバー
以下のサービスは自動で再開されるため、次回のスケジュールの周期より実行されます。
クラウドバックアップ
ローカルバックアップ
スナップショット
HDD ヘルスマネジメント
ClamAV の定義ファイル更新・スキャン
-----お客様情報-----
(BP*****)
(serialnumber)
[IP アドレス(VPN) : IP アドレス]
[フェイルオーバー利用有無 : No ]
[アクティブ・スタンバイ区分 : - ]
-----
```

LCD 画面では次のように表示されます。

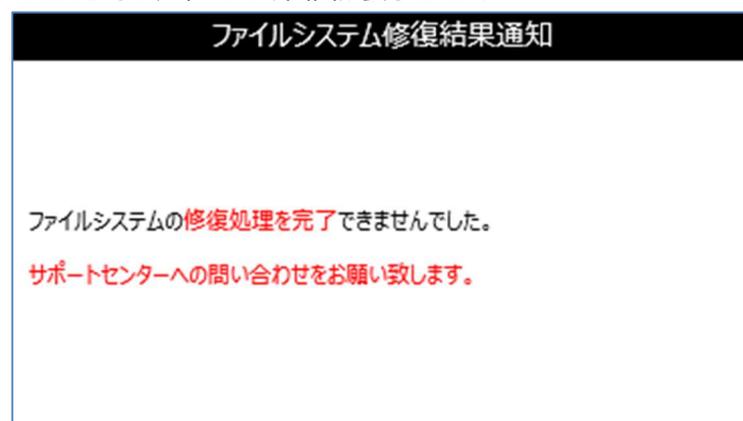


**FILE SYSTEM  
REPAIR SUCCESSFUL**

### 修復処理失敗時

修復処理が完了しなかった場合は、アラートメール、LCD 画面に以下のように通知されます。

WebUI では以下のような画面が表示されます。



**ファイルシステム修復結果通知**

ファイルシステムの修復処理を完了できませんでした。  
サポートセンターへの問い合わせをお願い致します。

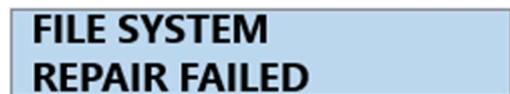
WebAdmin 等管理者宛てに以下のようなアラートメールが届きます。

```

Subject:ERROR([BP*****])
From:通知で設定したメールアドレス
To:通知で設定したメールアドレス
ファイルシステムの修復処理を完了できませんでした。
サポートセンターへの問い合わせをお願い致します。
ファイルサービスのご利用を中止し、お客様のサービス契約をご確認後
以下対応してください。
故障状態：ファイルシステム修復処理失敗、対応：交換必要あり、交換部位：筐体
一式(データ復旧要)
-----お客様情報-----
(BP*****)
(serialnumber)
[IP アドレス(VPN)：IP アドレス]
[フェイルオーバー利用有無：No ]
[アクティブ・スタンバイ区分：- ]
-----

```

LCD 画面では次のように表示されます。



※Fail の場合は対処するまで点灯し続けますのでサポートセンターにお問い合わせください。

それぞれシステムログ、アラートメールは以下のような表示となります。

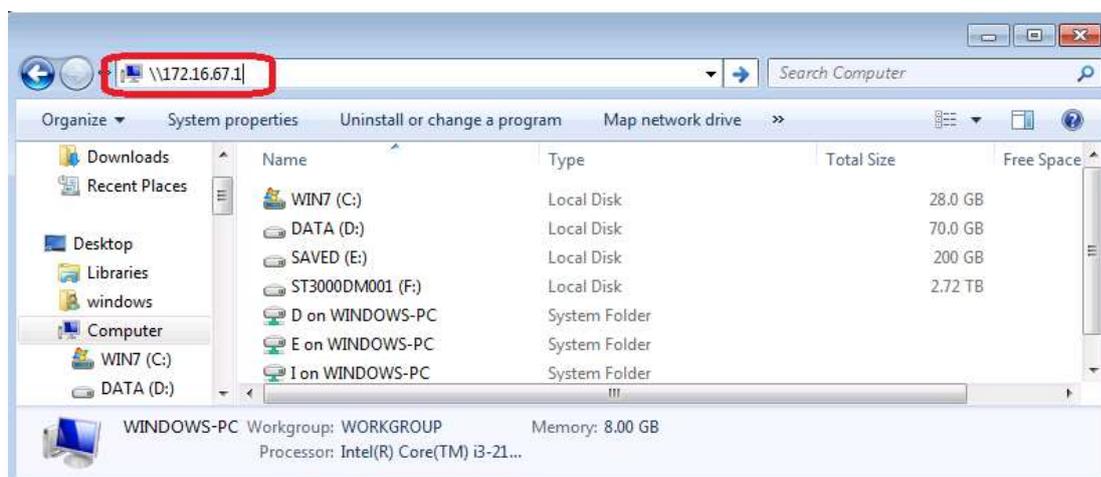
トリガー	レベル	イベントログ
NAS に暗号鍵格納の USB メモリが接続されていないとき 1	ERROR	暗号鍵格納の USB メモリが見つかりませんでした。
NAS に暗号鍵格納の USB メモリが接続されていないとき 2	ERROR	(アラートメール) 本体正面の USB ポートに標準添付の暗号鍵格納用 USB メモリが正しく実装されていません。  暗号鍵格納用 USB メモリの実装を確認し、再起動してください。
USB メモリ内の RAID 暗号鍵に異常が見つかったとき	ERROR	USB メモリ内の RAID 暗号鍵に異常が見つかりました。

USB メモリ内の USBHDD 暗号鍵に異常が見つかったとき	ERROR	USB メモリ内の USBHDD 暗号鍵に異常が見つかりました
USB メモリ内に RAID 暗号鍵の復元処理を開始するとき	ERROR	USB メモリ内に RAID 暗号鍵を復元します。
USB メモリ内に USBHDD 暗号鍵の復元処理を開始するとき	ERROR	USB メモリ内に USBHDD 暗号鍵を復元します。
USB メモリ内への RAID 暗号鍵の復元が完了したとき	ERROR	USB メモリ内への RAID 暗号鍵の復元が完了しました。
USB メモリ内への USBHDD 暗号鍵の復元が完了したとき	ERROR	USB メモリ内への USBHDD 暗号鍵の復元が完了しました。
USB メモリ内への RAID 暗号鍵の復元が失敗したとき	ERROR	USB メモリ内への RAID 暗号鍵の復元ができませんでした。
USB メモリ内への USBHDD 暗号鍵の復元が失敗したとき	ERROR	USB メモリ内への USBHDD 暗号鍵の復元ができませんでした。
ファイルシステム重度異常検出時(ファイルシステムの修復必要時)1	ERROR	ファイルシステムの重度異常を検知しました。
ファイルシステム重度異常検出時 (FileSystem の修復必要時)2	ERROR	(アラートメール) ファイルサービスのご利用を中止し、お客様のサービス契約をご確認後 以下対応してください。  サービス加入者 : サポートセンターへお問い合わせ下さい。 サービス未加入者 : 修理を依頼してください。
ファイルシステムの修復処理開始時 1	ERROR	ファイルシステムの修復処理を開始しました。
ファイルシステムの修復処理開始時 2	ERROR	(アラートメール) 処理中の途中中断・再起動・強制シャットダウンは絶対に行わないでください。 ファイルシステムが破損し、復旧困難な状態に陥ります。
ファイルシステムの修復処理失敗時 1	ERROR	ファイルシステムの修復処理が完了できませんでした。

<p>ファイルシステムの修復処理失敗時 2</p>	<p>ERROR</p>	<p>(アラートメール) サポートセンターへの問い合わせをお願い致します。 故障状態：ファイルシステム復旧失敗、対応：交換必要あり、交換部位：筐体一式(データ復旧要)</p>
<p>ファイルシステムの修復処理成功時 1</p>	<p>ERROR</p>	<p>ファイルシステムの修復処理が完了しました。</p>
<p>ファイルシステムの修復処理成功時 2</p>	<p>ERROR</p>	<p>(アラートメール) 再起動後もエラーが改善せずファイルサービスご利用不可の場合は、サポートセンターへの問い合わせをお願い致します。</p> <p>再起動後ファイルサービスをご利用可能になった場合には 設定解除されている以下設定を手動にて有効化してください。</p> <p>システムフェイルオーバー</p> <p>以下のサービスは自動で再開されるため、次のスケジュールの周期より実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドバックアップ</li> <li>ローカルバックアップ</li> <li>スナップショット</li> <li>HDD ヘルスマネジメント</li> <li>ClamAV の定義ファイル更新・スキャン</li> </ul>
<p>NAS 起動時に NAS 未フォーマットの USB デバイスが接続されていた場合</p>	<p>ERROR</p>	<p>未フォーマットの USB デバイスが接続されています。</p>

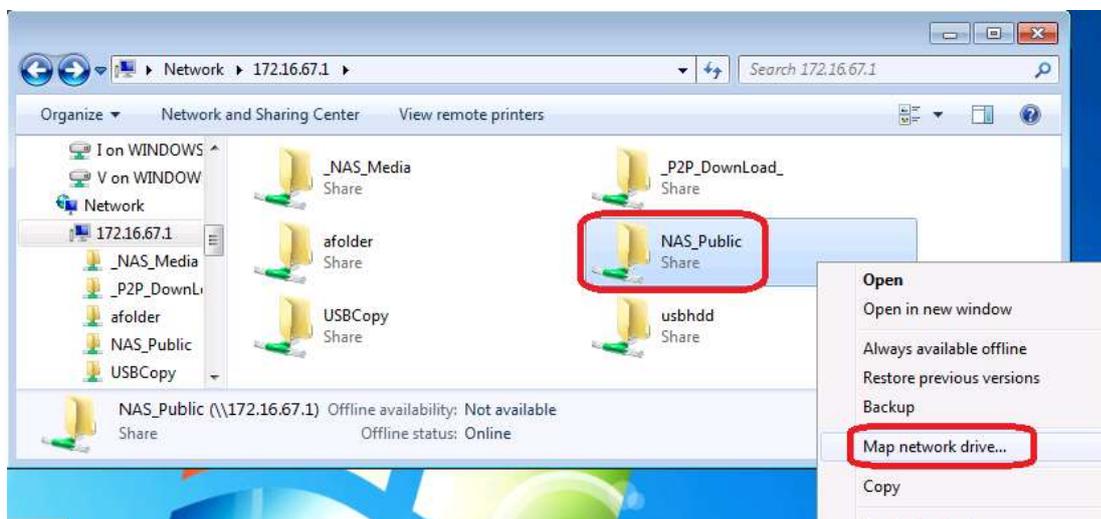
## Windows から 本製品 にアクセスしたい

Windows から 本製品にアクセスする迅速な方法は、本製品の IP が 172.16.67.1 である場合、本製品の共有フォルダーにアクセスするために、ファイルエクスプローラに [¥¥172.16.67.1](#) を入力することです。



## 関連するログインユーザーアカウントを用いる共有フォルダーへアクセスしたい

オープン許可共有フォルダー (PUBLIC = YES) である場合は、マウスの右ボタンを押下して、ネットワークドライブをマッピングします。



非公開 ACL 共有フォルダー (PUBLIC = NO) である場合は、本製品のユーザーデータベース上で作成され、権限が付与されたユーザーアカウントおよびパスワードを入力する必要があります。

警告: また、Windows は、自動的に接続アカウントおよびパスワードを保存します。



## アクセスできない場合には

ファイルサービスの Samba サービスが無効になっていないか確認してください。本製品の初期設定は Samba ファイルサービス有効、SMB min2 max3 となっています。Windows10 の標準設定は SMB 1 無効、SMB2、SMB3 が有効となっています。

### Windowsファイルサービス(Samba)

Sambaサービスを有効にする

詳細 ▶

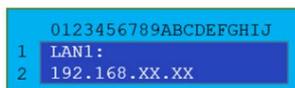
**一般設定**

- ファイルアクセスキャッシュ
- 匿名ログインの制限
- ネイティブモード
- 信頼できるドメインの許可

SMB Min プロトコル	2 ▼
SMB Max プロトコル	3 ▼
SMB Encryption (SMB3)	自動 ▼
SMB暗号化を指定します	
ブロックサイズ	4096 ▼
サーバーサイニング	自動 ▼
LDAPのサポートポリシー	Sign ▼

ソフトウェアファイアウォール（例：ノートンインターネットセキュリティ）を使用しており、本製品の接続に問題がある場合は、次の手順を試すことができます：

1. システムトレイ上の **NIS** アイコンをダブルクリックし、**パーソナルファイアウォール**を構成します。
2. **本製品正面の LCM** で、本製品の IP アドレスを確認します。



3. ネットワークページで、手動で本製品の IP アドレス（つまり、192.168.1.110）を信頼できるリストに追加します。

## ファイル編集できない場合は

システムの利用容量 100%となっている可能性があります。

この場合、ファイルアクセスが読み取り専用となりますので、ファイルセンター等にてファイル等削除を行い容量を減らしてください。

## 損傷したハードディスクドライブを交換したい

RAID 1 または 5 を使用している場合は、システムの自動データ復旧機能を利用して安全にデータを維持しながら、本製品の損傷したハードディスクドライブを簡単に交換することができます。

### RAID 再構成のログ表示

RAID1・RAID5 双方 HDD1 本故障までは RAID 再構成結果として、(「完了しました。若しくは「失敗しました。」)を出力しますが、2 本以上の全数故障発生時はこの RAID 再構成の結果を出力しません。

### ハードディスクドライブの損傷

1 台のハードディスクドライブが損傷し、RAID ボリューム内のデータが破損している場合、システムは状態を通知するピープ音を鳴らします。

### ハードディスクドライブの交換

本製品のハードディスクドライブを交換するには:

1. 損傷したハードディスクドライブがあるトレイを取り出します。
2. 損傷したハードディスクドライブのネジを外してトレイから取り外します。
3. トレイに新しいハードディスクドライブをスライドさせ、ネジを締めます。
4. 所定の位置にカチッと収まるまで、本製品にハードディスクトレイを挿入します。必要があれば鍵でロックします。
5. HDD にアクセスしているとき、LED が緑色に点滅します。

#### 注

- 電源を OFF にしてからの交換では、正常に RAID 構築が行われないため、ホットプラグ（電源がオンの状態）にて交換してください。

### RAID の自動リビルド

本製品は RAID 1 または RAID 5 で構築されています。エラーが検出されたときは、自動リビルド機能が動作します。

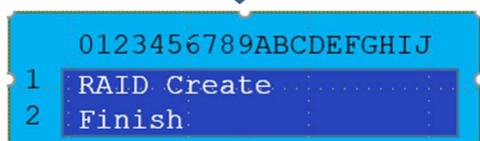
1. ハードディスクドライブに障害が発生したとき、システムは、ピープ音を鳴らし、および/または、メール通知を指定した受信機に送信します。
2. 故障したハードディスクドライブを交換するために、上記の手順に従ってください。
3. システムは自動的に新しいハードディスクドライブを認識し、ハードディスクドライブがクラッシュする前の状態に戻すために、自動リビルドシーケンスを開始します。

## LCM RAID ビルド/リビルド進捗状況表示

本製品は LCM ディスプレイにおいて RAID ボリュームの作製、ビルド/リビルドの表示機能があります。この機能により本体でも RAID ボリュームのビルド/リビルドの状況が分かる為、誤って電源を切ってしまうなど HDD のトラブルの原因となる不正なシャットダウンを防ぐことができます。



- ・RAID Create ・RAID Rebuild
- ・進捗状況矢印表示 進捗状況に合わせて矢印の長さで表示。
- ・パーセント表示 0%から始まり 100%まで表示します。



- ・Finish 終了すると Finish と表示されます。
- ・何か LCM ボタンを押すと画面表示が終了、通常のローテーション表示に戻ります。

## 時間と日付の設定がずれている

管理者は、本製品の時間を同期するために NTP サーバーを選択することができます。しかし、本製品が、インターネットにアクセスすることができない場合、時間とタイムゾーンを設定する際に問題が発生することがあります。その場合、以下の手順を踏みます。

1. Web 管理インターフェースにログインします。
2. **地域オプション > 日付/時間**に移動します。
3. **システム時刻設定**で、手動設定にチェックします。
4. **日付、時間およびタイムゾーン**を手動で**日付/時間**から設定します。
5. **適用**を押下します。

また、本製品がインターネットにアクセスすることができ、デフォルトの NTP サーバー ntp.nict.jp を維持する場合は、DNS サーバーが正しく入力され、NTP サーバー名が正常に解決されていることを確認してください。(ネットワーク > ホスト設定 > DNS 設定 を参照してください)

## Web 管理インターフェースの WebAdmin パスワードを忘れてしまった

本体から Web 管理インターフェースへの admin パスワードをリセットすることができます。

1. ◀ボタンを押して LCM パスワードを入力する(初期値:0000)
2. ▲▼を押して Reset Admin Passwd を選択し◀ボタンを押す
3. ▲▼を押して Yes を選択し◀ボタンを押す

## LCM から IP アドレスの設定を変更したい

本体から本製品の IP アドレスを設定することができます。

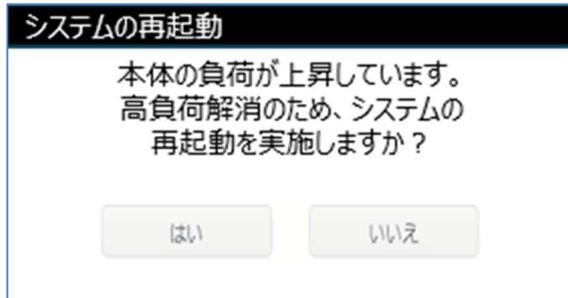
1. **↵** ボタンを押して LCM パスワードを入力します
2. **▲▼** を押して WAN Settings または LAN Settings を選択し **↵** ボタンを押します
3. 最初に IP アドレスを入力する。**▲▼** を押して数字またはピリオドを選択し **↵** で一字入力、**<** を選択した状態で **↵** で一字削除となる。入力し終わったら IP アドレスの末尾で空白を選択し **↵** を長押しすると確定します。
4. 同様にサブネットマスクを入力します
5. ESC ボタンを押すと入力を破棄して設定画面から抜けることができます

## 第 7 章 : トラブルシューティング

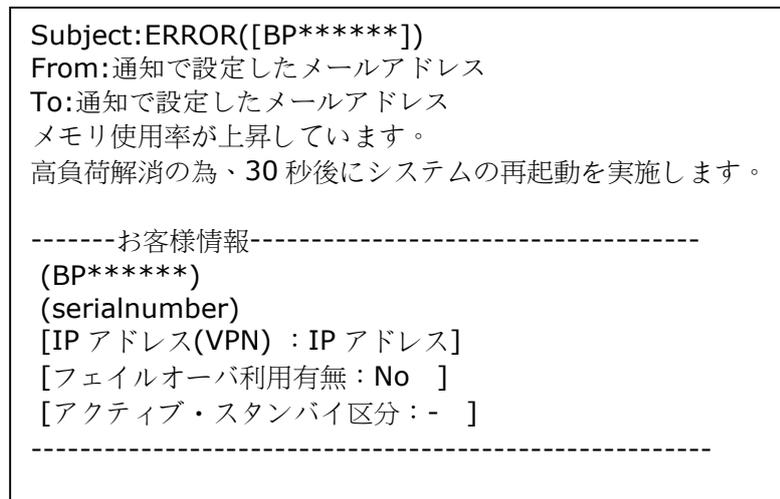
### 高負荷時・メモリ不足時の対策

メモリ容量は、多く実装しておりますがお客様の使い方や様々な機能を同時にどうした場合にメモリ不足となったり CPU 処理が高負荷になることがあります。

高負荷時やメモリの使用率が高くなると NAS は再起動を促すポップアップとアラートメールを送信します。

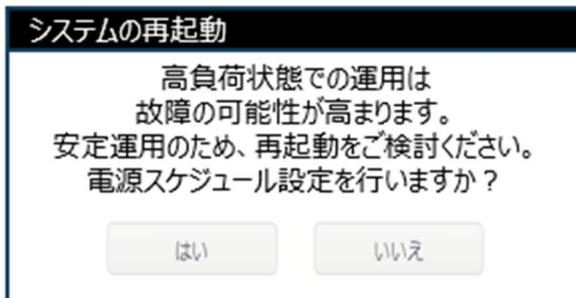


以下のようなアラートメールが送信されます。



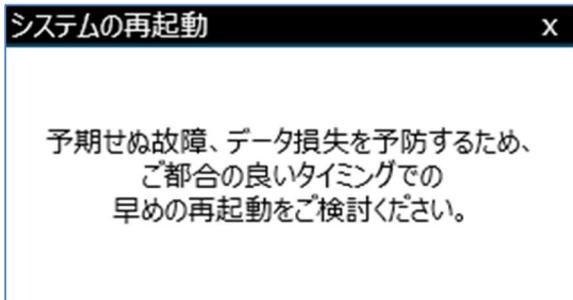
30 秒後に自動的に再起動を実施します。

[いいえ]を押下すると続けて以下のようなポップアップが表示されます。



[はい]を押下すると電源スケジュールの設定に移行するのでご都合のよい再起動時間を設定してください。

[いいえ]を押下すると続けて以下のようなポップアップとアラートメールが送信されます。



Subject:ERROR([BP\*\*\*\*\*])  
From:通知で設定したメールアドレス  
To:通知で設定したメールアドレス  
メモリ使用率が上昇していますが、再起動がスケジュールされませんでした。  
高負荷解消の為、早期の再起動を推奨します。

-----お客様情報-----  
(BP\*\*\*\*\*)  
(serialnumber)  
[IP アドレス(VPN) : IP アドレス]  
[フェイルオーバー利用有無 : No ]  
[アクティブ・スタンバイ区分 : - ]  
-----

以降再度の通知はございませんので、忘れずに早期の再起動を実施してください。

## ネットワーク IP アドレスを忘れた場合

ネットワーク IP アドレスを忘れてシステムに物理的なアクセスができない場合、本製品の LCD パネルをみて LAN 1 で表示される IP アドレスに <https://XXX.XXX.XXX.XXX> でアクセスします。

## アクセス権限設定後もアクセスできない

ファイル共有プロトコルの仕様(SAMBA)として、ファイルサーバー側のアクセス権限を変更した場合、クライアント PC のログオフし、再度ログインしていただく必要があります。

## 更新したはずのファイルが戻っている・保存されていない。

以下手順によりアクセスログのご確認をお願いします。

- 1)WebUI の「コントロールパネル」→「ログと通知」押下→「アクセスログ」→「Windows ファイルサービス」押下します。
- 2)ターゲット(ファイル名)を同一の日付時刻に異なるユーザがアクセスの有無を以下ログ表示内容と対照しご確認ください。

Windows ファイルサービスのログ表示内容

unlink = 削除  
mkdir = フォルダ作成  
rmdir = フォルダ削除  
rename = 名前変更  
open = Read/Write

## 本製品にアクセスできない

【WebAdmin】お客様管理者向け  
まず以下の内容を確認します。

### 1. 本体故障の可能性

電源コード、LAN ケーブルなどが正しく接続されていることを確認します。

電源が入り、WebUI 管理画面に入ることができるか確認します。

電源が入らない⇒**本体故障の可能性**があります。電源コードが原因の場合もあります。サポートセンターに連絡をし、本体交換をします。

電源が入るが WebUI にアクセスできない⇒

(1)他のネットワーク機器に問題がないか確認します⇒ネットワーク自体にトラブルがないか、本製品だけの問題なのかどうかを確認します。

(2)本製品の IP アドレスを確認します⇒アクセスする IP アドレスが変更されていないか確認します。

本体前面の LCD を確認して LAN1 で表示される本製品の IP アドレスを確認し、LAN1 に表示される IP アドレスにアクセスします。

LAN1 になにも表示されない⇒（最初から DHCP で使用していた場合）DHCP による IP アドレスの割り当てがうまくできていないか、本体故障の可能性がります。

（最初から固定 IP で使用していた場合）ソフトウェア（OS 自体、設定）の破損、本体の故障の可能性がります。

本体故障の可能性、ソフトウェアの破損のいずれの場合もサポートセンターに連絡してください。

※また、筐体交換を行った場合、初期状態(DHCP)にて届きますので LCD にて IP アドレスを確認いただくようお願いいたします。

### 2. HDD の故障の可能性

コントロールパネル> ディスクと RAID> ディスクで HDD の状況を確認します。

Support の項目でヘルスマネジメントが黄色になっていないか確認します。

①全て Green：HDD に問題はないようです。

②Yellow が 1 つある：1 台の HDD 障害まではアクセスは問題なくできます。これ自体がアクセスできない理由ではありません。しかしながら、HDD の故障の恐れがあるため、サポートセンターに連絡し、交換の措置をとります。

③**Yellow が複数ある**：RAID ボリュームが対応可能な HDD 障害は 1 台までです。複数台に及んでいる場合これが原因の可能性がります。HDD 障害が複数の場合、RAID によるデータリカバリーができず RAID ボリュームのデータは失われます。サポートセンターに連絡し、HDD の交換を行い、外付け HDD バックアップ、クラウド、またはシステムフェイルオーバーからのデータ復旧を行います。

### 3. RAID 暗号化が復号できない可能性

暗号化キー保存の USB メモリが正しく接続されているか確認してください。通常本体前面の USB ポートに接続されています。この USB メモリが接続されていない、または接続されていても暗号化キーが破損、存在しない場合に再起動がされた場合、RAID の暗号化が復号できず RAID ボリュームにアクセスできなくなります。

① USB メモリがない⇒紛失した際にはご購入が必要です。

② USB メモリがある⇒第 6 章:お困りの時は RAID/USB が復号化出来ないを参照してください。

● 上記①~②いずれの場合もサポートセンターに連絡してください。

#### 4.起動不良

故障している USB デバイス、フォーマット異常の USB デバイス、別の OS システムのブータブルの USB デバイスなどが本体に挿入されている場合に NAS が起動できない場合があります。フロントパネルの LCD に「Starting...」と表示されたまま 5 分以上進まない場合は USB メモリが原因の起動不良の可能性があります。この場合は USB デバイスを一度全て外した状態で電源を入れなおし、問題なく起動が出来るか確認してください。外した状態で起動できる場合は、暗号化キー保存 USB メモリから一つずつ追加していき、どの USB デバイスが起動不良の原因かを確認していきます。

- ① 暗号化キーUSB メモリが原因の場合、PC に接続して、FAT32 か vfat でフォーマット出来るか確認します。フォーマットできない、書き込み禁止状態になっている場合は USB の故障ですのでサポートセンターに連絡してください。
- ② USBHDD が原因の場合、NAS 起動安定したあとに接続して外付けデバイスで表示されるか確認します。外付けデバイスに表示されない場合は故障の可能性があります。サポートセンターに連絡してください。
- ③ その他の関係のない USB については本製品に接続しないようにしてください。

#### 5.WebUI 操作時に通信の途切れ・遅延が生じる場合

お客様のネットワーク環境の確認をお願いします。

1. 本製品を接続している上位ネットワーク機器側のポートの接続先変更
2. 本製品を接続している上位ネットワーク機器側の Duplex の確認と変更
3. 本製品を接続している上位ネットワーク機器と本製品との間のケーブルカテゴリ(CAT5e 以上)の確認と変更
4. 本製品の LAN4 ポート-作業用 PC の直結接続による確認
5. 本製品を接続している上位ネットワーク機器を最上位のネットワーク機器と本製品の直接接続(途中経路の SW-HUB 等のネットワーク機器の取り外し)

### 以上でも解決しない場合

カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

## 補足 A: ブザー・リスト

項目	ブザーの鳴り方	詳細
AC電源供給停止、UPSからの電源供給開始時	5 秒	AC電源からUPS電源に移行
AC電源再開/復旧時	3 秒	AC電源再開/復旧時
シャットダウン開始時	3 秒	
リポート開始時	2 秒	
NAS OS 7 起動完了時	1 秒 + 3x上昇音	
WebUIによるブザー有効時	1 秒	WebUIを使用してブザーを有効にすると、ブザーが1秒間オンになり、ブザーがオンになります
CPU/システムファンスピードエラー時	問題が解決するまで鳴り続けます	
RAID デグレード/損傷時	問題が解決するまで鳴り続けます	
RAIDタスク実行時にリポート/シャットダウンを実施時	3 秒	RAIDがRAIDタスクの作成（フォーマット）/再構築/再同期を実行していて、ユーザが電源をオフにするか再起動したい場合、このブザーがトリガーされます。
LANケーブルを抜いた時	0.1 秒	
LANケーブルを接続した時	0.1 秒	
ネットワークサービス開始時	0.1 秒	
電源オン（BIOS起動）	0.1 秒 x1	

## 補足 B: RAID の基本

### 概略

独立ディスク冗長アレイ (RAID) はデータ・セキュリティと高性能を提供する、複数のハードディスクからなるアレイです。RAID システムは複数のハード・ディスクを同時に利用し、単体性能を超えた高い I/O 性能を実現します。データ・セキュリティは RAID により強化されます。ハード・ディスクの不具合によるデータの損失は、RAID の他のハードディスクから冗長データが再生されることで最小限に抑えられるからです。

### 利点

RAID は、フォルト・トレランスと冗長データ・ストレージにより、I/O 性能を高めデータ・セキュリティを強化します。

### 性能の向上

RAID は複数のハードディスクを同時に利用することで、I/O 性能を飛躍的に高めます。

### データ・セキュリティ

ハード・ディスク・ドライブの不具合は残念ながら、よくあるでき事です。RAID により、ハードディスクの不具合によるデータの損失は防げます。RAID は別のハードディスクドライブが用意することで、ハード・ディスク・ドライブの不具合によるデータ損失を回避することができるからです。ハードディスクドライブの一台が故障した場合、RAID ボリュームは他のハード・ディスク・ドライブに保存されたデータとパリティからデータを再生することができます。

### RAID レベル

本製品は標準 RAID レベル 1、5 をサポートしています。

#### RAID 1 (BizBoxServer「OS Pro」[4])

RAID 1 は、すべてのデータを一方のハード・ディスク・ドライブからもう一方のハード・ディスク・ドライブにミラーリングすることで、完全なデータ・リダンダンシを提供します。

RAID 1 は完全なデータ・セキュリティという点では優れています。

#### RAID 5 (BizBoxServer「OS Pro」[8]/[12])

RAID 5 の提供するデータ・セキュリティは、同時に多くの小さな I/O トランザクションを実行するネットワーク、またオフィス・オートメーションやオンライン・カスタマ・サービスのよう、データ・セキュリティを必要とするアプリケーションに最も適しています。読取り要求が高く、書込み要求の低いアプリケーションにも使用します。

RAID 5 にはバイト・レベルのディスク・ストライピングがあり、パリティ情報は複数のハード・ディスク・ドライブに書き込まれます。ハード・ディスクが故障した場合、システムは他の各ハード・ディスクに保存されたパリティを使用してすべての失われた情報を再生します。

## 補足 C: システムフェイルオーバーQ&A

Q1. 本製品のシステムフェイルオーバーとはどういうものですか？

A1. 同じ本製品(同じモデル、HDD 同容量、同一ファームウェアバージョン)を2台用意し、1台をアクティブ機、もう1台をスタンバイ機とします。本製品同士は LAN3 ポートでダイレクトに LAN ケーブルで結ばれお互いに信号を常時だしハートビート(死活管理)により監視しています。

2台の本製品に共通なバーチャル IP を設定して普段はそこにアクセスしてファイルを保存したり設定したりします。バーチャル IP への操作は全てアクティブ機に転送されます。

通常夜間などの本製品を使用していない時間帯にアクティブ機からスタンバイ機にデータが送られ同期します。

スタンバイ機はアクティブ機のクローンというわけです。

もし何かトラブルが起きアクティブ機がダウンしてしまった場合、スタンバイ機はアクティブ機を常時監視しています。

正常動作確認の時間と1回～5回の確認(最短30秒-最長10分)をもってもアクティブ機が復旧しない場合、スタンバイ機がアクティブ機の代理として即座に入れ替わります。バーチャル IP でアクセスしているため、ユーザーはフェイルオーバーによりスタンバイがアクティブに切り替わっていても変わらずバーチャル IP でのアクセスを継続できます。システムフェイルオーバーの最大の特徴はこの即応性にあります。外付け HDD バックアップやクラウドバックアップなど本製品には複数のデータ復旧手段がありますが、どれも一定の復旧時間がかかるため数分程度の時間で代替機を提供できることが特徴となります。(※最後の同期後に、アクティブ機に保存されたデータについてはどの手段でも復旧できません。)

ダウンしたアクティブ機はサポートセンターへ連絡し、本体交換、HDD 交換など必要な復旧措置を行い、現アクティブ機(旧スタンバイ機)をアクティブ機に、復旧した旧アクティブ機をスタンバイ機と役割割りを入れ替えて再設定を行い、再びシステムフェイルオーバーを再構築しなおします。(旧スタンバイ機がアクティブ機の代理中にデータの書き込みが行われ本製品のデータは旧スタンバイ機の方が最新のデータを保有しているため)

そして夜間同期によりスタンバイ機(クローン)として動作します。

この2台体制で本製品はお客様のデータを強力に保護、バックアップいたします。

※再起動、シャットダウン、停電など不測の電源喪失による不正なシャットダウン、ファームウェアのアップデートに伴う再起動など本体自体のトラブルとは言えないフェイル(故障ではないため、故障と認識せずにフェイルオーバーするべきではない事象)により、不必要なシステムフェイルオーバーが起こってしまわないように、再起動などに関係するタイミングでは設定した正常動作確認の時間、間隔とは異なる動作確認間隔(180秒)によって監視、制御されています。

※故障によりフェイルオーバーが発生したときには、サポートセンターへ連絡して交換を行いますが、故障以外で発生する場合もあるのでその場合には、再設定は、お客様自身で実施していただくか、お客様自身で設定ができない場合には、サポートセンターへ連絡し派遣依頼をしてください。

Q2. アクティブ機がダウンした場合はスタンバイ機が代理を務めます。ではスタンバイ機がダウンした場合は？

A2. メインとなる本製品はアクティブ機であり、アクティブ機がスタンバイになることはありません。

スタンバイ機を復旧させ、再度設定し、システムフェイルオーバーを再構築します。

Q3. アクティブ機とスタンバイ機のデータの同期とデータが失われる可能性は？

A3. アクティブ機とスタンバイ機のデータの同期は設定間隔(5分～毎週で設定)で実施されます。

システムフェイルオーバーが発生したタイミングによっては、スタンバイ機への同期ができていないデータは失われます。

また、クラウドバックアップや外付け HDD へのバックアップ対象のデータについても、失われる可能性があります。

## 補足 D: システム LED 表示リスト

項目	ステータスLED状況	説明
システム起動1	LED 消灯	BIOSが起動し、カーネルを読み込み中
システム起動2	白色LED 点滅	カーネルモジュールを読み込み中、SDKを開始
システム起動完了	LED 消灯	システムは起動完了
システムシャットダウン/リブート	白色LED 点滅	システムシャットダウン中またはリブート中
RAIDヘルス	LED 消灯	RAIDヘルスは問題ありません
RAID縮退/損傷	赤色LED 点灯	RAIDは縮退状態または損傷を受けています
RAID再構築	LED 消灯	RAIDは再構築中
RAID容量警告	白色LED 点滅	RAID容量の90%以上を使用しています
ファームウェアアップデート中	白色LED 点滅	ファームウェアをアップデート中

## 補足 E: 通信ポート一覧

提供機能	通信ポート	補足
NAS OS ファームウェア更新用	TCP: 53, 443 UDP: 53	caso-support.s3-ap-northeast-1.amazonaws.com caso-support.s3-ap-northeast-1.amazonaws.com
アプリモジュール更新	TCP: 53, 443 UDP: 53	のつのIPアドレスに対し、左記接続ポートの開放設定をお願い致します。 (上記はs3-(ハイフン)、s3.(ドット)の2つあり各ホストIPアドレスは異なります)
ClamAV(アンチウイルス)	TCP: 53, 443 UDP: 53	
OrbWeb(リモートアクセス)	TCP: 53, 443, 10240, 10241, 10242, 10243 UDP: 53, 10240, 10241, 10242, 10243	XMPP準拠 2022年3月31日にサービス終了しております。
RACA(新リモートアクセス)	TCP: 53, 80, 443	*.upraca.com のIPアドレスに対し、 左記接続ポートの開放設定をお願い致します。
Cloud Backup (Serverバックアップ / NSSバックアップ)	UDP: 53	
コンフィグバックアップ	TCP: 53, 21, 1024-65535 UDP: 53	seqn.securityboss.jpのIPアドレスに対し、 左記接続ポートの開放設定をお願い致します。
契約者-技術サポート窓口間の 監視保守用VPN接続	TCP: 53, 443, 943 UDP: 53, 1194	

・SSLインスペクションなどの設定が有効な場合、上記のポートの対応だけでは解決しない場合もあります。  
 ・UTM等のステートフルインスペクションモード利用によります。  
 ・UTM等のログを確認し、NASから各接続先へのFQDN通信が止められていないかを確認するようにしてください。  
 ・各種FQDNのIPアドレス情報は変更の可能性があります。



3537-7(2025.2)